接ニ返ル可キ命ヲ受ケタリト雖モ又本接ニ離レ他ノ事件ヲ論ス
ル發言者アル時ハ議長ハ此議接ニ付テ會議ノ殘期中之ニ發言ス
ルヿヲ禁ス可キヤ否ノ事ニ付テ衆員ノ存意ヲ問フ可シ但議院ハ
別段評議ヲ爲サスシテ起立ノ方法ヲ用ヒ之ヲ定ム可シ

第六十七條　規則ニ背ク發言者ニ對シテ犯則ノ戒ヲ爲スノ權ハ議
長ノミニ屬ス○凡犯則ノ戒ヲ受ケ之ニ服シタル上誤ナキヲ證セ
ンカ爲メ發言ノ允許ヲ願フ時ハ議長之ニノミ發言ヲ許スヘシ○
同一ノ發言ノ中二度犯則ノ戒ヲ受ケタル發言者アレハ其誤ナキ
ヿヲ證スル爲メ發言ヲ願フニ於テ議長之ニ發言ヲ許シタル後同
一ノ議接ニ付テ其會議ノ殘期中之ニ發言ヲ禁ス可キヤ否ノ事ニ
付テ衆員ノ存意ヲ問フ可シ但議員別段評議ヲ爲サスシテ起立ノ
方法ヲ用ヒ之ヲ定ム可シ

第六十九條　凡議員一名規則ヲ犯ス時ハ議長其名ヲ呼ヒ之ニ對シ
テ犯則ノ戒ヲ爲ス可シ若シ本人之ニ服セスシテ繼テ規則ヲ犯ス
時ハ議長其犯則ノ戒ヲ議事ノ調書ニ記ス可キヿヲ命ス可シ尚又
本人之ニ服セサレハ議院議長ノ建言ニ從ヒ五日ヲ過ク可カラサ
ル時間本人ヲ議事堂ニ入ルヲ禁スルヿヲ別段評議ヲ爲サスシテ
定ム可シ但場合ニ由リテ此決定書ヲ其代議者ヲ任シタル州ノ地
ニ於テ公布ス可キヿモ亦命スルヲ得可シ

第七十條　會議ノ景況擾亂ニ赴キ議長之ヲ鎮定スル能ハサル時ハ
十長已ノ帽子ヲ冠ス若シ擾亂尚止マサル時ハ議長會議ヲ停止セ
ンヿヲ告ク尚擾亂鎮定セサルハ一時間其會議ヲ停止ス可シ但其
時間ニ代議者ハ其各屬スル所ノ局ニ集ル可シ○其時間ヲ經タル
上會議ヲ再行ス可シ然モ擾亂更ニ生スルニ於テハ議長會議ヲ止

メテ之ヲ翌日ニ延期スヲ可シ

第七十一條　議事ノ日順ニ從フヲ可キヲノ論或ハ日順ニ付テノ前後ノ論或ハ本院ノ規則書ニ背クヲニ付テノ論ハ本按ニ先チテ議ス可キ者ニシテ之ヲ發スル者アル時ハ本按ノ議事ヲ當然停止ス可シ○日順ヲ定ムルヲニ付テノ決議ニハ其原由ヲ記ス可カラス○凡何レノ事件ニ付クト雖モ之ヲ議ス可カラサルトノ意見ヲ發シタル時ハ之ヲ本按ニ先チ投票ニ附ス可シ但皇帝ヨリ出タル意見書ニ付テ之ヲ發スルヲ得ス（ケッションプレアブル）

第七十二條　憲法第四十一條ニ從ヒナスヲ得ヘキ內密會議ノ願ハ其之ヲナシタル者ヨリ調印ノ上議長ニ之ヲ呈スヘシ議長之ヲ讀ミ內密會議ヲナスヘキヲヲ告ク且其願ノ旨ヲ議事ノ記錄ニ記セシムヘシ

第七十三條　千八百五十二年二月二日附法律ノ第十一條ニ從ヒ要スル所ノ免許願アル時ハ但現行犯罪アル代議者ヲ民選議院ノ集會時間中訴フルヲ得可キ爲メニハ民選議院ノ免許ヲ要スト記シタル箇條ヲ謂フナリ議長其願ノ旨ノミヲ告ケ然ル後其願書ヲ院內諸局ニ送ル可シ院內諸局ニ於テ委員ヲ任シ此委員ハ其代議者ヲ訴フルヲ許ス可キヤ否ヲ調査ス可シ

第七十四條　議事記錄ノ作文及憲法ノ第四十二條ニ由リ爲ス可キ所ノ摘撮書ノ作リ方ハ民選議院ノ議長ヨリ任シ且ツ免職スルヲ得可キ書記生ニ之ヲ托ス可シ議長自ラ其事務ヲ總理ス可シ

第七十五條　千八百五十二年十二月二十五日附元老院決定書第十三條ニ從ヒ各會議ノ記錄ニハ只民選議院ノ所行ト其決議ノ結局ノミヲ記スナリ議長之ニ調印シ次ノ會議ニ於テ一名ノ書記官之ヲ朗讀ス

第七十六條　憲法第四十二條ニ從ヒ爲ス可キ摘撮書ニハ其會議ニテ發言ヲ爲シタル者ノ姓名幷ニ其發言ノ結局ヲ記ス可シ

第七十七條　議院ノ許可ヲ受ケタル上會議ノ記錄幷ニ前文ニ記シタル決定書ノ第十三條ニ從ヒ編成シタル委員ノ許可ヲ受ケタル上會議ノ摘撮書ハ議長ヨリ調印スル所ノ二箇ノ簿冊ニ之ヲ登記ス可シ

第七十八條　此摘撮書ヲ新聞紙ニ出スヿノ方法ハ議長格別ノ決定ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第七十九條　凡何レノ議員ト雖ヒ前文ノ元老院決定書第十三條ニ從ヒ設ケタル委員ノ許可ヲ受ケタル上其發言シタル演說書ヲ私費ニテ印刷スルヲ得可シ然ヒ此委員ノ許可ハ民選議院ヨリ之ヲ確定セサルヲ得ス但前文ノ規則ニ背キテ演說書ヲ印刷シ販賣スルニ於テハ印刷師ヲ五百「フランク」我二十錢ヨリ五千「フランク」迄ノ罰金ヲ以テ罰シ販賣者ヲ五「フランク」ヨリ五百「フランク」迄ノ罰金ヲ以テ罰ス可シ

第八十條　「ブルボン」ノ宮殿及議長ノ館舍幷ニ總テ之ニ屬スル所ノ家屋及家什ハ是迄ノ如ク民選議院ノ用ニ供ス可キ者トス

第八十一條　民選議院ノ議長ハ議院ノ諸務ヲ總理スルナリ議長ハ其院內ニ住居ス

第八十二條　議長ハ格別ノ決定ヲ以テ院內ノ諸務ノ編成及民選議院ノ費用ニ供スヘキ定額金ノ用方ヲ定ム

第八十三條　議長ハ皇帝ヨリ一年ノ爲メ任スル所ノ會計掛二名ノ輔佐ヲ受ク○會計掛ハ議長ノ決定ニ從ヒ又大藏卿ヨリ爲シタル所ノ定額金ノ傳票ニ基キ總テ人身物品トニ管スル費用拂方ノ手

（デレガシヨン、ド、クレシー）

續ヲ爲スナリ議長ハ己ノ管務ノ權ノ一部ヲ之ニ托スルヲ得可シ

會計掛ハ民選議院ノ館ニ住居ス且給料ヲ受クル者ナリ

第八十四條　民選議院ノ議長ハ院内ノ諸吏ヲ任シ且場合ニ由リテ之ヲ免職ス

第八十五條　毎年集會ノ節院内ノ諸局ヨリ任ス可キ所ノ七名ノ委員ハ民選議院出納方ノ勘定書ヲ正算シ之ヲ調査シタル上其調査ノ結局書ヲ議長ニ呈ス議長其調査書ノ結局ニ隨テ需ムル所ニ隨ヒ之ヲ施行ス

第八十六條　民選議院ノ議長ハ會議ノ取締及館内ノ取締ヲ任セラルヽ者ナリ

第八十七條　凡外人ハ何レノ事ニモ托言シテ議員ノ集會スル場所ニ妄リニ入ル可カラス

第八十八條　凡傍聽人ノ中可否ノ合圖ヲ爲シ或ハ取締ヲ亂ス者アレハ使吏直ニ之レヲ退出シ場合ニ由リテ之レヲ掌管ノ官吏ニ訴フ可シ

第八十九條　何レノ議員ト雖モ民選議院ヨリ許サレタル暇アルニ非レハ他行スルヿヲ得ス○鑑札ハ議長ノ調印ス可キ者ニシテ至急ノ場合ニアルニ非レハ議院ヨリ暇ヲ許シタル後ノミ議長ヨリ之ヲ渡ス可シ

第九十一條　議長ハ決定書ヲ以テ民選議院ノ取締及掌管ノ細務ヲ定ム可シ

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八百五十二年十二月廿五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第十三條　憲法第四十二條ニ記シタル摘撮書ハ之ヲ公ケニ爲ス前

ニ議長及ヒ議院合局ノ長ヨリ集成シタル掛リ官員ニ示ス可シ若シ之ヲ可トスル者ノ數ト非トスル者ノ數ト相均シキ時ハ議長ノ說ヲ以テ決ス可シ

議院ノ席上ニ於テ誦讀ス可キ會議ノ調書ニハ議院ノ所爲及ヒ可否ヲ述フル者ノ數ノミヲ記ス可シ

第十四條　議院ノ員ハ通常ノ集會又ハ臨時ノ集會ノ時間每月二千五百「フランク」ノ俸給ヲ受ク可シ

第十五條　後備兵隊ノ指揮官ハ議員ノ列ニ加ハルヿヲ得可シ○其指揮官現ニ兵役ニ即ク時ハ千八百五十二年十二月一日ノ勅書ノ第五條及ヒ千八百三十九年八月四日ノ法律ノ第三條ニ循ヒ議員ノ職ヲ退キタル者ト看做ス可シ

○佛蘭西　一千八百五十七年七月二十七日ノ元老院決定書

○憲法ノ第三十五條ヲ更改スル千八百五十七年五月二十七日ノ元老院決定書

第一條　憲法ノ第三十五條ハ左ノ如ク之ヲ更改ス

選舉ヲ爲ス者三萬五千人每ニ代理者一員ヲ議院ニ出ス可シ然ヒ一州ニテ選舉ヲ爲ス者ノ餘數一萬七千五百人ヲ過クル時ハ其州ニ於テ更ニ代理者一名ヲ議院ニ出スヿヲ得可シ

第二條　此元老院決定書ニ循ヒ皇帝ノ勅書ヲ以テ各州ニ於テ選舉ス可キ代理者ノ姓名簿ヲ規定ス可シ

○佛蘭西　一千八百五十八年

議院ノ員ニ撰舉ヲ得ント欲スル者投票ヲ始ムル日ヨリ前八日內ニ千八百五十二年十二月二十五日ノ元老院決定書ノ第十六條ニ定タル誓詞ヲ記セシ書ヲ州長ノ官署ニ納ムヘキヿヲ規定シタル千八百五十八年二月十七日ノ元老院決定書

第一條　議院ノ員ニ選擧ヲ得ント欲スル者ハ投票ヲ始ムル日ヨリ前八日内ニ千八百五十二年十二月廿五日ノ元老院決定書ノ第十六條ニ定メタル誓詞ヲ記シ自己ノ姓名ヲ手署シタル書ヲ議員ノ選擧ヲ爲ス州ノ州長ノ官署ノ書記局ニ自ラ納メ又ハ公正ナル証書ヲ以テ任セシ名代人ヲメ之ヲ納メシメサレハ選擧ヲ受ルヿヲ得ス

其書ニハ

余ハ憲法ヲ遵奉シ且皇帝ニ忠節ヲ盡スヿヲ誓フト云フノ語ノミヲ記ス可ク若シ此規則ニ背ク時ハ其書ノ効ナカル可シ

其書ヲ納ムル時ハ其受取書ヲ與フ可シ

第二條　議院ノ員ニ選擧ヲ得ント欲スル者ノ姓名ノ公告檢事ノ官署ニ納ム可キ議院選擧ノ廻帖及ヒ投票ノ分派幷ニ貼附ハ其ノ選擧ヲ得ント欲スル者前條ノ規則ニ循ヒシ後ニ非レハ之ヲ爲ス可ラス前條ノ規則ニ循ハサル前ニ選擧ヲ得ント欲スル者ノ姓名ノ公告、議院選擧ノ廻帖及ヒ投票ノ分派幷ニ貼附ヲ爲ス時ハ千八百四十九年七月廿七日ノ法律第六條ニ記スル所ノ刑ニ處セラル可シ

第三條　議院ノ員ノ選擧ヲ爲ス時間相當ノ定期内ニ此元老院決定書ノ第一條ニ記セシ諸件ヲ行フタル者ハ其姓名書ヲ州長ノ證セシ後之ヲ選擧ノ官署ニ納ム可シ

第四條　此元老院決定書ノ第一條ノ規則ニ循ハサル選擧ヲ得ント欲スル者ノ姓名ヲ記シタル投票ハ其効ナク後ニ投票ノ數ヲ算計スル時之ヲ算入ス可カラス唯之ヲ選擧ノ調書ニ附加ス可シ

○佛國西　一千八百六十六年

○憲法及殊ニ其第四十條第四十一條ヲ更改シタル千八百六十六年七月十八日及二十二日ノ元老院決定書

第三條　千八百五十二年一月十四日ノ憲法ノ第四十條ハ左ノ如ク更改ス

法律ノ議案ヲ取調フル任ヲ受ケタル委員ノ採用セシ法律議案ノ更改書ハ議長ヨリ之ヲ參議官ニ送ル可シ

其委員又ハ參議官ノ採用セサル其更改書ハ議院ニ於テ之ヲ熟思シ更ニ取調ヘシムル爲メ其委員ニ送還ス可シ

若シ其委員其更改書ニ從ヒ議案ヲ改ムル可キヿヲ申立サル時又ハ委員ヨリ申立タル更改書ヲ參議官採用セサル時ハ其議案ノ原本ノミヲ議ス可シ

第四條　議院ノ通常ノ會議ノ時間ヲ三月ニ限定セシ千八百五十二年一月十四日ノ憲法第四十一條ノ規則ハ之ヲ廢ス○但シ皇帝ノ勅命ヲ以テ會議ヲ終フ可キヿヲ言渡ス可シ

議院ノ受ク可キ官俸ハ其會期ノ長短ヲ問ハス通常ノ會議毎ニ一萬二千五百「フランク」タル可シ

臨時ノ會議ノ時ハ千八百五十二年十二月廿五日ノ元老院決定書ノ第十四條ニ記スル所ニ循ヒ其官俸ヲ定ム可シ

○英吉利

夫レ下院ハ國中衆庶ニ代リテ其政ヲ議スル所以ノモノニシテ「ヘヌリー」三世第四十九條ニ因テ初メテ其集會ヲ許シ鄉士或ハ縣ノ名代人若クハ府民或ハ其名代人等會同シテ共ニ其事ヲ商議シタリ一千四百二十九年「ヘヌリー」四世鄉士撰擧ヲ整ヘンカ爲メ定法第四條ヲ立テシヨリ議院ニテ許多ノ定法ヲ立テタリ而シテ其法

出テシ前ハ王令ヲ下シテ撰士幷ニ撰擧ニ逢フ可キ人ノ數及其人ト爲リ等ヲ限制スルヲ得太タ擅横ノ權アリシト又縣撰ノ法ハ則チ府ヨリモ稍正シク其規則モ亦頗ハシカラス各縣ヨリ二人ヲ撰ヘリ而シテ府ノ撰士ヲ定ムルノ法常ニ一ナラス殊ニ合併ノ府ハ古俗舊許及特權等ニ依リ其數大ニ差ヘリ「イドウアード」一世ノ時ヨリ「イドウアード」四世迄其ノ許シヲ受ケタル府撰士ノ數百七十人アリ「ヘヌリー」八世即位ノ時ニ於テ府縣撰士ノ全數百四十七人ニ減シ其頃「ウエールス」ノ名代人加ハリシヨリ撰士ノ數大ニ增シ王政再興迄府ノ撰士益增加セリ是ヨリ前キ議員其撰士ヨリ給料ヲ受ケシト雖モ議員自ラ費用ヲ支ユル習慣トナリシヨリ嘗テ貧ツシテ之ヲ給スル能ハサルヲ以テ名代人ヲ遣ルヲヨリ省レタル舊府再ヒ其權ヲ得ンヲ欲シ「イドウアード」四世ヨリ「チヤールス」一世迄加ハリシ者多クハ府員ナリ「チヤールス」一世第四議會ニ「イングランド」「ウエールス」府縣ヲ除クヨリ議員ヲ遣リシ撰士ノ數二百十人アリ「スチユワルト」家ノ時ニ於テ下院議員ノ全數大約五百人アリ「アーン」女王ノ世ニ當リテ蘇格蘭ヲ合併シ四十五人ヲ加ヘシノミニテ其時ヨリ議員ノ數大ニ變ルヲナシ次ノ一大變ハ一千八百年間ノ初ニ於テ愛爾蘭ヲ合併セシ時ナリ其時ヨリ下院ノ議員愛名代人百人ヲ以テ增シ其後新ニ議員ヲ撰ヲ處ヲ作コシ大學校且ノ如シ議員撰擧ノ權ヲ衆ニ廣ムルニ依テ逐次增加スト雖モ以來下院ノ議員ノ數六百五十內外ニシテ大ニ變ルヲナシ通常改革議案ト稱スル「ウイルヤム」四世第二ノ定法ニ依テ數縣ヲ分チ別ニ議員ヲ撰ハシメ英縣撰士ノ數五十二人ヨリ八十二人ニ增シ縣員ノ全數九十四人ヨリ百五十九人ニ及蘇格蘭及愛縣ノ名代人ハ前ニ同シ此改革

定法ニ據レハ一千八百卅一年ニ於テ人口各二千以上ニシテ共ニ議員百十一人ヲ遣リシ五十二ノ英府全ク議員撰擧ノ權ヲ失ヒ各四千以下アル他ノ三十府名代人二人ノ代ニ一人ヲ遣ルヿト成レリ然ルニ各二萬五千人アル廿二ノ新府三員ヲ遣ルノ權ヲ得又一萬二千人アル他ノ二十新府一員ヲ遣ルヿヲ得而シテ蘇ノ府員十五名ヨリ二十三ニ增シ蘇格蘭合併ノ時定メタル數ヨリ多キヿ八人ナリ一千八百三十二年ノ定法ニ就キ下院議員ノ撰擧大ニ變更セシハ一千八百六十七年及一千八百六十八年ノ改革ナリ「インギランド」ニ於テ此新法最緊要ナルモノハ第三條幷四條ニシテ甲法以テ縣中撰擧ノ法ヲ立テ乙法以テ府中撰擧ノ法ヲ定ムル而シテ第三條ノ定法ニ由テ縣人各「ウヲート」ヲ出ス事ヲ其戶籍ニ記シ其上ニテ左ノ條件ヲ以テ其議員ヲ撰フ可シ

第一　二十一歲以上ニシテ總テ法律上障礙無キ人外人二十一歲以下ノ人狂人寺院ノ救恤ヲ受ケ或ハ死罪ニ坐セラレ若シハ獄ニ繫ル等ニテ法律前故障アル人ニ反シテ云フ

第二　府內住家ヲ持チ或ハ借リ每年七月晦日旦撰擧ヲ受ケタル年ノ十二ケ月間其家ニ居ル人

第三　縣內住居ノ間尋常住人ニ依テ拂フ可キ貧民救恤稅ヲ其所有ノ品ニツキ同ク之ヲ拂フタル人

第四　同年七月二十日前尋常住人ニ依テ拂フヘキ貧民救恤稅ノ封度ヲ以テ同正月五日前其所有品ニツキ同ク之ヲ拂フ可ク其規則ハ左ノ如シ

縣ニ居ヲ分ツテ住ミ而シテ七月晦日前十二ケ月間獨リ其居ヲ借リ同家ニ住ミ其居ハ一家或ハ同家ノ部ニシテ家內諸具ヲ除キ年々一封度以上ノ價スル家ニシテ七月晦日前十二ケ月之ニ住セ

而シテ「ヴチート」ヲ出ス者ト云フヿヲ其戸籍ニ記シタル人但地方ニ於テ一家同居スルヲ以テ「ヴチート」ヲ出スヿヲ戸籍ニ記ス權ヲ失フ者ハ此例ニ非ス

第四條ノ定法ニ由テ府内ノ人各「ヴチート」ヲ出者ト云フヿヲ其戸籍ニ記シ其上ニテ左ノ條件ヲ以テ其議員ヲ定ムヿヲ

第一　二十歳以上ニシテ都テ法律上障碍無シ註解前ニ在リ其生涯或ハ他人ノ生涯若シクハ何等ノ人ノ生涯土地家產ヲ所持スル者ヲ除キ年期ヲ限リテ借リタル土地田產等ヲ所持シ其事ニツキ訴訟起ルトキハ其裁判局ニ於テ捕縛サレ或ハ其爲メ諸稅及諸費ヲ拂ヒ殘ル所尙年々五封度以上ノ價アル地產ヲ所持シ或ハ其爲メニ諸稅及諸費ヲ拂ヒ年々殘ル所尙五封度以上ノ價アル物ヲ元ト定ル約定ニテ其期ノ長短ニ關ラス六十年間以上取リ結ヒ期限未タ終ラス又何等ノ約束ニテ所持スル土地及他ノ財產等ヲ人ニ貸シ或ハ任スルヿヲ得ル人

第二　七月晦日旦撰舉ヲ受ケシ前十二ヶ月間十二封度以上ノ價アル府内ノ土地ヲ所持シ或ハ年期ヲ限リ之ヲ借リタル人

第三　府内住居ノ間其所有品ニツキ窮民救恤ノ稅ヲ拂フタル人

第四　同年十月二十日正月五日前所有品ニツキ窮民救恤ノ稅ヲ拂フタル人〇大ニ議員選擧ノ權ヲ擴充センカ爲メ立テタル一千八百六十八年改革定法ニテ一千八百六十八年及一千八百六十六年ニ於テ「イングランド」「ウエールス」府縣選士ノ全數左ノ如シ

「イングランド」及「ウエールス」ノ撰士	〇一千八百六十八年		
府	百二十二萬零七百十五人	縣	七十九萬千九百十六人

總計二百零一萬二千六百三十一人

一千八百六十六年

府　五十一萬四千零三十六人　縣　五十四萬二千零卅三人

總計百零五萬六千六百五十九人

府增　七十萬零六千六百八十九人　縣增　廿四萬九千二百八十三人　總計九十五萬五千九百七十二人〇此改革定法ニテ「インギランド」及「ウエールス」撰士ノ全數百萬餘ヨリ二百萬ニ增シ之ヲ細カニ言ヘハ百ニ九十分半ノ割合ナリ而シテ之ヲ增ス多クハ府ニアリ其撰士百卅七分ヲ以テ增シ即チ前ヨリ一倍三分ノ一ナリ又縣ニテ增ス數ハ唯四十六分ニシテ即チ府内撰士三分ノ一ナリ〇蘇格蘭及愛爾蘭ノ集會ニ於テ一千八百六十八年議決スル改革定法ハ樞要事件「インギランド」ト大ニ違ヘリ其定法ニ據レハ縣内選舉ノ權ハ都テ二十一歳以上ノ男子ニシテ法律上障碍無ク又困窮ノ餘リ貧民救恤稅ヲ除カレ或ハ其稅ヲ拂フ能ハス若クハ十二ケ月中ニ寺院ノ救恤ヲ受ケタル者ニ非サレハ十二ケ月間家ヲ所持シ或ハ年期ヲ限リ其家屋ヲ借リタル人ニ歸スヘシ又別ニ居ヲ分テ同府ニ住居シ家具ヲ除キ年々十封度以上ノ價アル屋ヲ借リ十二ケ月間獨リ之ヲ有ス且「ヴヲチート」ヲ出ス者ト云フヿヲ戸籍ニ記セシ者ニハ其撰舉ノ權ヲ與フヘク又六ケ月以上居住ノ爲メ費スモノヲ除キ尙五封度ノ價アル家屋ヲ所持スル縣人ヘハ「ヴヲチート」ヲ出スヿヲ許スヘシ又愛爾蘭ノ改革定法ハ縣内撰舉ノヿニツキ更ニ變更ナシ然レトモ「インギランド」ニ於テ定メタル規則ニ應スル人ニシテ四封度ノ價アル家屋居住ノ縣人ハ其權ヲ得ヘシ〇一千八百六十七年幷ニ一

千八百六十八年ノ改革定法中撰舉ニツキ都テ古來ノ法律上須要ノ條件ヲ存セリ其條件ニ據レハ外人二十一歳以下ノ人狂人寺院ノ救恤ヲ受ケ或ハ死罪ニ坐セラレ若クハ獄ニ繫カル、等ノ人ハ「ゾチート」ヲ出スノ權ヲ得ヘカラス○齒米タ二十一ニ滿タサル者議員トナル能ハス租稅證印稅(スタンプ)等ヲ收ムル有司モ亦其撰舉ニ當ルヘカラス又「インギランド」「スコツトランド」「ウエールス」ノ總稱ナリ「インギランド」政府ノ記錄官及合衆王國僧徒羅馬宗(ミニストル)ノ僧侶(マストルヲフロール)政府ノ爲メニ諸物ヲ調達スル人(カプルメントコントラークトル)法令ヲ施行スル官及事務ヲ行フニハ其處ニ歸ラサルヲ得サル地方官等皆其撰舉ニ當ルヘカラス又英蘇ノ貴族ヲ下院ニ選フヘカラス唯愛ノ貴族ノミ其撰舉ヲ受ケ外人及逆罪或ハ死罪ニ坐セラレタル者其撰舉ヲ受クヘカラス下院ノ議員ヲシテ自ラ其行ヲ立テ其志ヲ枉ケサラシメンカ爲メ「アーン」第六條ノ法ニ由テ議員別ニ王ヨリ官職ヲ受ケ利潤ヲ得ハ其席ヲ除キ新令ヲ出シテ他人ヲ選フヿヲ得然レトモ一千七百五年來ノ新官ヲ受ルニ非サレハ再ヒ議員ノ選擧ニ當ルヿヲ得ヘシ是收稅事務宰相ノ賜ニテ名ノミノ官ナル「ナエルテルン」百家ノ管事ヲ受ケ之ヲ辭スルヿ能サル人ヨリ其任ヲ解カンカ爲メナリ○一千八百七十一年ノ集會ニ合衆王國ノ三大部ヨリ議員ヲ遣ルヿ左ノ如シ

「インギランド」及「ウエールス」

百八十七人五十二縣幷ニ「ウハイト」島

三百一人　二百府　五人　三大學校

總計四百九十三人

「スコツトランド」

三十二人　三十三縣　六百十二
二人　四大學校　二十六人　二十二府
總計六十人
「アイルランド」
六十四人　三十二縣　三十九人　三十二府
二人　一大學校
總計百五人
全國總計六百五十八人
一千八百六十九年議會ノ布告ニ云ク方今議員選擧配當ノ法ニ從ヘハ「インギランド」及「ウエールス」ハ四百九十三人「スコットランド」ハ百二十人ヲ遣ルノ定メナリト雖モ若シ人口ノ多寡ニ由テ之ヲ準セハ「インギランド」及「ウエールス」ハ四百六十九人「スコットランド」ハ六十九人「アイルランド」ハ百二十人ヲ遣ルノ定メナルヘシ又兩數ノ中ヲ執リ之ヲ定メ「アイルランド」ハ六十九人ナルヘシ又兩數ノ中ヲ執リ之ヲ定メ「インギランド」及「ウエールス」ハ四百八十二人「スコットランド」ハ八十一人「アイルランド」ハ九十五人ナルヘシ

卷六　凡高祿ノ官人幷帝王ヨリ養老金ヲ賜ル者等ハ下議院ノ議員タルヲ得ス

○獨逸

第二十條　下院（ライクスターグ）ハ秘密ノ投票ニ由リ全國ノ直接ナル撰擧ヲ以テ編制ス○一千八百六十九年五月三十一日ノ撰擧法ノ第五條ニ掲載

シタル改正ヲ實施セラレサル間ハ「バビエール」ハ四十八名「ウイルテンベルグ」ハ十七名「バーデン」ハ十四名「マイヌ」河南ニ在ル「ヘッセン」六名ノ議代士ヲ派出ス故ニ下院議員ノ全員三百八十二名トス第一條ノ原註ニ記タル「アルサス『ロレーヌ』ノ二州ヨリ十五名ノ議員ヲ派出スル故ニ現今九十七名今議員ノ全員ハ三百九十七名トス但北獨逸聯邦ヨリ出ス所ノ二百九十七名ヲ合算ス

第二十一條　官吏ハ下院ニ參入スル爲ニ認准ヲ得ルニ及ハス○下院ノ議員ハ俸給アル職務ヲ帝國或ハ聯邦各國ヨリ命セラレ或ハ帝國及聯邦各國ニ於テ前官ヨリ貴キ官位或ハ多キ俸給アル職務ヲ命セラレタルトキハ該議員ハ下院ニ於テ其職務及投言ノ權ヲ失フ而メ新ナル撰擧ニ由テ下院ニ於テ更ニ其職務ヲ復スルヿヲ得可シ

第二十二條　下院ニ於テ一切ノ取扱フ可キ事ハ公行トス下院ノ集會ニ於テ種々ノ事務ニ關スル眞正ノ記事ニ付其責ニ任セス

第二十三條　下院ハ帝國ニ關係ス可キ事件ニ付キ新法ヲ起卿スルノ權ヲ有ス又ハ下院ニ指出サレタル願書ヲ上院ノ「ライクスカンツレル」ニ送呈スルノ權ヲ有ス

第二十四條　下院ノ立法時間議員ノ任（レギスラツヲールペリヨド）ハ三年トス○此三年ノ時間ヲ謂フ中下院ヲ解散スル爲ニハ上院ノ決定及皇帝ノ許可ヲ必要トス

第二十五條　下院ヲ解散シタル場合ニ於テハ解散シタル日ヨリ六十日ノ間ニ撰擧人ヲ徵集シ九十日ノ間ニ更ニ復タ下院ヲ徵集ス可シ

第二十六條　下院ノ承認ヲ得スシテ下院ノ延會ヲナスノ時間ハ三十日ニ過ク可カラス且下院ノ延會ハ一周會間ニ於テ再スルヿヲ得ス

第二十七條　下院ハ議員タル者ノ權利アルヤ否ヲ審糾シ而シテ之

レカ決定ヲナス下院ハ一ノ規則「ゲシエフツオルドヌン」ヲ云フニ由テ事務ノ規程及取締ノ事ヲ決定シ議長一名副議長數名及書記官數名ヲ撰舉ス

第二十八條　下院ハ全員ノ過半數ヲ以テ事ノ決定ヲナス下院ノ決定ノ効ヲ有スル爲ニ此建國法ニ定タル全員ノ過半數ノ出頭ヲ必要トス下院ニ於テ此國憲ニ據テ帝國ニ干渉セサル事件ヲ決定スル時ハ該事件ニ關係シタル聯邦各國ヨリ派出シタル議員ノミ其投言ヲナス可シ

第二十九條　下院ノ議員ハ全國民ノ總代タリ或ハ囑託及命令ヲ以テ之ヲ强ヒラルヽヿヲ得ス

第三十條　下院ノ何レノ議員ニテモ其投言職務及說話ノ爲ニ裁判所ニ告訴セラル可カラス或ハ何レノ方法ニテモ集會ノ外責任アルヿナシ

第三十一條　現行罪犯ニ非ス又ハ二十四時間ニ拿捕スルニ非サレハ下院ノ承認ヲ得スシテ下院ノ議員ハ集會ノ時間罰ス可キ事犯ノ爲ニ裁判所ニ提喚セラレ及拿捕セラルヽヿヲ得ス○要償ノ爲ニ議員ヲ拿捕スルニ於テモ之ト同一ノ承認ヲ必要トス○下院ノ議員ニ對スル治罪及審判ニ付テノ禁錮及民事ニ付テノ禁錮ハ下院ノ求メニ因テ其集會ノ時間之ヲ停止スルヿヲ得ヘシ

第三十二條　下院ノ議員ハ議員タルニ由テ官俸及償額ヲ受クルヿヲ得ス

○普魯西

第六十九條　下院ハ民選議員三百五十二人ヲ以テ構成ス○選區ハ

法章之ヲ定ム代議士ヲ撰フ爲ニ地方ヲ區分ス之ヲ選區ト云一選區代議士一人或ハ二人或ハ三人ヲ選フ千八百六十年六月二十七日ノ法ニ地方固有ノ區ヲ云普魯西或ハ定テ百七十六區トス○選區ハ一區全國三百二十六區ヲ得數區ヲ以テ成ル

第七十條　凡滿周廿四歲以上ノ普魯西國民ハ其住ム所及邑會議員ヲ撰フノ權力ヲ有スル所ノ本邑ノ初級選舉人タリ撰舉法分テ二級撰舉人ハ凡二十四歲以上ニシテ民權ヲ享有シ六月以上本邑ニ住ミ而シテ養貧料ヲ受ケサル者皆上級撰總人ヲ推撰スルニ預カル一名公撰人是ナリ其一上級撰舉人ハ公撰人ノ推撰ヲ受ケテ國會議士ヲ撰拔スルノ任ニ居ル者是ナリ平民ヲ初級撰舉人トシテ以テ上級撰舉人ヲ撰ヒ上級撰舉ノ權アル者ハ一年以上本邑ニ住ミ家宅若クハ家業アリテ○邑會撰舉ヲ欠カサル者是ナリ

○邑會ニ於テハ衆邑ニ撰舉ノ權ヲ兼ヌル者ト云ヒ國會公選ニ於テハ特ニ一邑ニ止マル彼邑會ノ例ヲ引テ衆邑ニ跨リ此ニ投票スルヿヲ得ス

第七十一條　民口二百五十ノ爲ニ一ノ撰舉人ヲ撰フヿヲ云○二百五十口ゴトニ一區ヲ成スニ非ス即チ一區ノ出ス所ノ撰舉人ヲシテ二百五十口ニシテ一人ヲ得ルノ比例ニ依ラシ

ムルナリ一區ハ撰舉人六人ヲ得ヘキノ戶口ヲ要ス全國大抵七萬三千人ノ撰舉人ヲ得ヘシ(ストランツ氏ニ據ル)公撰人即チ撰舉ハ其直稅ニ從ヒ各部稅額均等ナラシメ分テ三部トナス撰舉人ヲ撰フ爲ノ一選區ノ初撰舉人ヲ分テ三部トス各人ノ貧富ニ視ヘ撰舉ノ權强弱アラシメント欲スルナリ稅額全數ヲ算スルノ法ハ先全數ヲ得サレハ以テ三部ヲ分ツヘカラス

甲若一邑自ラ一選區ヲ成ス時ハ邑コトニ算ス此選區ハ上級撰舉人ヲ撰フ爲ノ選區ニシテ第六十九條ニ謂所ノ選區ニアラス

乙若數邑合セテ一選區ヲ成ス時ハ區コトニ算ス

第一部ハ最富ノ民ヲ合セ稅額全數三分ノ一ヲ得ルニ至ル

第二部ハ次等ノ民ヲ合セ稅額全數三分ノ一ヲ得ルニ至ル

第三部ハ下等ノ民ヲ合セ稅額全數三分ノ一ヲ得ルニ至ル

每部各其撰舉人上級撰舉人ヲ撰フ即チ撰舉人全數ノ三分ノ一ヲ撰フ故ニ公撰人ノ上級撰舉人ヲ撰フハ選區ヲ以テスレハ戶口ニ比率シ各部ヲ以テスレハ稅數ニ比率ス戶口ト稅數ト互ニ經緯ヲ爲ス

數部合シテ一ノ選擧會ヲ結フヿヲ得但公選人五百員ヲ踰ユルヿヲ得ル多衆事ヲ滋スヲ恐ルヽナリ○每部ヨリ出ス撰擧人擧人上級撰ハ本選區中貫屬ノ人ニ取ル分部ニ拘ラス本選區中ノ貫屬ニ在レハ甲部ヨリ乙部ノ人ヲ撰フモ亦妨ケナキヲ云

第七十二條　代議士ハ上級撰擧人ヨリ之ヲ撰派ス第七十條第七十一條ハ初級撰擧上級撰擧人ヲ選フヿヲ云此條ハ○民選施行ニ付キ它ノ條規及確稅屠稅ヲ收ムル府市ニ係ルノ條規ハ麥ト肉ノ市稅ヲ納ムル者ハ般庶ノ府市ナリ民選法之ヲ定ム

第七十三條　下院ノ任期ハ三年ト定ム

第八十五條　下院ノ議員ハ國庫ヨリ路費留費ヲ受ク是レ償餉ニシテ俸給ニアラス故ニ僅ニ費ヲ償フノミ○議員ハ之ヲ辭スルヿヲ得ス富ム者ハ廉ニ誇テ貧ヲ恐ルヽナリ者ハ名ヲ失ハンヿヲ

○澳地利

二篇第六條　下院ハ公撰議士二百三員ヲ以テ成ル但各王國各部ニ於テ公選ス可キ議士ノ員數ヲ限ルヿ左ノ如シ

伯閔王國（ボヘーム）	五十四員
塔馬王國（メルマンシー）	五員
牙里西及邏多米里王國（ガリシー　ロドメリー）哥拉可維公國附（クラコビー）	三十八員
安斯河東ノ澳地利部（アンス　アルジュエヒー）	十八員
安斯河西ノ澳地利部	十員
薩耳不爾厄侯國（ザルブール）	三員
土的里亞侯國（スチリー）	十三員
加郎西侯國（カランシー）	五員
「カルニオル」侯國	六員

布哥維納侯國（ヒュコヒーヌ）	五員
默隣部（モラヒヒ、アルクラヒア）	二十二員
上下細勒西亞侯國（シレジー）	六員
的邏爾伯國（チロール）	十員
窩拉爾堡（ボラルベル）	二員
壹士的亞部（イストリー）	二員
廓里西及咯拉日斯加（ゴリシークラシスカ）	二員
得利益府及其屬地（トリスト）	二員

第七條　各州ニ於テ定員ノ代議士ハ各州會議員ノ選擧スル所トス○選擧ハ投選ノ過半數（マジオリテー、アブソルユ）ヲ以テスト可シ但各部、府、鄉（マルボラルオン）ニ設クル州會ノ議員中ヨリ該部、府、鄉ニ配當セル定員ニ過不及ナキ下院ノ代議士ヲ投選スルヲ以テ制トナス○各部、府、鄉選擧區ノ畫域及該區中ヨリ選擧スヘキ代議士員ノ配當ハ州會ノ起議ニ因リ憲法之ヲ定ムルニ非レハ修正スルヿヲ得ス○皇帝ハ特別ノ形情アリテ州會ヨリ下院ニ代議士ヲ派遣スルヿ能ハサルニ際シ部、府、若クハ鄉ニ命令シテ直接選擧（部、府、鄉ノ人民ヲシテ直ニ自ラヲ行ハシムルヿヲ云フ）代議士ヲ投選セシムルヲ得ヘシ○直接選擧（エレクシオンシレクト）ハ各部、府、鄉ノ選擧區ニ定メタル下院代議士ノ員數ニ照シ該區ニ於テ州會議員ノ選擧ニ參與スル人民之ヲ行フヘシ又嗣後設定スヘキ直接選擧及選擧區ノ畫域ニ關スル條則ハ憲法ノ式ニ倣フテ規制スヘシ

第八條　下院ノ代議士ニ扳選セラレタル政府ノ官吏ハ其代議士ノ職ヲ行フタメニ離職（コンジュー）ヲ請フヿヲ要セス

第十八條　各州ヨリ下院ニ派遣スル議士ノ任務ハ新タニ州會議員ヲ召集スルノ日ニ至リテ乃チ廢ス○各州ヨリ派遣スル前任ノ議

士ハ再ヒ其選ニ當ルヿヲ得○議士死去シ身位ヲ失ヒ故障アリテ
久ク議會ニ出席セス職務ヲ退罷シ若クハ之ヲ流遣シタル州會ノ
議員ノ職ヲ止ムル時ハ宜ク之ヲ新選スヘシ

○米利堅

第一條第二節　下院ノ議員ハ二年毎ニ各州ノ人民ヨリ選擧ス可シ
而シテ其各州ニ於テ議員ヲ選フ者ハ各州議政數部ノ官員ヲ選フ
可キ人ニアラサレハ其權力ヲ與フ可カラス
第三節　齡未タ二十五ニ至ラス又合衆國ノ戸籍ニ入リ未タ七年ヲ
經サル者及其選擧ニ當リシ時其州ニ住居セサル者ハ敢テ下院ノ
議員ト爲ス可カラズ
第四節一　各議院ノ人員ハ租稅ノ多寡ニ關スルヲ以テ合衆國中各

州人民ノ多少ニヨツテ之ヲ出スノ差等アルヘシ而メ各州人民ノ
多少ハ「フリーパーソン」自主自由ト云フ義ニテ奴隸等ノ如ク人ニ
奴ノ制大ニ盛ンナルヲ束縛サレサル人ニシテ其比合衆國中賣
以テ之ニ反シテ云フ及十ケ年人ニ使役セラルヽヿヲ約束セン
者ヲ數フ但租稅五分ノ三ヲ拂ハサル「インディヤンス」歐人亞米利
シ前ヨリ住ミ居シ土人ヲ云フヿハ之ヲ除ク可シ加ヲ發見セ
第四節二　各州ノ人口ハ合衆國議員初會ノ後三年ノ內ニ調フヘク
其後ハ臨時出ス所ノ法度ニ從ヒ十年毎ニ之ヲ定ムヘシ而メ議員
ノ數ハ三千人毎ニ一人ヲ出ス可シ然モ一州ニ於テ少クモ一人ハ
必ス欠ク可カラス
第四節三　人口確實ノ調ヲ得サル間ハ「コウハンプシア」州ハ三人「マ
サチユーセット」州ハ八人「ロードアイランド」及「フロビデンスプラ
ンテーション」州ハ一人「コンヲチカツト」州ハ五人「ニウヨーク」州

ハ六人「コウージョルジー」州ハ四人「ペンシルウェニヤ」州ハ八人「デラウェヤ」州ハ一人「メーリーランド」州ハ六人「ヴヂルジニヤ」州ハ六人「ノースカロライナ」州ハ五人「ソースカロライナ」州ハ五人「ジョルジヤ」州ハ三人ヲ選フ可シ

第五節　何州ノ議員ニ於テモ若シ欠官アル時ハ其州ノ行政官再選ノ令ヲ下シ其員ヲ充タシム可シ

第六節　下院ノ議長ハ其議員ニテ之ヲ選フ可ク又「インピーチメント」ノ特權ヲ持ツヘシ有司窃ニ賄賂ヲ納レ或ハ其任ヲ過ル等ノ事アル時之ヲ糺問スルヿヲ云フ

○白耳義

第四十七條　代議士院ハ國民直ニ撰フ所ノ代人ヲ以テ成ル獨乙國ハ國民選舉人ヲ選ヒ選舉人代議士ヲ選フ猶一間ヲ隔ツ白耳義ニ於テハ國民即チ選舉人タリ故ニ直ニ選フト云フ

國民トハ選舉法定ムル所ノ直稅百「フロラン」以下二十「フロラン」以上ノ歲額ヲ納ル、者ニ限ル權ヲ得○下院計百二十四人又儒醫代言ヲ業トスル者ハ選

第四十八條　代議士ノ選ハ法章定ムル所ノ區分ニ依リ地ヲ分テ選舉ノ區ヲ爲ス及法章定ムル所ニ於テ之ヲ行フ區ノ首府ニ於テス

第四十九條　選舉法民口ニ從テ代人ノ數ヲ定ム四萬人一員ノ比例ヲ越ユルヿヲ得ス○選舉法又選舉人タル爲ノ約束刑人貧人ハ選得ス及選舉ノ方法ヲ定ム此選舉法ニ詳ナリ故ニ建國法ニ略ス

第五十條　選ニ當ルヘキ爲ニハ

第一　生レテ白耳義人タルヿ若クハ大歸化ノ詐ヲ受ケタルヿ外國人ヲ以テ大歸化ヲ行フタル者ハ生レテ白耳義人タル者ニ同

第二　私權及政權ヲ享有スルヿ民權ヲ全有スルヿヲ云フ

第三　滿周二十五歲ナル事

第四　白耳義國ニ居住スルヿヲ要ス

其它選ニ當ル爲メニ一ノ約束ヲ望ムヿヲ得ス選ニ當ル爲ニハ貧富ヲ論セス

第五十一條　代議士院ノ議員ハ四年ヲ一期トス○選擧法ニ定メタル次序ニ從ヒ毎二年議員ノ半ヲ更選ス

第五十二條　代議士院ノ各員ハ開會ノ間一月二百「フロラン」ノ償給ヲ受ク○會ヲ開ク所ノ都府ニ住ム者ハ償給ヲ受ケス償給ハ獨リ旅費ニ供スル次序ニ從ヒ毎二年議員ノ半ヲ更選ス

第九十條　代議士院ハ諸執政ヲ論告シテ之ヲ大審院ニ提喚スルノ權ヲ有ス大審院ハ全員合會シテ大審院分テ數局トス今之ヲ裁判スルノ權ヲ專有ス大臣ヲ審判スル專ラ大審院ニ限ル但被害人ヨリ要償ノ私訴犯罪ノ爲ニ損害ヲ受ケタル者民法ノ及執政ノ職務ノ外ニ犯シタル重訟ヲ以テ賠償ヲ要求スルヲ云フ輕罪私罪ハ平民ニ同シ係リ法章ニ定ムヘキ可キトハ未然ノ辭其法未ハ此例ニアラス職務罪ハ國事ニ關カル殊ニ重大トスル故ニ議院論告シテ大審院判決ス職務罪トハ職務ニ付キ犯ス

所越權賊賄及諸違建國法律是ナリ我律ノ所謂公罪ト同カラス

○瑞典

第四十九欵　議院ハ瑞典國人民ノ名代タリ現今ノ法律ニ依テ國中ノ紳庶人等ニ屬スル處ノ權利ト職分ハ向後此議院ノ所有ニ歸スヘシ議院ハ兩局ニ分レ其議員タル者ハ名代人選擧ノ法律ニ照シテ選擧セラルヘシ○萬機ヲ議論スルヿニ當リテ兩局ハ一樣ノ威權アルヘシ○尋常ノ議院ハ現今ノ政体ニ基キテ毎年第一月十五日若シ其日祭日ニ當レハ其翌日ニ集會スヘシ然ルニ國王ハ尋常休會ノ間ニ臨時ノ集會ヲ命スルヿアルヘシ○臨時ノ集會ハ國王特ニ集會ヲ命スル處ノ事務或ハ國王ヨリ出シテ之ニ關係ノヿノミヲ議論スヘシ

第五十款　議院ハ王國ノ都府ニ集會スルヲ要ス然ルニ若シ敵軍進リ來リ或ハ疫病等流行シテ集會スルヿ能ハサルカ我ハ其自由性命ニ妨害アル片ハ例外ナリトス此時機ニ及フ片ハ國王銀行並國債局ノ委員ト商量ノ上ニテ別ニ集會ノ地ヲ定メテ公告スヘシ

第五十二條　議長副議長ハ國王ヨリ命スヘシ

○西班牙

第二十條　代議士院ハ選擧會ノ法律ニ依リ定メタル規程ニ循ヒ命スル所ノ議員ヲ以テ成ル但人口五萬ニ少クトモ代議士一名ヲ出ス（コレジーエ、エレクトヲル）

ヘシ　增補律例第十四條參看

第二十一條　代議士ハ直接投籤法ヲ以テ選擧ス國民直ニ代議士ヲ選ヒ初級選擧人上級選擧人ノ別ナシ且永久之ニ重選セラルヽヿヲ得ヘシ（スクリユタンジレク）

第二十二條　代議士トナルニハ西班牙人ニシテ俗籍ニ入リ僧侶ニ非ル者ヲ云フ齡滿二十五歲ニシテ私有地ヨリ生スル歲入アルヿヲ證明シ又ハ撰擧法ニ定ムル金額ノ直稅ヲ納レ及國法ニ掲クル其他ノ要款ヲ備具スルヲ要ス

第二十三條　凡前條ニ擧ル分限ト要款ヲ備具スル西班牙人ハ何レノ州ニ於テモ代議士ニ撰任セラルヽヿヲ得

第二十四條　代議士ノ任期ハ五ケ年トス

第二十五條　政府若クハ王家ヨリ賜フ所ノ恩賜金又ハ代議士本務外ノ官職（代議士院職制外ノ官職ヲ云フ增補律例第五條參看）俸給アル理事員（コミツセール）若クハ尊稱爵位アル代議士ハ故ヲ其選擧ヲ受クヘシ○此條則ハ執政官ニ選用セラレタル代議士ニ準用セス

第二十六條　國會ハ毎歲集會ス其之ヲ召集シ延期シ及會期ヲ中止

シ或ハ代議士院ヲ解散スル等ノ權ハ國王ニ屬ス（增補律例第六條參看）

第二十七條　國會ハ王祚缺位ノ時又ハ事由アリテ國王政ヲ親ラスルヿ能ハサル時ハ必ス之ヲ召集スヘシ

第二十八條　立法院ハ總テ犯律ヲ正フスル爲ニ其內制ヲ決定シ及議員ノ分限ヲ監査ス又代議士院ハ代議士撰舉ノ當否ヲ決判ス

第二十九條　代議士院ハ其議長副議長及書記官ヲ撰任ス

增補ノ第五條　國會ノ代議士ハ其本務內ノ官職（代議士院職制內ノ官職ヲ云フ蓋シ理事官書記官ノ類是ナリ）ヲ受ル時ト雖モ亦改テ之ヲ撰舉スヘシ

第八條　代議士院ノ前許ナケレハ國憲第四十一條ニ豫定スル代議士ヲ審判スルヿヲ得ス

第十四條　國會ニ出ス代議士ノ選舉人ノ姓名表ハ之ヲ永存スヘシ毎歲改編セス選舉人ノ分限ハ何レノ時機ニ於テモ公行ノ對論人民傍聽スル訟庭ニ於テ原被告人ヲ相對シテ辨論スヲ以テ之ヲ檢査スヘシ

○瑞士

第六十九條　列邦議會ハ列邦ノ代議士四十四員ヲ以テ成ル每邦代議士二員ヲ選命ス分離シタル列邦ハ各半邦ニ於テ代議士一員ヲ選舉ス

第七十條　國議會ノ議員及聯邦行政會員ハ列邦議會ノ代議士ニ兼任スルヿヲ得ス

第七十一條　列邦議會ハ通常期若クハ臨事會期ノ間其員中ヨリ議長副議長各一人ヲ選フ○議長若クハ副議長ハ前回ノ通常會期ノ間議長ニ選マレタル列邦ノ代議士中ヨリ選フヿヲ得ス○同一列邦ノ代議士ハ二回ノ通常會期ノ間引續キテ副議長ノ職ニ任スル

ヿヲ得ス○論議兩立スル時ハ議長ノ說ヲ以テ其取捨ヲ決ス官員選擧ニ於テハ議長モ亦他ノ議員ト均ク投票ス

第七十二條　列邦議會ノ代議士ハ列邦ヨリ償給ヲ受ク

○葡萄牙

第十六條　貴族院ノ議員ハ「端正ナル王國貴臣」ノ名稱ヲ有シ代議士院ノ議員ハ「貴重ナル葡萄牙王國代議士員」ノ名稱ヲ有ス

第三十二條　會期ノ暇時（アンテルソワル）甲ノ會期ヲ閉チテ乙ノ會期ヲ開クニ至ルノ日マテ即チ國會未開ノ時ヲ云フ　國王ハ代議士院ニ其執職ヲ止メシメスシテ之ヲ王國外ニ差遣スルヿヲ得ス但此ハ通常國會若クハ臨時國會召聚ノ時差遣ノ任ヲ被ルニ由リ其出頭ヲ妨クヘキ時機ニ限ルヘシ

第三十三條　國安若クハ國益ニ干涉スル不慮ノ形情アリテ代議士員ニ特務（シツシカン）ヲ命スルヿヲ須要トスル時代議士院ハ之ヲ指令スルヿヲ得ヘシ　增補律例第三條ニ云ク國事ノ爲ニ緊要ナル時機ニ際シ上下各院ハ政府ノ請ニ應シ王國ノ首府ニ於テ服職スル議員ニ該職務（行政務）ノ服行ト立法職ノ兼勤ヲ許スヿヲ得ヘシ○建國ノ法第三十三條ヲ說明スルヿ斯ノ如シ

第三十四條　代議士院ハ公撰ニシテ有期ノ官ナリ

第三十五條　代議士院ハ第一租稅第二點徵ノ件ニ係リ起草ノ權ヲ專有ス

第三十六條　左ノ二件モ亦首トシテ代議士院ニ附スヘシ

第一　往時ノ施政ノ檢査及施政上弊害ノ改正

第二　行法官ヨリ出セル「プロポジシオンスクユシオン」（起議ノ討論）

第三十七條　執政官及參議官ノ劾告ヲ命令スルハ代議士院ノ特任トス

第三十八條　代議士ハ會期ノ間舊議員任期（代議士院ノ任期ヲ四年トスルヿ第十七條ニ見）

ヘタリノ最終會議ニ定メタル金給ヲ受クヘシ及特別ノ決議ヲ以テ往返旅費ヲ受クヘシ

第四十八條　代議士院ニ於テ法律議案ヲ嘉納スル時ハ該院ヨリ左ノ式文ヲ添ヘテ議案ヲ貴族院ニ移ス

「代議士院ハ別冊行法權ノ起議書修正ヲ加ヘ又ハ加フルヿ無クヲ貴族院ニ送移シテ其之ヲ遂成スヘシト酌量ス」

第四十九條　代議士院ニ於テ議案ヲ嘉納セサル時ハ該院ヨリ左ノ詞ニ於テ七名ノ代理員ヲ以テ之ヲ國王ニ奏告ス

「代議士院ハ王ノ國益ニ注意スルノ厚キカ爲ニ感戴スルノ意ヲ國王ニ證憑ス伏メ願クハ其政府ノ起議ヲ延留スルヲ諾センヿヲ」

第五十條　凡代議士院ニ於テ許認スル起議ハ左ノ式文ヲ添テ貴族院ニ移スヘシ

「代議士院ハ別冊ノ起議ヲ貴族院ニ送移シテ其制可ヲ國王ニ奏請スルヲ欲スヘシト酌量ス」

第五十三條　代議士院ハ貴族院ノ起草シタル議案ニ係リ貴族院ニ於テ代議士院ノ議案ヲ議スルト其方法ヲ同フスル條規ニ循ヒ處分スルナリ（謂フハ前條ニ掲ク）

第五十四條　代議士院ハ貴族院ノ增補若クハ改正ヲ許認スルヿヲ拒ミ原案ヲ以テ裨益アリト審定スル時ハ貴族院及代議士院ヨリ平等數ノ議員ヲ拔テ理事官ニ任シ之ヲシテ該案ヲ納ルヘキヤ若クハ斥クヘキヤヲ決定ス其貴族院代議士院ノ增補改正ヲ拒ンテ原案ヲ主張スル時モ亦然リ

第六十三條ヨリ第七十條ニ至ル此八條ヲ廢棄シ千八百五十二年七月五日ノ增補律例第四第五第六第七第八第九條ヲ充補シタリ

增補律例第四條　代議士員ヲ命スルハ直接撰舉ヲ以テス

第五條　凡民權政權ヲ兼有スル葡萄牙國人ハ左件ヲ證明スルニ由ヲ撰擧人トナル

第一　土地、資金、貿易上若クハ工業上ノ利益ヨリ生シ及轉移スヘカラサル官吏司法官ノ俸給ヨリ生スル歲入ノ純益金諸費ヲ引去リタル十萬「レー」貨幣ノ名十萬「レー」六百十二「フラン」ナリ純利ヲ云ヲ有スル者

第二　法律ニ認メタル成年二十五歲ニ至レル者

甲　二十一歲ニシテ左ニ掲クル分限ノ一ヲ有スヘキ者ヲ見做シテ成年トナス

一「ナルドル、サクレー」聖會ノ僧徒

一婚姻シタル男子

一海陸軍士官

一法律ニ準スル大學黌ノ「グラジュエー」得業生

乙　大學黌ノ得業生トナリタル國民ハ總テ「サンスエレクトラル」撰擧人トナルカ爲ニ須ノ保證ヲ爲スヿヲ要セス定稅○要ト定タル納租ノ額

第六條　左ニ擧クル者ハ議員ヲ投撰スルノ權ヲ失フ

第一　雇役スル者但掌簿人商家ノ主管王家ニ奉仕スル者及田地並ニ製造所ノ管守人ハ此限ニアラス

第二　治產ノ禁ヲ受ケタル者及倍審官ノ許認シタル劾告ヲ被リ若クハ終審ノ裁判ヲ受ケタル者

第三　「アッフランシー」奴隸ノ釋放セラレタル者

第七條　凡投撰ノ權ヲ有スル者ハ亦代議士員ニ投撰セラルヽヲ得ヘシ別ニ本住法律ニ認メタル住居獨リ其身ヲ寄住（レジダンス）スルノ地若クハ生產地等ノ要款本邑（ドミシル）ニ幾年以上住居（レジダンス）スルニ非レハ議員ニ投撰セラルヽヲ得サル等ノ制ナキヲ云左ニ擧クル者ヲ設ケス

代議士員ニ撰マルヽヿヲ得ス

第一　歸化シタル外國人

第二　此增補律例第五條ニ擧クル資本ヨリ生スル歲入ノ純益金四十萬「レー」即チ二千四百四十八「フラン」ナリヲ有セサル者若クハ同條ノ乙項ニ掲クル大學黌ノ品級ヲ得サル者

第八條　代議士ヲ投撰スルノ權ヲ有セサル者ハ總テ政府官僚ノ撰擧ニ參與スルヿヲ得ス

第九條　選擧法ハ左ノ條件ニ規定スヘシ

第一　選擧ノ規程及王國ノ人口ニ比率スル代議士員ノ數

第二　代議士ノ職ト兼勤スヘカラサル官職

第三　國民ノ中其公務ヲ服行スル爲ニ代議士員ニ撰マレサル時機

第四　王國大陸ノ諸州王國附近ノ州及海外所屬ノ州ニ於テ撰擧定稅ノ保證ヲナスヘキ方法及規程

第五　撰擧人タルヘキ年齡滿二十五歲ヲ補足シ及撰擧定稅ノ保證ヲ釋サルヘキ大學黌ノ品級

○荷蘭

第七十六條　下院ノ議員ハ王國ヲ區分スル選擧區ニ於テ民權政權ヲ全有シ及地方ノ情形ニ循ヒ選擧法ニ因テ定タル二十「フロラン」以上百六十「フロラン」以下ノ直稅ヲ納ル、成年ノ荷蘭國人之ヲ選擧ス

第七十七條　國會議員ノ數ハ四万五千人ニ一員ノ比例ヲ以テ人口ニ準シテ之ヲ定ム○選擧ノ權ニ係リ遵守スヘキ其他ノ條則ハ選

舉法ヲ以テ定ム

第七十九條　下院ノ議員ニ選擧セラルヽニハ荷蘭國民ニシテ民權政權ヲ全有シ齡滿三十歲ナルヲ要ス

第八十條　數選擧區ニ於テ上院若クハ下院ノ議員ニ選マレタル者又ハ同時ニ兩院ノ議員ニ選マレタル者ハ何レノ選擧ヲ擇ムヤヲ陳述ス

第八十一條　下院ノ議員ハ四歲間其職ニ任ス○下院ハ議員更迭ヲ規定スヘキ順次ニ循ヒ二歲ニトニ其全員ノ半數ヲ更撰ス○前任ノ議員ハ再ビ選ニ當ルヲ得

第八十二條　議員ハ自ラ誓ヒ自ラ欲スル所ニ隨テ公評シ委任狀(コンタール)ヲ受ケス及親ラ公評セントスル處ノ件ヲ其選人ニ稟議セス

第八十三條　議員ハ其任ニ就クニ當リ各奉スル所ノ宗教ノ儀式ニ準シ左ノ誓詞ヲ述ヘ又ハ其ノ約ヲ立ツ

予ハ建國法ニ從順スルヲ誓フ或ハ約ス○故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠センヿヲ或ハ予レ之ヲ約ス

議員ハ左ニ揭クル誓詞ヲ述ヘ又ハ其告白契約ヲ行フノ後ニ右ノ誓約ヲ立ルヿヲ得

「予ハ國會下院ノ議員ニ選擧サルヽカタメニ縱令如何ナル託辭ニ於テスルモ在職若クハ無職ノ人ニ對シ或ハ親ラ或ハ人ニ賴リ苟モ苞苴ヲ行ヒ又ハ之レヲ約セシヿナク且後日此ノ如キノ行事アラサルヘキヲ誓フ或ハ告白ス○予ハ縱令何人ヲ論セス又ハ何ノ託辭アルヲ待タス凡其職事ノ執行ヲ爲シ又ハ爲サヽルカ爲ニ或ハ親ラ或ハ人ニ賴リ苟モ苞苴ヲ受ルヿナキヲ誓フ或ハ約ス故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠センヿヲ或ハ予レ之ヲ告白及之ヲ契約ス

右ノ誓詞又ハ右ノ告白及契約ハ國王ニ對シ又ハ下院ノ會ニ於テ之カタメ國王ノ准允ヲ得タル議長ニ對シ之ヲ述フ

第八十四條　議長ハ下院ヨリ奏上スル應撰人三員ノ姓名表ニ因リ一會期間國王ニ選用シテ其職ニ任ス

第八十五條　議員ハ會期コトニ道路ノ遠近ニ應シ法律ヲ以テ定メタル旅費ヲ領受ス○議員ハ別ニ毎歳二千「フロラン」ノ償給ヲ領受ス○全會期間不在ノ議員ハ其會期ニ於テ右ノ償給ヲ受ケス

第八十六條　上院ノ議員ハ九年在職ス○上院ハ議員更迭ヲ定ムヘキ順次ニ循ヒ三歳コトニ其議員ノ三分一ヲ更撰ス○前任ノ議員ハ直ニ再選ニ當ルヿヲ得第八十二條ハ上院ノ議員ニ準用スヘシ○議員ハ其任ニ就クニ當リ下院ノ議員ノ爲ニ定タル誓詞又ハ告白契約ヲ國王ニ述フ○議員ハ法律ヲ以テ定タル旅費及滯在費ヲ受ク

第八十七條　國王ハ會期間上院ノ議長ヲ撰任ス

○丁抹

第三十條　品行端正ニシテ瑕瑾ナク及國民ノ權利ヲ享ク滿三十歳ニ至ル者ハ下院議員ノ選舉權ヲ有ス然ルニ左ニ記載スル者ハ之ヲ除ク

一　住居ナクシテ人ノ奴僕タル者

一　救助金ヲ受ケ及救助金ノ償却ヲ免レス或ハ自ラ償却セサル者

一　隨意ニ己ノ財産ヲ使用スルヿ能ハサル者

一　撰擧ヲ行フ時一年間本郡及其市街ニ住居セサル者

第三十一條　前條ニ掲載スル所ノ第四項ヲ除クノ外品行端正ニシ

ヲ瑕瑾ナク及國民ノ權利ヲ享ケ滿二十五歳ノ者ハ下院ニ撰擧セラルヽヿヲ得

第三十二條　下院議員ノ數ハ民口一萬六千ニ一員ノ比例トス撰擧ハ法律ニ依テ定タル所ノ各郡ニ於テ之ヲ行ヒ而シテ各郡ハ撰擧ニ應セシヿヲ求ムル者ノ内一員ヲ撰擧ス

第三十三條　下院ノ議員ハ三年間ノ任期ヲ以テ撰擧ス○下院ノ議院ノ議員ハ法律ニ由テ日給ヲ受ク

○伊太利

第三十九條　下院ハ法律ニ定タル選區代議員ヲ撰フ爲ニヨリ派出シタル代議員ヨリ成ル　地方ヲ區分スル者

第四十條　國王ノ支配ヲ受ケ滿卅歳ニシテ政權民權ヲ享ケ法律ノ規程ニ適スル者ニ非サル代議員ハ議院ニ參入ス可カラス

第四十一條　代議員ハ之ヲ派出シタル地方ノ總代ニ非ス全國民ノ總代ナリ○撰擧人ハ一切代議員ニ敎令スルヿヲ禁ス

第四十二條　代議員ノ任期ハ五年トス此年限ノ已ニ終リタル時其任期モ亦從テ消散ス

第四十三條　議長副議長及書記官等ハ一周會ノ始ニ於テ下院ヨリ公撰ス其任期ハ一周會間トス

第四十四條　代議員任期中解職スル時ハ選區ハ代員ヲ撰フ爲ニ速ニ撰擧人ヲ徵集ス可シ

第四十五條　現行罪犯ヲ除クノ外一周會ノ間ハ代議員ヲ拿捕スルヿヲ得ス又下院ノ許可ナクシテ刑法ニ觸タル事件ノ爲ニ之ヲ裁判所ニ提喚ス可カラス

第四十六條　下院ノ一周會間ニ於テ要償ノ爲ニ代議員ニ禁錮ヲ宣告シ捕牒ヲ付ス可カラス一周會ノ前後三周日間モ亦然リトス

第四十七條　下院ハ諸執政ノ論告シ最上等裁判所ニ提喚スルノ權ヲ有ス第三十六條參照

第十　元老及代議士兩院通則　上院　下院

○佛蘭西　一千七百九十三年

第七十五條　行政院ハ民選議院ノ側ニアルヘシ行政官員ハ民選議員ノ集會所ニ入ルヲ得且格段ノ席ヲ有スヘシ

第七十六條　行政院ハ委托サレタル事務ノ執行ニ就テ陳述セント思フ所アルトキハ民選議院ニ之ヲ陳述スルノ權アリ

第七十七條　民選議院ハ行政院ノ存意ヲ聽カント思フトキ行政院官員ノ全部或ハ一部ヲ呼出スヘシ

○佛蘭西　一千七百九十五年

第八十九條　五百員議院ニ於テ草拔至急ナルヿノ公達ヲ爲シタルトキハ老人議院其至急ニ付テノ公達書ノ可否ヲ評議スヘシ

第九十條　老人議院ニ於テ右公達書ヲ評議シ草按至急ナラサルヿヲ決定スルトキハ其草按ノ始末ヲ評議スヘカラス

第百二十四條　兩院ノ編制全ク成リシ上ハ雙方政事使（メッサセーデタア）ヲ以テ相互ニ其旨ヲ報知スヘシ

第百二十五條　兩院各用ニ供スルタメ議院ノ政事使四人ヲ委任スヘシ

第百二十六條　議院ノ政事使ノ役務ハ民選議院ノ法律書及他ノ決定書ヲ督理官ヘ送達シ又一方ノ院ヨリ一方ノ院ヘ之ヲ送達スル役ナリ右ノ爲メ議院ノ公使ハ「ジレクトワール」ノ決議所ヘ入ルノ權ヲ有スルヿナリ且往來ノ節ハ使吏兩人之ニ先導スヘシ

第百二十七條　兩院ノ內孰レノ院モ他院ノ承諾ヲ受ケサレハ六日以上會議ヲ延期スヘカラス

○佛蘭西　一千七百九十九年

第六十九條　元老院民選議院及第一等ノ民選議院ノ議員ト國議院議官及都デ詮議ノ職務ヲ有スル官員ハ自己ノ職務ニ就テ責ヲ任スルヿナカルヘシ

○佛蘭西　一千八百〇二年

第七十七條　元老院ハ民選議院及第一等ノ民選議院ヲ解散スヘキヿヲ決定セシトキハ右兩院ノ議員ヲ盡ク改撰スヘシ

○佛蘭西　一千八百〇四年

第三十七條　元老院及國議院ハ皇帝之ニ上席スルヿナリ皇帝之ニ

上席スルヿ能ハサルトキハ高位大臣ノ内一人ヲ定メ己ノ代ニ之ニ上席セシムヘシ

○佛蘭西　一千八百十四年

第五十四條　諸卿ハ上院或ハ民選議院ノ議員トナルヲ得ヘシ又タ諸卿ハ就レノ院ニモ入ルヲ得ヘキ者ニシテ如シ發言ヲ爲サントスル毎ニ之ヲ必ス聞クヘシ

第五十五條　民選議院ニ於テ諸卿ヲ原告シ之ヲ上院ヘ訴ヘ送ルヲ得ヘシト雖モ諸卿ヲ裁判スルヿハ上院ノミ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第五十六條　諸卿ハ國ニ對シテ叛逆ノ罪ヲ犯シ或ハ强僞收稅ノ罪ヲ犯セシトキノミ之ヲ訴フルヲ得ヘシ且其罪ノ格類及種類ヲ分定シ且之ヲ原告スル方法ヲ定ムヘキ爲メ格段ノ法律ヲ設クヘシ

○佛蘭西　一千八百十五年

第十四條　上院下院ヲ論セス其議員タル者ハ議院ノ一集會ノ時間ニ之ヲ取押フヘカラスト雖モ議員タル者ハ現行犯罪ヲ爲セシトキハ之ヲ取押ヘルヲ得ヘシ尙其議員タル者屬スル所ノ議院ノ格段ノ決定ニ因ラサレハ之ヲ重罪裁判所或ハ輕罪裁判所ヘ訴フヘカラス

第十五條　上院下院ヲ問ハス凡議員タル者ハ本院ノ召會ノ布令ヲ發シタル日ヨリ其閉會後四十日ニ至ル時間ニ負債ヲ拂ハサル所以ヲ以テ之ヲ取押或ハ入牢スヘカラス

第十六條　重輕罪ノヿニ付テハ上院ノ議院ハ法律ニ定メタル法式ニ從テ上院之ヲ裁判スヘシ

第十七條　上院議員ノ役或ハ代議者ノ役ハ計算司ノ役ノ外總テノ役ト之ヲ兼勤スルヲ得ヘシ然ニ已ニ州郡長ノ役ヲ勤メ居ル者ハ其支配スル所ノ州或ハ郡ノ撰立人ヨリ之ヲ撰任スヘカラス

第十八條　皇帝ハ上院下院ヘ諸卿或ハ國議官ヲ出張セシムルヲ得ヘシ右官員ハ其院ニ坐席シ且其協議ニ參加スルト雖ニ如シ其官員ハ出張セシ處ノ院ノ議員タル者ニ非サルトキハ之ニ於テ決議ノ權ヲ受ヘカラス

第十九條　上院ノ議員或ハ代議者タル卿又政府ノ命令ヲ受シニヨリ之ニ坐席スル所ノ卿ハ本院ノ商議ヲ助クヘキ處ノ政府ノ處置ニ付テノ說ヲ述ルヲ得ヘシト雖ニ如シ其說國家ノ便益ヲ害スルカ故ニ發露セサル者ナラハ之ヲ陳フヘカラス

第二十條　上院下院ノ開席ニ來聽ヲ許スヘシト雖ニ場合ニヨリ兩院共內密ノ商議ヲ爲スヲ得ヘシ乃チ上院ナレハ其議員十人之ヲ願フトキ代議者ノ議員ナレハ代議者廿五人之ヲ願フトキ又政府議員ニ事ヲ告ゾトシテ之ヲ願フトキト云場合ナリ然ル處何レノ場合ニモ事ノ商議終リシ上投票ヲ爲シ事ヲ決議スルニハ必ス來聽ヲ許ス處ノ總會議ニ之ヲ爲スヘシ

第二十一條　皇帝ハ代議者ト議員ノ集會時間ヲ延ヘ此集會スヘキ日限ヲ延引シ且此議員ヲ解散スルヲ得ヘシ若シ皇帝之ヲ解散セントスルトキハ之ニ付テ爲シタル公達書ニ新規ノ代議者ヲ撰任スル爲メ撰立人ヲ召會シ且其集會スヘキ日限六ケ月ニ定ムヘシ

第二十二條　上院ハ代議者ノ議員解散シタル後幷ニ代議者ノ集會セサル間ニ集會スヘカラス

第二十三條　凡法律ヲ進言スルヿハ政府ノ權ニ歸スルヿナリ上院

下院ニ於テ政府ノ進言シタル法律ノ草按ニ付テ改正ヲ進言スルヲ得ヘシ若シ政府ハ右改正ノ文意ヲ承諾セサルトキハ兩院共政府ノ進言シタル按文ニ基キ之ニ付テ必ス可否ノ投票ヲ爲スヘシ

第二十四條　上院下院ハ何レノ事件ヲモ差示シ右ニ付テ政府ヨリ己レニ法律ヲ進言スヘキヿヲ請求スルヲ得ヘシ且其法律ニ記載スヘキト思フ處ノヿニ付テ自ラ文面ヲ記作スルヲ得ヘシ但右ハ上院下院ノ中孰レノ院ニモ爲スヲ得ヘキヿナリ

第二十五條　凡上院下院ノ中一院ハ法律議按ノ文面ヲ承諾セシ上之レヲ他院ヘ送ルヘシ如シ此院右文面ヲ承諾スルニ於テハ之ヲ直ニ皇帝ニ呈スヘシ

第二十六條　凡議院ノ決定ヲ請フ處ノ法律議按ニ付テ委員或ハ諸卿ノ爲シタル届書幷ニ上院下院ニ呈スル所ノ勘定書ノ外孰レノ論書モ議院ニテ讀聞スヘカラス

第四十條　諸卿ハ下院之ヲ訴フルヲ得且上院之ヲ裁判ス

第四十一條　凡卿或ハ海陸軍ノ總指令官國外ノ安寧或ハ國名ニ害ヲ蒙ラシメタルニ付テ下院之ヲ訴フルヲ得ヘシ且上院之ヲ裁判ス

第四十二條　前條ノ場合ニ於テ其罪ノ性質ヲ定メ又ハ其之ニ準擬スヘキ刑ヲ定ムルニ上院ノ權ハ無限ナリ

第四十三條　下院ハ卿ヲ訴ヘントスルノ進言ノ評議ヲナスヘキヤ否ヤノヿニ付テ公告ヲナス

第四十四條　右公告ハ搜閣ヲ以テ撰擧シタル六十名ノ委員右訴ノヿニ付テ屆書ヲ出セシ上ナラサレハ之ヲ爲ス能ハス但右委員ハ其設立シタル日ヨリ十日以上ノミ此屆書ヲ出スヘシ

第四十五條　下院ニ於テ右訴ヲ評議スヘキヿヲ公告セシ上ハ其卿ヲ召シ其一件ノ始末ニ付テ卿ニ問フヲ得ヘシト然ル處委員ノ屆書ヲ落手セシ日ヨリ十日後ニ非レハ其卿ヲ召スヘカラス

第四十六條　前條ニ記シタル場合ニ非レハ上院下院ニ於テ省ノ總理ヲ任シタル卿ヲ召スヘカラス

第四十七條　下院ハ卿一人ニ對シテ爲シタル訴ヲ評議スヘキヿヲ公告セシ日ハ捜閲ヲ以テ新ナル委員ヲ設立スヘシ右委員ハ其卿ヲ訴フヘキヤ否ノヿニ付テ屆書ヲ出スヘシ然ル處此委員ハ其設立ノ日ヨリ十日以後ノミ己ノ屆書ヲ出スヘシ

第四十八條　凡テ卿ヲ訴フ可キヲ公告スルヿハ右屆書ヲ讀聞セ且其寫ヲ代議者ヘ配賦セシ日ヨリ十日以上ナラサレハ之ヲ爲スヲ得ス

第四十九條　訴ノ公告ヲ爲セシ上ハ下院議員ノ中ヨリ撰舉シタル名代人五人ヲ任シ之ヲ上院ニ原告人トシテ此訴ヲ爲サシムヘシ

第五十條　千七百九十九年十二月十三日附ノ建國法第八篇第七十五條即チ「國議院ノ決定ニ依ラサレハ政府ノ官員ヲ訴フ可ラス」トノ文ヲ記シタル條ハ格別ナル法律ヲ設ケ之ヲ變改スヘシ

○佛蘭西　一千八百三十年

第二十七條　上院下院ヲ論セス其會席ニ來聽ヲ許スヘシ

第四十二條　國王ハ毎年必ス兩院ヲ召集ス又兩院集會ノ時間ヲ延ハスヲ得ヘキト雖ヒ兩院ノ中下院ノミ解散スルヲ得ヘシ且解散セシ日ヨリ三ケ月間ニ必ス新ノ下院ヲ召集スヘシ

第四十四條　下院ノ集會時間中重罪ノ訴ヲ以テ議員ヲ原告シ之ヲ捕フヘカラス然ルトキハ現行犯罪ノ場合ニ於テ下院ノ承諾ヲ受シ上之ヲ原告スルヲ得ヘシ

第四十五條　上院下院ヲ問ハス人民ハ議院ニ願ヲ出サントスルトキハ必ス書面ノ体裁ヲ用ヒサルヲ得ス願人議院ヘ自ラ願書ヲ持參スルヿハ法律ニ於テ禁スルナリ

第四十六條　諸卿ハ上院或ハ下院ノ議員トナルヲ得ヘシ又就レノ院ニモ入ルヲ得ヘキ者ニシテ如シ發言ヲ爲サントスル毎ニ必ス之ヲ聞クヘシ

第四十七條　下院ニ於テ諸卿ヲ原告シ之ヲ上院ニ送ルヲ得ヘシト雖ドモ諸卿ヲ裁判スルヿハ上院ノミ之ヲ爲スヲ得ヘシ

○佛蘭西　一千八百四十八年

第六十九條　諸卿ハ民選議院ニ入ルヲ得ヘキ者ニシテ發言ノ願ヒヲ爲ス毎ニ必ス其陳述ヲ聽ヘシ尚諸卿ハ已ノ論辨ヲ輔佐スル爲メ共和政治統領ヨリ撰舉スヘキ政府ノ名代人（コンミセール）數人ノ助ケヲ受クルヲ得

○佛蘭西　一千八百五十二年

第九十二條　元老院及民選議院ノ番兵ハ陸軍卿ノ命ヲ受クル者ニシテ陸軍卿其番兵ニ管スルヿヲ元老院ノ議長及民選議院ノ議長トニ謀ルヘシ○集會ノ時間中其兩院ノ議長議事堂ニ赴ク毎ニ敬禮兵ハ之カ爲メ禮ヲ行フヘシ

第六十條　諸執政幷ニ執政ノ代理タル諸官ハ兩院ニ參入ノ權ヲ有シ而シテ發議ヲ願フアル毎ニ議院必ス之ヲ聞クヘシ議院其參入及發議ヲ拒ムヲ○各議院ハ諸執政ノ出頭ヲ請求スルヲ得諸執政出頭スルヲ常トス又議院ヨリ特ニ其三頭ヲ求ムルヲ得○諸執政ハ其議員タルトキヲ除クノ外公評權ヲ有セス投票若クハ起坐若クハ擧手シテ可否ヲ評スルノ權今譯メ公評ノ權トナス

第六十一條　各議院ハ諸執政ノ建國法ヲ犯シ及贓賄及謀反ノ罪ヲ論告スルヲ得○大法院其事ヲ裁決スヘシ○別法此外ニ諸執政ノ任責事件及其糾治刑律ヲ定ムヘシ糾治ノ方法ト科スヘキノ刑條ノ所謂別法諸執政ノ罪件糾治刑律ヲ定ムヘシト云者現ニ猶未定ニ屬シ建國法ノ元則未タ適用スルニ至ラス是立憲政体ノ基礎最要ナル執政ノ任責法普魯西國ニ行ハルヽヿ未タ信スヘカラサルナリ然ルニ此事實際施行セス雖ヒ亦法ニ條章アルヲ以テ執政ノ專横ヲ防制スルニ足ル

第六十二條　立法權ハ王ト兩院ト共同シテ之ヲ行フ王ト兩院ノ諸同ハ新法ヲ發スル毎ニ欠クヘカラスト云フノ議案王ニ出ル者ハ兩院ニ出ル者ハ王ノ制可ヲ要ス若シ互ニ異意アルトキハ以テ法ヲ成スニ足ラス國王制可ノ權各王國皆同シ但制可ヲ拒ムニ罷議ト格議ノ別アリ此條即チ罷議法ヲ用フ格議法トハ議院議決シテ國王制可ヲ拒ミ議院更ニ再議シテ決定スルトキハ仍ホ可ヲ得スト雖ヒ亦法ヲ成スヿヲ得此條ノ所謂國債及官地ノ賣易及歲計ヲ欠クヘカラサル者ト異ナリ○國計ニ係リタル法章ノ議草ハ初メニ下院ニ付シ議ヲ取ルヘシ於テ國王及兩院平等ニ三分ノ勢ヲ有ス但國計ニ至テハ下院ハ上院ニ先チ特ニ重權ヲ握ル人民ハ國計ノ本ナレハナリ○上院ハ之ヲ概可否スヘシ議事法槩可否トハ唯其大意ニ其大意ヲ論シ又每條逐論シテ其全法ヲ可否スルヲ云條可否トハ已ニ可否ハ修改ノ權ナシ故ニ下院ノ條可否スルヿヲ得ルヿヲ云概之ヲ修改スル者ニ讓ルヿト一等

第六十三條　若シ世治ヲ保スル爲ニ或ハ不意ノ凶災保卹ヲ要スル者ニ緊急ノ處置ヲ爲スヲ要シ而シテ兩院遇散シタルトキニ在ルトキハ執政總員ノ任責ヲ以テ下附シタル令條令條國王ノ其建國法ト相反カ

サル者ハ法章ノ力ヲ有スルヿヲ得權リコ議院ノ議決ヲ經ル者ト同ク視ル但建國法ト相反カサル者ニ但兩院ノ次會ニ於テ其令條ニ必ス兩院ノ同議ヲ取ルヘシ

第六十四條　國王幷ニ各院ハ法ヲ起議スルスルヲ云起草發議ノ權ヲ有ス其它ハ起議ノ權ヲ有セス諸執政ト雖モ其議案ヲ草スル者ハ又王ノ名ヲ以テ發起ス兩院ノ一若クハ國王ヨリ斥ケタルルナリ可トセサ法章按ハ其ノ同會ニ於テ再進スルコトヲ得ス次會ヲ待ツヲ云再ヒ進メテ再ヒ斥ケラルヽ者例亦之ニ同シ

第七十五條　任期三年已ニ終ルノ後新ニ議會ヲ撰フ解散ノ時亦同シ任期未タ終ラスシテ王命ヲ以テ解散シタルトキモ亦新ニ撰フ並ニ前任ノ議員再ヒ後任ノ撰ニ當ルヿヲ得

第七十六條　兩院ハ上年十一月ノ初ヨリ次年正月ノ半ニ至ル迄ノ間ニ國王ヨリ每歲徵聚ス其外ニ事アリテ徵聚ヲ要スルニモ亦同シク國王ヨリス戒嚴ヲ布告スルノ類ハ特ニ徵聚ヲ要ス

第七十七條　兩院ノ開閉ハ國王親ラ宣シ或ハ特ニ任シタル一ノ執政ニ由テ之ヲ宣スルヿ兩院合會ニ於テス始ヲ開トシ終ヲ閉トス○兩院ノ徵、開、延、閉ハ皆同時ニ於テス○若シ唯其一院ヲ解散シタルトキハ解散不時它ノ一院ハ固ヨリ延長シテ期ニ屆ルヿヲ得

第七十八條　各院ハ自ラ其議員ノ權任ヲ監査シ撰任狀ヲ檢査スル等其撰擧ニ係リタル爭訟ヲ決ス○各院ハ其事務ノ規則及其紀律ヲ定ム又其議長副議長書記官ヲ撰フ各院○官吏タル者兩院ニ入ル爲ニ議員各治爲職ヲ辭スルヿヲ要セス本官ヲ以テ議員タルヿヲ得執政ニ至テモ亦同シ○若シ代議士タル者新ニ行政部ノ一官ヲ受ケル一ノ權任アル官ヲ云若クハ政府ノ官使ニ入リ權任アラサル官ヲ云若クハ俸給增加ヲ得テ它ノ使用ニ轉スルトキハ舊官吏タリシ者新ニ俸ヲ增シ它ノ官ニ轉スヿヲ恐ルヽナリ而シテ新撰ニ依ルニ非レハ代議士ノ任ニ復スルヿヲ得

ス○何人モ兩院ノ議員ヲ兼ヌルコヲ得ス

第七十九條　兩院ノ會ハ公行トスヲ許ス○議長若クハ議員十八人ノ請求ニ依ルトキハ各院秘會ヲ行フ禁ス其請求ノ可否ヲ議スルモ亦秘會ヲ以テス

第八十條　各院若シ法ニ定タル所ノ過半衆出頭セサルトキハ議決ヲ擧ルヿヲ得ス○各院ハ全務ヲ以テ議決ヲ擧ク但民選法ニ定タル特例ハ限ニアラス議事法全勝アリ優勝アリ全勝ハ全數ノ半ヨリ多キヲ得ルヲ云優勝ハ僅ニ彼ハ此ヨリ多キヲ云民選法ノ特例トハ議長等ヲ撰フニ全勝ヲ得サルトキハ再議ニ優勝ヲ用フルヲ云フ

第八十一條　各院ハ自ラ國王ニ奏疏スルノ權ヲ有ス○何人モ兩院ニ向テ自ラ上言書ヲ付スルヿヲ得ス上言書ヲ議員ニ進ムルニハ得自ラ會中ニ入テ本院ニ付スルヿヲ得ス以テ喧ヲ避ルナリ○各院ハ受取ル所ノ上言書ヲ各執政ニ送付シ書中載スル所ノ訴ニ付キ執政ノ辨說ヲ求ムルヿヲ得

問難ノ權

第八十二條　各院ハ事犯ノ追糾ニ付キ檢察ヲ行フ爲ニ理事員ヲ命スルノ權ヲ有ス檢察ノ權○但兩院ノ追糾ハ大臣ノ犯罪ニ限ル

第八十三條　兩院ノ議員ハ全國人民ノ名代人トス○議員ハ其自由ナル心知ニ從テ公評シ約束及訓條ニ拘束セラルヽヿナシ舊法ニ於テ各地方ヨリ出ル代議士ハ其各地方ノ代人トシテ各地方人民ヨリ委任シタル約束訓條ニ拘束シ自己ノ心ヲ以テ隨意ニ發議可否スルヿヲ能ハス今改メテ凡議員全國ノ代人トシ各地方ニ拘ラス故ニ隨意ニ發議シ地方人民ノ求メニ拘ラス

第八十四條　議員ハ公評ノ爲及院中ニ於テ發議シタル意見ノ爲ニ之ヲ審糾スルヿヲ得ス但院則ニ循ヒ院中ノ處分ハ此例ニアラス院則ハ各院各治シ議員ヲ拿捕審糾スルヿヲ得○凡議員ハ開會間本院ノ許可ナクシテ刑法ニ觸レタル事犯ノ爲ニ之ヲ糾治勾捕スルヿヲ得ス但本日或ハ翌日發見サレタル現行犯ハ此例ニアラス議員ノ特權○此法ハ各國共ニ英ニ倣ヘルナリ

○其負債ノ爲ニ勾留スルニモ民法ニ負債ヲ催ヲ要ス○本院ノ願アルトキハ開會間民刑ヲ論セス凡糾治勾留皆之ヲ解放ス開會ヨリ前ノ事案ヲ云開會中現行犯モ又同シ

澳地利

第二篇第一條　帝國議會（レークスラート）ハ澳地利帝國ヲ代理スル者分テ上院下院ノ二局トス○何人モ上下院ノ議員ニ兼任スルヿヲ得ス

第九條　皇帝ハ會期ノ間議官中ヨリ上院ノ議長及副議長ヲ任命ス下院ハ自ラ代議士員中ヨリ其議長ト副議長トヲ推撰ス又兩院ハ各自其他ノ吏員書記官以下ノヲ撰擧ス官吏ヲ云フ

第十條　帝國議會ハ成ルヘクタケ毎歲冬月ニ皇帝之ヲ召集ス

第十一條　帝國議會ノ權任ハ廣ク其代理スル諸王國及部屬ニ共通ノ權義公益ニ關スル法制ノ諸事但該王國部屬ト「オングリー」（國名）所屬ノ地トニ關スル事件ハ此限ニアラス○左ニ掲クル者ヲ以テ帝國議會ノ權任トナス

第一　貿易ノ條約及帝國ノ全部若クハ局部ノ負任ヲ生シ又國民ニ課務ヲ命シ又帝國議會ノ代理スル王國及部屬ノ疆域ノ變更ヲ致スヘキ國事條約ノ檢査及決可

第二　凡テ兵役執行ノ方法及其規則ト期限トニ關スル事件就中毎歲召募スヘキ徵兵員ノ定規及豫備馬匹ノ賦課兵士ノ糧食屯營ノ總則ニ關スル事件

第三　政府ノ歲計豫算表ノ規則及諸租稅賦課ノ毎歲決議政府ノ決算表幷ニ會計管理成跡ノ檢査新公債證券ノ發出政府舊債ノ變贄（コンベルシオン）官地ノ賣易貸與（アンカジュマン、モノポル）專賣（ドロマレガリアン）幷ニ特權ノ法律總テ帝國議會

ノ代理スル全王國部屬ニ通スル會計諸般ノ事務

第四　金銀銅貨及銀行證券ノ發出ニ關スル事務ノ規則稅關貿易電線驛遞鐵道航運ノ事件其他帝國通運ノ方法

第五　證券銀行工業ノ特準度量衡製造ノ模型（モデール、マルク）記印保證ノ法律

第六　醫藥ノ法律及傳染病家畜疫疾防護ノ法律

第七　國民權（ドロアシトアイアン）即チ公權及歸化ノ法律外國人取締法路券及人別點檢ノ法律

第八　各法教ノ關係集會結社ノ權著刻才藝上ノ私有權保護ノ法律公立小學校及中學校ニ於テ教育原旨ノ例規大學費ノ法律

第九　懲治罪裁判所違警罪裁判所及民法裁判所ノ法律但州ノ布令及此憲法ニ依リ州會ノ權任トスル事務ノ法律ハ此限ニ在ラス

○商法兌換法海上法（ドロアマリテム）礦坑及藩建地ノ法律

第十　司法官及行政官搆制ノ基法

第十一　國民ノ通權大法院司法權行政權ニ關スル諸憲報ヲ執行スルニ須要ナル法律

第十二　各部相互ノ義務及關係ニ涉ル總般ノ法律

第十三　「オングリー」國名所屬ノ諸部ト共通ナリト認メタル事務ヲ處分スルノ規程ニ關スル法律

第十二條　此憲法ニ依リ帝國議會ニ明カニ附與セサル立法ノ諸件ハ皆該議會ノ代理スル王國及部屬ニ設クル州會ノ權任ニ入ル故ニ憲法ニ依準シ該州會ニ於テ之ヲ規定ス然ルニ州會ニ於テ制定スヘキ某件ヲ帝國議會ニ於テ論議裁定スヘシト決スレハ其時ニ限リ之ヲ帝國議會ノ權任ニ置クヘシ

第十三條　法律議按ハ政府ヨリ帝國議會ニ送附ス然ルモ帝國議會モ亦其權內事務ノ決律ヲ起議スルノ權ヲ有ス○何レノ場合ニ於テモ法律ニ眞確不易ノ力ヲ與フルニハ上下兩院ノ諧同ト皇帝ノ制可(サンク)ヲ必要トナス○會計法ニ於テハ省察(クレジー)ノ金額ニ關シ點徵法ニ於テハ募兵ノ員數ニ關シ論議數回ニ及テ兩院ノ說相協ハサルトキハ募兵若クハ金額ノ最少數ヲ以テ諧同ノ定數ト見做スヘシ

第十四條　憲法ニ依リ帝國議會ノ裁定スヘキ事件ヲ緊急ニ處分セサルヲヲ得サルニ臨ミ議會ノ會開會セサルトキハ、全執政官(ツールミニステール)其責ニ任シ詔書ヲ下シテ之ヲ處決スルヲヲ得然トモ之カタメニ憲法ヲ廢棄シ國庫ニ永久ノ負任ヲ生シ及官地ヲ賣付スルニ至ルヲヲ得ス但全執政官該詔書ノ條章ニ手署シ此憲法ノ例規ニ定ムル制限ヲ踰越スルヲナキニ於テハ假ニ法律ノ力ヲ有スル者トナス○右詔書ハ公布スルノ後始テ開キタル帝國議會ノ會議ニ政府ヨリ之ヲ示スヲヲ怠リ及下院ノ議士召集ノ日ヨリ四週日間ノ後ニ至リ猶之ヲ該院ニ移サヽルトキ又兩院ノ中ニテ之ヲ承允セサルトキハ其法律タルノ力ヲ失フ○全執政官ハ右詔書ノ假有スル法律ノ力ヲ失フタルヨリ即時ニ廢棄ノ責ニ任ス

第十五條　凡帝國議會ノ決裁ヲ眞確不易ノ者ト爲ニハ下院ノ議士百名上院ノ議官四十名出席シ又兩院ニ於テ各公評人ノ過半數ヲ得ルヲ必要トス○凡帝國議會ノ代理スル王國及部屬ノ人民ノ通權大法院ノ搆制司法權太政權(ブーボアルダーベンマングル)幷ニ行政權ノ職掌ニ關スル憲法ノ改正ヲ眞確不易トナスニハ少クトモ公評ノ多數全議員三分ノ二以上ニ至ルヲ必要トス

第十六條　下院ノ議士ハ其撰舉者ヨリ委任訓狀(マンダーアンベラチフ)ヲ受クヘカラス○

帝國議會ノ議員ハ決シテ其職務ヲ執行スルタメニ行フタル公評ノ責ニ任セス獨リ其隸屬スル院ニ對シ職務ヲ執行スルタメ發議スルノ責ニ任スルノミ○凡帝國議會ノ議員ハ其會議ノ際ニ於テ現行犯罪ノ場合ヲ除キ本人ノ隸屬スル院ノ承允ヲ得ルヿナク司法上ノ手續ヲ以テ之ヲ拿捕シ若クハ糾治スルヿヲ得ス○現行犯罪ノ場合ニ於テモ裁判所ヨリ即時ニ議員ヲ拿捕セシヿヲ該院ノ議長ニ通知スヘシ○議院ヨリ請求スル所アラハ會議ノ時間犯罪議員ノ禁獄ヲ停メ糾治ヲ廢スヘシ議院ハ會期間ノ外ニ議員中ノ者ヲ拿捕シ若クハ糾治スルニ當リ亦同上ノ權ヲ有ス

第十七條　凡帝國議會ノ議員ハ自身ニ公評スヘシ

第十九條　帝國議會ノ延會及下院ノ散會ヲ決定スルノ權ハ皇帝ニ屬ス○散會ノ場合ニ於テハ第七條ニ準シ新ニ議員ノ撰舉ヲ行フ

第二十條　執政及太政府各務ノ長官ハ帝國議會ノ議議ニ參與シ及自ラ起議シ及議員ニ附シテ起議スルヿヲ得○上下各院ハ執政ノ出席ヲ請求スルヿヲ得○執政請求スレハ常ニ發議スルヿヲ得然ルトキハ其上院若クハ下院ノ議員タルトキニ非レハ公評ニ參スルノ權ヲ有セス

第二十一條　帝國議會ノ各院ハ執政ニ各其職掌トスル事務ヲ詰問シ政府ノ措置ヲ檢査シ上言書ノ說明ヲ執政ニ求メ執政ヲシテ需要ナル報知ヲ致サシムヘキタメノ委員ヲ命シ通牒(アドレス)及判決(レソルシオン)ノ規式ヲ以テ該委員ヨリ其意見ヲ發スルノ權ヲ有ス

第二十三條　上下兩院ノ會議ハ公行トス然トモ兩院ハ議長若クハ少クトモ議員十名ノ請求スルニ當リ聽衆ヲ退クルノ後該院ニ於テ之ヲ可ト決スルトキハ特ニ祕密會議ヲ開クノ權ヲ有ス

第二十四條　院內事務施行ノ細則上下兩院相互ノ關係及其他官省ノ關係ハ特別ノ條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第三篇第一條　左ニ擧クル條件ヲ以テ帝國議會ノ代理スル王國部屬及「オングリー」國名所屬ノ國ニ普通ナル者ト公告ス

第一　外國事務但外國ニ派遣スル交際務及貿易務ノ使節ノ事及國際條約ノ件皆之ニ入ル此等ノ條約ニ關シ憲法ヲ以テ須要ト定タル決可ノ權ハ帝國兩部ノ議院「オングリー」國名帝國議會及國會ヲ云フニ屬ス

第二　軍務但帝國海軍ノ事務モ亦之ニ入ル然ルトキハ募兵ノ員數ヲ定ムル法律兵役ヲ踐行スル方法ニ關スル法律軍兵ノ移轉及管理ニ關スル條則及軍兵ノ關係權義ニ關スル規則ハ此限ニ在ラス

第三　通國ノ支費就中歲出入豫算表ノ制定及決算表ノ檢査等ノ會計事務

第六條　帝國兩部ノ議院ニ屬スル立法權ハ通國事務ヲ處分スルカタメ該議院ヨリ撰派スル代理官ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第七條　帝國議院ノ代理官ハ其員數六十名トス但其三分ノ一ハ上院ヨリ三分ノ二ハ下院ヨリ撰用ス

第八條　上院ハ其議官中ヨリ公評ノ過半數ヲ以テ代理官ニ任スヘキ者二十名ヲ撰舉ス下院ヨリ出スヘキ代理官四十名ハ各州會ノ議員左ノ表ニ準シテ之ヲ撰擧ス但各州會ノ議院中ヨリモ又下院ノ議員中ヨリモ均ク之ヲ撰任スルヿヲ得ヽ公評ノ過半數ヲ以テ左ニ揭クル員數ノ代理官ヲ撰擧スヘシ

伯國王國　十員

搭馬王國　一員
牙里西及邏多米里國哥拉可維公國　七員
安斯河東ノ澳地利部　三員
安斯河西ノ澳地利部　二員
薩耳不爾厄侯國　一員
士的里亞侯國　二員
加郎西侯國　一員
布哥維納侯國　一員
默隣部　五員
上下細勒西亞侯國　一員
的邏爾伯國　二員
窩拉爾堡　一員

壹士的里亞部　一員
廓里西及咯拉日斯加伯國　一員
得利益府及其屬地　一員
計四十員ナリ

第九條　帝國議會ノ兩院ハ同一ノ方法ニ由リ上院ヨリ十員下院ヨリ二十員ノ代理官補ヲ撰擧スヘシ○下院ニ於テ撰フヘキ代理官補ノ員數ハ正代理官一員ヨリ三員マテノ數ニ對シ補官一員其四員以上ニ補官二員ノ比例ヲ以テ之ヲ定ム○補官ノ撰擧ハ各別ニ之ヲ行フヘシ連名ノ投箋ヲ以テ撰擧セサルヲ云フ

第十條　正補代理官ハ帝國議會ニ於テ毎歲更撰スヘシ其更撰スルノ日ニ至ルマテ前任ノ正補代理官ハ其職掌ヲ有スヘシ又代理官ヲ退キタル者ハ再ヒ其撰ニ當ルヿヲ得ス

第十一條　代理官ハ毎歳皇帝之ヲ召集ス其會集スル場所ハ皇帝之ヲ定ム

第十二條　帝國議會ノ代理官ハ其僚員中ヨリ議長副議長ヲ撰擧シ及書記官其他ノ官吏ヲ任命ス

第十三條　代理官ノ職掌ハ偏ク通國事務ニ及フ其他ノ事務ハ代理官ノ干預スヘキ者ニ非ス

第十四條　政府ノ起議ハ通國事務執政官ヨリ各別ニ兩部ノ各代理官ニ移送ス○兩部ノ各代理官ハ其權任内ノ事務ヲ起議スルノ權ヲ有ス

第十五條　代理官權任内ノ事務ニ關スル法律ハ總テ兩部代理官ノ諧合ヲ須要トス若シ其相諧合セサルトキハ兩代理官ノ總會議ニ於テ之ヲ決定ス但何レノ場合ニ於テモ其決定ノ制可ヲ皇帝ニ請フ

第十六條　通國事務執政官ヲ論告スルノ權ハ代理官ニ屬ス○通國事務ニ關シ現今存置スル憲法ヲ犯スニ當リ兩部ノ代理官ハ通國事務執政官又該執政官中ノ一員ヲ勅告スルタメ他ノ代理官ニ通照スヘキ起議ヲ爲スヿヲ得○勅告ハ兩部ノ代理官各別ニ議決シ又兩代理官ノ總會議ニ於テ之ヲ議決スルヲ以テ適法ノ公告トス

第十七條　各代理官ハ其同僚ヲ除キ凡テ其代理スル帝國ノ兩部ニ居住シテ法律ニ明カナル不羈ノ國民中ヨリ二十四員ノ判司ヲ推擧ス但他ノ代理官ハ其中十二員ノ任命ヲ拒ムヿヲ得ヘシ○被告人一名タリトモ又ハ數名タリトモ共ニ推擧セラレタル判司中ノ十二員ヲ拒ムノ權ヲ有ス然トモ之ヲ兩部代理官ノ推擧スル總員中ニ平均スルヲ要ス○登撰ヲ得タル判司ヲ以テ通國事務執政官ノ勅告ヲ裁判スル法院ヲ構制ス

第十八條　通國事務執政官ノ勅告訴訟順序裁判ノ細目ハ該執政官ノ責任ニ關スル別法ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十九條　兩部ノ代理官ハ各別ニ會集シテ施爲、論議、決定ス此通則ニ循ハサル特例ハ第三十一條ニ掲ク

第二十條　決議ヲ確的ノ者トナスニハ少クモ代理官三十員ト議長ト出席シ且起議ニ向ヒ出席シタル議員ノ公評ノ過半數ヲ得ルヿヲ要ス

第二十一條　帝國議會ノ正補代理官ハ其撰擧者ヨリ委任訓狀ヲ受クヘカラス

第二十二條　帝國議會ノ代理官ハ親ラ其權ヲ受用スヘシ何レノ時機ニ於テ代理官補ノ之ニ代ルヘキヤハ第二十五條ニ定ム

第二十三條　帝國議會ノ代理官ハ帝國議會ノ憲法第十六條ニ依リ帝國議會ノ議官トシテ有スル所ノ人身不侵及無任責ノ權ヲ享有ス右ニ掲クル憲法ノ成文ニ依リ議士ニ對シ下院ニ與ヘタル諸權理現行犯ヲ除クノ外下院ノ承認ナシテ議士ヲ拿捕糾治スルヿ能ハサル權等ヲ云フハ帝國議會閉會ノ際代理官ニ屬ス

第二十四條　帝國議會ノ議員ノ列ヲ去ル者ハ獨リ其故ヲ以テ亦代理官ヲ去ル

第二十五條　正補代理官ノ員缺クルトキハ新ニ其撰擧ニ從事ス○帝國議會ノ方ニ開會セサルトキハ代理官補ヲシテ本官ノ欠員ニ代ラシム

第二十六條　下院ノ解散スル場合ニ於テハ代理官ノ權任モ亦絕ク慶ス○新置ノ帝國議會ハ亦新ニ代理官ヲ撰擧ス

第二十七條　代理官ハ其職務終ルノ後皇帝ノ許允ヲ以テ議長其會

ヲ閉ツヘシ

第二十八條　通國事務執政官ハ凡テ代理官ノ評議ニ參シ親ラ其意見ヲ起議シ又代理官ニ附シテ之ヲ起議セシムルヲ得又該執政官發言ヲ求ムルトキハ常ニ必ス其議ヲ聽クヘシ○代理官ハ通國事務執政官若クハ其一員ニ詰問書ヲ送リ之カ答辨說明ヲ要求シ及執政官ヲシテ須要ナル報告ヲ致サシムヘキ檢察委員ヲ命スルノ權ヲ有ス

第二十九條　代理官ノ會議ハ公行トス然ルトキハ聽衆ノ在ラサル所ニ於テ評議ノ後可ト決スルトキハ議長若クハ議官五員以上ノ請ニ應シ會議公行ヲ置閣スル事ヲ得然ルトキハ議事ノ決定ハ公行會議ニ於テスヘシ

第三十條　兩部ノ代理官ハ其決定及決定シタル理由ヲ互ニ相通照スヘシ○右通照ハ帝國議會ヨリハ獨乙語匈牙利國會ヨリハ匈牙利語ニテ記載シタル文書ヲ以テス且兩議會ヨリ互ニ他ノ議會ニ通用スル國語ヲ以テ記載シタル公正ノ譯文ヲ添フ

第三十一條　兩部ノ各代理官ハ兩部合議ノ公評ニ因リ決ヲ擧クルヿヲ請求スルノ權ヲ有ス但相往復スル二三回ニ及テ其効ナカリシ場合ニ於テ此事ヲ起議スルトキハ他ノ代理官之ヲ斥クルヿヲ得ス○兩部ノ議長ハ兩部ノ代理官合議ノ決ヲ擧クヘキ總會議ノ場所ト時期トヲ定ムヘシ

第三十二條　總會議ニ於テ議長ノ任ハ更兩部代理官ノ議長ニ屬ス○抽籤ノ法ヲ以テ兩議長ノ中何レカ最先ニ議長ノ職ニ任スヘキヤヲ定ムヘシ第二次以下ノ會議ニ於テハ凡テ前會ニ議長ノ職ヲ行ハサル代理官ノ議長ヲ以テ長官ニ充ツヘシ

第三十三條　總會議ニ因テ決定スル所ノ者ヲメ確的トナスコハ少ク
モ兩部代理官ノ僚員各三分ノ二出席スルヿヲ必要トス但決定ハ
公評ノ過半數ヲ以テス○會議ニ出席シタル甲部代理官ノ員數乙
部代理官ヨリ多キトキハ各代理官公評人員ノ平等ヲ得ルカタメ必
要トスル所ニ循ヒ出席スル議員ノ剩數ナル代理官ニ向ヒ公評ノ
禁ヲ行フヘシ但抽籤ノ法ヲ以テ公評ヲ避クヘキ議員ヲ決定スヘシ

第三十四條　兩代理官ノ總會議ハ公行トス其調書ハ獨乙匈牙利ノ
兩國語ヲ以テ兩部ノ書記官之ヲ記載シ且共ニ照査ス

第三十五條　帝國議會ノ代理官其職事ヲ擧行スル細則ハ該代理官
自ラ條例ヲ制シテ之ヲ決定スヘシ

第三十六條　通國事務ニ非スト雖モ通國事務ノ元旨ニ準シテ處分
スヘキ事件第二條ハ左ニ掲クル手續キヲ用テ兩部ノ諧合ヲ得ル
参看

ナリ

第一　責任ノ執政官法按ヲ整制シテ各別ニ帝國兩部ノ議院ニ
送移ス兩議院其決ヲ擧クルノ後皇帝之ヲ制可ス

第二　兩部ノ議院ニ於テ各平等人員ノ委員ヲ撰擧シ之ヲシテ
兩部ノ執政官ノ起議ヲ聽キテ法按ヲ草セシム而シテ後此法
案ヲ兩部ノ各執政官ヨリ兩部ノ各議院ニ通照ス該議院ハ定
規ニ循フテ之ヲ論議シ決ヲ擧クルニ及ンテ皇帝ノ制可ヲ請
フ

通國事務ニ於ル支費ノ賦課ニ關シ兩部議院ノ諧合ヲ定ムル
ニハ特ニ右第二則ヲ守ルヘシ

一〇米利堅

第一條第一節　左ニ掲クル議政ノ權ハ都テ合衆國上下二院ニ皈スヘシ

第八節　上下二院ノ議員ヲ撰ブノ法并ニ時處ハ各州ノ議政官州ノ小議院指スヲ依テ定ムヘシト雖モ上院議員撰擧ノ地ヲ除クノ外大議院州ノ議院ニヨリ令ヲ下シテ其規則ヲ立テ或ハ之ヲ改ムヘシ反シテ云フ

第九節二　議員ハ少クモ一年ニ一會シ其集會ハ更ニ令ヲ下シテ日ヲ定ムルニアラサレハ常ニ十二月初月曜日ニ始ムヘシ

第十節一　二院各其議員ノ撰擧再撰并ニ其撰ニ逢フヘキ規則等ヲ決定スヘク二院ノ議員過半集會スルニ非レハ其事務ヲ爲スヘカラス若シ其人員足ラサル時ハ欠席スヘカラサルノ法令ヲ立テ當ルニ罰金ヲ以テシ其員滿ル日マテ延會スヘシ

第十節二　二院各其議員ノ行跡ヲ正シ暴狀ヲ罰シ議員三分ノ二協合スレハ其員ヲ放逐スヘシ

第十節三　二院各其施行スル所ヲ記載シ密事ヲ除クノ外常ニ公布スヘシ又在席議員五分ノ一望ムモノアレハ兩院議事ノ可否ヲ其書ニ記スヘシ

第十節四　兩院ノ合議ニアラサレハ三日ノ外閉院スル能ハス又兩院ニ會スヘキ地ニ非レハ妄リニ其處ヲ移スヘカラス

第十一節一　上下ノ議員其勞ニ報酬ヲ受ケ之ヲ合衆國ノ會計局ヨリ出スヘシ而シテ反ヲ謀リ人ヲ殺シ騷擾ヲ釀シ喧譁ヲ起ス等總テ法度ニ背クノ罪ニアラサレハ會議中及其往返ニ於テ議員ヲ捕縛スルヿヲ許サス又院中ノ論議敢テ院外ニテ問フヿヲ得ス

第十一節二　兩院ノ議員奉職ノ間別ニ合衆國政府ノ任ヲ承ケ其カタメ報ヲ得或ハ祿ヲ增シ政府ノ列官モ亦之ヲ兼スルヲ得ス

第十二節一　収税ノ議案ハ都テ下院ニ起ルト雖モ他ノ議案ノ如ク上院ニテ之ヲ可トシ或ハ之ヲ補フノ權アリ

第十二節二　既ニ議案兩院ヲ經テ立法ト成ル前必ス之ヲ合衆國大統領ニ示シテ其許准ヲ稟クヘシ若シ大統領是トスレハ之ニ調印シ否テサレハ其非トスル所ノ議論ヲ添ヘ之ヲ起ス所ノ院ニ返シ其院ニテハ之ヲ其日誌ニ載セ再ヒ講論シ其三分ノ二尚之ヲ立ルヿヲ是トスルトキハ其非トスル所ノ論議ト共ニ之ヲ他ノ院ニ送リ同ク再議シ其院モ亦之ヲ是トスルトキハ其議案終ニ立テ法ト爲ルヘシ然ルトキハ都テ此ノ如キ事件ノトキハ兩院ノ「ヴヂート」可否ヲ以テ之ヲ決シ其是非スル所ノ人名亦各院日誌ニ記スヘシ而シテ大統領其議按ヲ受ケ十日ノ内日曜日ヲ除ク之ヲ返サヾレハ調印セシト同ク其議按終ニ立テ法ト爲ルヘシ但議會既ニ閉チ其返ルヿヲ妨ケルトキハ此例ニ非ス

第十二節三　法令ヲ出シ決議或ハ「ヴヂート」ヲ取ル等都テ上下兩院ノ協合ヲ要スヘキ延會ノ條ヲ除ク事件ハ必ス之ヲ合衆國大統領ニ示スヘシ又其立テ法ト爲ル前ニハ須カラク大統領ノ許准ヲ稟クヘシ或ハ大統領否トスルモ定則ニ從ヒ再議ノ後兩院三分ノ二尚之ヲ可トセハ立テ法ト爲スヘシ

第二條第一節二　議政官ノ命ニ從ヒ議院ニ出スヘキ二院議員ノ數ニ應シテ撰士ヲ撰フヘシト雖モ合衆國ノ官職ヲ奉スル者幷ニ上下院ノ議員ハ都テ其撰擧ニ當ルヘカラス

第一節四　撰士ヲ撰フノ時幷ニ其投票ノ日ヲ定ムルハ總テ合衆國中同一ナルヘシ

第四條第三節二　議院合衆國所屬ノ土地或ハ他ノ財産ヲ賣リ又其

事ニ付緊要ナル法則ヲ立ツヘシ而シテ此憲法中何ノ條タリヒ漫ニ之ヲ牽强シ合衆國或ハ其州所有ノ權ヲ妨害スヘカラス

○白耳義

第三十二條　兩院ノ議員ハ全國民ノ總代タリ獨リ議員ヲ撰派スル舊法議員ハ一州一區ノ代人トシテ必ス其所出ノ一州若クハ一區ノ代人タルニ止マラス

ノ地方人民ノ求望ヲ達スルニ任ス今之ヲ改ム

第三十三條　兩院ノ會ハ公行トス公聽ヲ許ス然ヒ各院其議長若クハ議員十人ノ求望ニ依リ密會ヲ行フ○繼テ全勝法ヲ用ヒ其事件ニ付キ密會ヲ以テ議シタルノ事件公會ヲ以テ再議スルヲ要スル乎ヲ決ス

第三十四條　各院其議員ノ權任ヲ監査ス委任狀ヲ檢査スルヲ云而シテ權任事件ニ付キ起ル所ノ訴訟ヲ裁判ス

第三十五條　一人兼テ兩院ノ議員タルヿヲ得ス

第三十六條　兩院ノ議員政府ノ俸給セル官職ヲ受ルヒハ即チ議員ノ列ヲ失フ而シテ更ニ新撰ニ由ルニ非レハ其位ヲ復スルヿナシ

第三十七條　每會各院其議長及副議長ヲ撰ヒ而シテ事務室ヲ建設ス議長一員副議長二員書記官四員之ヲ事務室トス

第三十八條　凡議決ヲ擧ルハ議票ノ全勝ヲ以テス但撰擧及推薦事務室諸員及理事員ノ投撰○推薦トニ係リ兩院ノ院則ニ由テ定ムヘハ名ヲ進メテ決ヲ國王ニ取ル者兩人以上ニシテ共ニ全勝ヲ推撰ヲ得ル者ハ再議シテ優勝ノ法ヲ用フ○公評キ者ハ例ニアラスヲ得サルヒハ其議按ヲ斥ク各院其議員ノ過半衆平分兩議平分シテ歸ノ時ニハ一セサルヲ云

列會スルニ非レハ議決ヲ擧ルヿヲ得ス

第三十九條　公評ヲ發スルハ高聲ヲ以テシ或ハ起坐ヲ以テス重キハ高聲ニ可否シ輕キハ或ハ起或○法按ノ總議ニ付テハ逐條議決スル者ニ非スシテハ坐シテ以テ可否ヲ表ス

全ク総議ス毎ニ呼名法ヲ用ヒ名ヲ呼ヒ以テ各員ル者ヲ云フ高聲ノ公評ヲ以テス○被撰人議長以下ヲ云ノ撰舉及推薦ハ暗票ヲ用フ無名ノ密票

第四十條　各院糾察ノ權ヲ有ス諸大臣ノ犯事ハ糾察シテ罪ヲ論ス

第四十一條　法章ノ議按ハ逐條公評シタル後ニ非レハ兩院共ニ之ヲ許可スルヿヲ得ス

第四十二條　兩院ハ逐條ヲ改竄シ及條別シ及已ニ草シタル改竄ノ一院ヨリ改竄シタル者ヲ更ニ改竄條別スルノ權ヲ有ス

第四十三條　各民親ラ兩院ニ向テ上言書ヲ進ムルヿヲ禁ス親身進獻スルヿヲ禁ス但書記局ニ附遞ス○各院ハ受ル所ノ上言書ヲ諸執政ニ送付スルノ權ヲ有ス○諸執政ハ該院ノ求メアル毎ニ必ス其上言書中載スル所ノ事件ノ上ニ辨明ヲナスヘシ執政答辨ノ務

第四十四條　兩院ノ各議員ハ其職ヲ行フニ付キ發言シタル意見ニ係テ糾治檢索セラルヽヿナシ議事自由ノ權

第四十五條　兩院ノ各議員ハ本院ノ許可ヲ經スシテ開會ノ間刑事ノ爲ニ逮糾拿捕スルヿヲ得ス但現行犯ハ例ニアラス○同前許可ヲ經ルニ非レハ開會ノ間兩院議員ニ向テ要償ノ勾留民法償ヲ貴メテ勾留スヲ行フヿヲ得ス○兩院議員ノ勾留及糾治ニ付キ該院ノ請求アル時ハ開會ノ間之ヲ置閣ス開會ノ前勾留糾治スル者ハ開會ニ臨テ之ヲ置閣スルヲ云フ現行犯ヲ以テ捕ニ就ク者ヲ置閣スル亦同シ

第四十六條　各院ハ院則ニ由テ各其權任ヲ施行スル法式ヲ定ム

第百三十九條　國會ハ左ノ事件ニ付キ及フ所急追ヲ期シ各別ノ法章ニ由テ掲定スルノ要用ナルヿヲ宣布ス

第一　著刻著刻ノ規則

第二　陪審ノ搆制

第三　會計
第四　州邑ノ構制
第五　諸執政及它ノ政部官ノ任責
第六　司法ノ構制
第七　俸給表ノ修正
第八　兼任一人數官ヲ兼任スノ弊ヲ避ル爲ニ適當ノ方法
第九　破産及緩催法ノ修正
第十　軍兵ノ構制○陸進及老退ノ權利○軍律
第十一　諸定法書ノ修正

○瑞典

第五十三欵　尋常ノ集會ニ於テハ機務ヲ辨理スルカ爲ニ分課ノ法ヲ設ケテ掌管スヘシ

政体課　此課ハ政府ノ憲法ヲ改革シ又ハ釐正スルノ建白ヲ爲シ或ハ其書面ヲ請取リ且之ニ其意見ヲ加ヘテ議院ノ顧問ニ供シ或ハ内閣議事ノ草按ヲ檢校ス

會計課　此課ハ會計局公債局ノ摸樣及其辨理ノ方法幷ニ要務等ヲ明細ニ檢査シテ議院ニ報告ス

課税課　此課ハ一切租税ノ事ヲ掌管ス

銀行課　此課ハ銀行ノ事ヲ管轄シ其摸樣ヲ吟味シテ之カ敎令ヲ設ク

法制課　此課ハ民法刑法及敎法ノ改正ニ付議院ヨリ差出ス處ノ議按ヲ記錄ス

臨時集會ニ於テハ右集會シタル事務ヲ取扱フヘキ課目ノミヲ設

クヘシ

第五十四欵　若シ國王其職掌ニ於テ秘密ニセサルヘカラサル機務ヲ商量センカ爲メ議院ニ令シテ特ニ委官ヲ差出サシムルトキハ議院ヨリ右委官タルヘキ人物ヲ撰擧スヘシ然ルトキハ此委官ハ國王ノ諮詢スル機務ニ就キテ其意見ヲ述フルノミニテ之ヲ決定スル權ヲ有セサルヘシ若シ國王ヨリ其事ヲ秘スヘキ旨詞ヲ要スルトキハ委官ハ其命ニ從ハサルヲ得ス

第五十五欵　議院若クハ其一局若クハ其一課國王ノ面前ニ於テ機務ヲ討論シ決定スヘカラス

第五十六欵　國王ヨリ下問スル處ノ按件ヲ取扱ヒ之ヲ決スル手續幷ニ兩局ノ總代ヨリ持出ス處ノ議按ヲ處置スル手續ハ明ニ名代人ノ撰擧法ニ載スヘシ

第八十九欵　凡議院ニ於テ議按ヲ發スルハ其目的トスル處王國ノ經濟ニ關係シタル法律條例ヲ改正及解釋シ又廢革シ或ハ新法ヲ設立スルコト其他國民一般ノ教育ニ關係スルヿヲモ發シテ妨ケナシ然リトヽ雖ヒ此等ノ議按ニ就キテ議院ノ決議スル處ハ唯國王ニ其事ノ可否ヲ奏聞シ或ハ其希望スル處ヲ上言スルニ限ルヘシ國王ハ內閣大臣ノ意見ヲ聽キタル上ニテ王國ノ利害ヲ慮リテ之ヲ裁決スヘシ若シ國王ニ於テ王國ノ治務ニ關係シタル按件ヲ議院ニ下付シ之ト協同シテ其按件ヲ決定セント欲スルトキハ第八十七欵第一章法律ノ事ニ關係シタル手續ニ從フヘシ

第九十欵　政府官吏ノ黜陟行政司法ノ斷按議定條例私民或ハ會社ノ利益法律規例ノ奉行幷ニ院局等ノ建立スル等ノ議按ハ之ヲ議院或ハ其二局或ハ專管ノ分課ニ付シテ其熟議檢查ヲ經ルヿ總テ

政府ノ憲法ニ揭クル所ノ手續ニ從ヒ其文意ニ依據スルヲ要ス

第九十六款　平常集會ノ節ニハ議院ニ於テ法律ニ熟通シ譽望アル人物ヲ撰ンテ議院ノ大檢事職ニ任スヘシ此人物ハ議院ノ訓令ニ基キテ司法官吏ノ法律ヲ執行スルヿヲ監察シ又法院ノ章程ニ從テ其奉職ノ間愛憎偏頗ニ依テ法律ヲ枉ケ或ハ怠惰ニシテ奉職無狀ナル者ヲ糾彈スルヿヲ掌ルヘシ○右大檢事ト雖モ奉職無狀ナルニ於テハ總テ現今所行ノ律內ニ在ル官吏公罪ヲ犯スノ條例ヲ以テ之ヲ罰セラルヘシ

第九十七款　議院ノ大檢事ハ其奉職ノ間總テ王室ノ大檢事同樣ノ格式ヲ有シ而シテ之ヲ銓任スルヿハ撰擧律中ノ手續ニ據ルヘシ○此大檢事ヲ銓任スル同時ニ於テ更ニ本官同樣ノ才望アル人物ヲ撰ミ置キ若シ本官ノ者議院散會ノ后ニ死去スルヿアレハ之ヲ以テ本官ヲ補ハシメ若シ本官重病ニテ其職ニ堪ヘス或ハ法律ニ於テ其職ヲ褫カルヘキヿハ之ヲ以テ直ニ本官ト爲スヘシ

第九十八款　議院ノ集會中ニ檢事職タル者其官ヲ辭シ或ハ死去スルヿアルトキハ議院ニ於テ即時ニ前款ノ副職ヲ以テ本職ヲ嗣シムヘシ若シ集會中ニ右副職ノ者其官ヲ辭シ或ハ本官ニ補シ或ハ死去スルトキニハ其次ノ副職タルヘキ人物ヲ撰擧スルヿ總テ前款ノ手續ノ如シ若シ休會中前文ノ時宜ニ到ルヿアルトキハ銀行公債局ノ委官ニ於テ議院同樣ニ之ヲ補任スヘキ權アルヘシ

第九十九款　議院ノ大檢事ハ緊要ナリト考フトキニ大法院第一等ノ小法院ノ改正官行政局及一切小法院ノ評議裁判所ニ出席スルノ權アリ然トモ其意見ヲ述フルヿヲ許サス○此職ハ諸法院行政局其他政務關係ノ草按議定等ヲ承知スルノ權アルヘシ概スルニ王室

ノ諸官吏ハ總テ其力ヲ假シテ此職ノ命令ノ行屆ク樣ニスヘシ就中會計局ノ委官ハ其所望ニ應シテ資產追究ノ帮助ヲ爲スヘシ

第百款　議院平常ノ集會每ニ其奉職ノ次第ヲ報告書ニ認メテ差出シ其內ニ國中ノ法務ニ係ル政治ノ摸樣ヲ表明シ現今所行ノ法律條例ノ瑕瑾ヲ指示シ且之ヲ改正スル方法ヲ建白スヘシ

第百三款　平常ノ集會ニハ撰擧律ニ揭クル條例ニ照シテ三年每ニ議院ニ於テ委官ヲ命シ大法院ノ官吏克ク其任ニ堪ヘテ重職ヲ續クヘキヤヲ監察シ更ニ其內ノ數員ハ故ラニ罪科ヲ犯シ又過失アル憑徵ヲ得スト雖ヒ國王ニ代テ憲法ヲ執行スヘキ權ヲ委任スルニ堪ヘサル者無キヤヲ視察スヘシ若シ右委官撰擧律ノ條例ヲ照シテ建言シ其上ニテ大法院ノ官吏其職ニ堪ヘサルニ依リ議院ノ信任ヲ委スヘカラスト決議スルトキハ其趣ヲ奏聞シ國王ハ右受勅ノ官吏ヲ黜クヘシ然リト雖ヒ國王ハ黜退セラレタル官吏ニ其半俸ヲ與ヘテ養老ノ資ト爲スヲ得ヘシ

第百四款　議院ハ大法院ニ於テ判斷スル處ノ細目ヲ檢査スヘカラス又議院ノ委官ハ其大体ノ中第一等ノ小法院ノ專職トシテ公文ヲ以テ其旨ヲ告知シ速ニ議院ニ集會シテ立法及全國ノ權利ヲ維持セシムヘシ○議院ハ遇ク日攝政職或ハ內閣大臣ニ於テ禮拜堂ニテ其召集ノ儀式ヲ執行スヘキ日限ヨリ三十日內ニ集會スヘシ

第百五款　平常ノ集會ニハ議院ノ政体課ニテ內閣大臣ノ草按ヲ請求スルノ權アリ但各省ノ專務及軍機關係ノ草按ノ如キニ至テハ其事一般ノ知ル處ニシテ已ニ議院ノ專課ニ付シタル者ニ非レハ之ヲ請求スヘカラス

第百七款　政体課ニ於テ內閣大臣總体或ハ其內ノ一員又數員國家

人民ノ爲ニ可否ヲ獻替スルニ當テ王國ノ直利ヲ慮ラス或ハ其奏者公正忠勤ヲ盡シテ以テ其職ヲ奉セス負荷ノ重キニ堪ヘサルヿヲ看出ストキハ其趣ヲ議院ニ通達スルノ權アリ議院ハ此通知ヲ得タル上ニテ國家人民ノ爲ニ緊要ト考フルトキハ其趣ヲ文書ニ認メ之ヲ國王ニ劾奏シテ其官員ノ地位ヲ剝キ內閣大臣ノ名ヲ削ル事ヲ請求スヘシ○右樣ノ案件ハ議院ノ兩局中何レニテモ之ヲ發言シ政体課ノ外タリト雖ヒ之ヲ議院ニ發言シ得ヘシ然ヒ一應政体課ニ於テ之ヲ檢査シタル上ニ非レハ議院ト雖ヒ之ヲ決定スルヿ能ハス○議院ニ於テ右樣ノ案件ヲ議論スルトキニ國民ノ權利ニ屬スルヿニ至テハ國王ノ趣意ナリト雖ヒ之ヲ撼動スルヲ得ス況ヤ議院ノ檢査ニ於テヲヤ○劾奏ヲ受ケタル者其職ヲ剝カレタル上ハ既ニ議院ノ檢査ヲ經テ案件落着セルト看做スヘシ故ニ其次ノ

集會ニ於テ新ニ之ヲ檢査シ其責ヲ求ムルヿアルヘカラス○王國收入ノ處置ニ就テハ議院ノ分課又ハ委官ニ於テ之ヲ檢査シタル後ト雖ヒ右專務ノ官吏ハ其職掌ヲ以テ臨時ニ之ヲ改正スルヿアルヘシ

第百八款　平常ノ集會ニ於テ議院ハ撰擧律ノ條例ニ基キテ三年每ニ才學有名ノ人物六員ヲ撰ンテ開版著述ノ自由ヲ監督セシム此六員ハ議院ノ檢事ヲ以テ其長ト爲シ之ト俱ニ其事ヲ擔任スヘシ其中二員ハ檢事ノ外必ス法律學者ニシテ左ノ權ヲ有スヘシ若シ著述者或ハ出版主其書籍ヲ開版スル前ニ文書ヲ以テ其著述ノ趣意ヲ述ヘ右ハ出版律ニ於テ糾彈ヲ受クヘキヤ否ヲ窺ヒ其差圖ヲ仰クヿアルトキハ檢事幷ニ三員ノ監督內一員ハ必ス法律家タルヲ要ス之ヲ檢査シ其可否ヲ指令スヘシ○既ニ出版シテ妨ケナキ旨ノ免許ヲ得タル

上ハ出版主ハ自由ニ之ヲ開版シテ敢テ其責ニ任スルヿナク以後ハ都テ監吏ノ擔當スル所ト爲ル

第百九款　平常ノ集會ハ議院自已ノ請求ヲ除クノ外開院後滿四箇月ニ至ラサレハ散會スルヲ得ス但撰擧律ニ揭ルカ如ク國王新ニ議員ノ撰擧ヲ命シテ其一局又ハ二局ノ舊員ト交代セシムルトキハ例外ナリ○右樣ノ時ニ於テ議員ハ平常ノ集會タル休裁ヲ存センカ爲メニ散會後三箇月間ニ國王ノ定メタル日限ニ集會スヘシ開院後四箇月ヲ經サレハ國王之ヲ解散スルヿヲ得ス○臨時ノ集會ハ國王ノ便宜ニ從テ解散ス但其日限ハ平常ノ集會ヨリ短キヲ要ス

第百十款　議院ノ議員ニ列スル者ハ局中出頭ノ人數六分ノ五同意シ議院ノ決議ニ依リテ糾彈ヲ許スニ非レハ議員ノ言語行爲ニ就

キテ劾彈ヲ受ケ又自由ノ權利ヲ奪ハルヽヿナカルヘシ○既ニ議員タル上ハ議院集會ノ地ヨリ放逐セラルヽヿナカルヘシ○士民武弁ノ論ナク或ハ一人或ハ一隊或ハ士民集合ノ社名ヲ立テ一已ノ意見ニ依リ或ハ他ノ指ニ從フヲ以テ議院各局各課又議員中ノ其ノ名ニ粗暴ノ擧動ヲ爲シ或ハ之ヲ以テ議院ノ議論決斷ヲ妨ケ其自由ヲ制セントスル者ハ總テ之ヲ叛逆ノ律ニ處シ議院ノ定律ヲ援キテ糾彈スヘシ○議院ノ集會間ニ議院タル者其地ニ往還スル途中公用ノ旅行タルヿ顯然タルニ無禮ノ詞或ハ暴動ヲ受クルトキハ即チ王室ノ官吏其職務ヲ奉行スルニ付暴動ヲ禁リ或ハ無禮ヲ爲セシ定律ヲ以テ右罪人ヲ罰スヘシ○議院ノ委官監司檢事局課ノ吏錄等其職ヲ奉スル間ニ暴動ヲ加ヘ或ハ無禮ヲ爲ス者モ同罪ヲ以テ罰セラルヘシ

第百十一欵　議員輕カラサル罪科ヲ犯ストキハ篤ト其事ヲ檢査シタル上判事ノ命令ニ限テ之ヲ召捕スヘシト雖モ其罪科明白ニシテ一時モ猶豫ノ暇アラサレハ之ヲ施スヘカラス但司法院ノ召狀ヲ得テモ本人出頭セサルトキハ乃チ現今行フ所ノ條例ヲ以テ處置スヘシ○議員タル者ハ本文ノ案件ニ於テノミ其自由ノ權ヲ失フヘシ○議院ノ委官幷ニ監司其職務ヲ奉行スルニ就テハ唯議院ノミノ命令ヲ守ルヘシ此命令ハ兼テ與ヘタル敎示ノ趣意ト齟齬セサルヲ要ス○有官吏ハ議院ノ決斷ニ基テ之ヲ奉行スルカ故ニ其責ニ任スルヿナシ

第百十三欵　議院中ニテ課稅條例ヲ施行スル命ヲ奉スル者ハ其取立方ニ付決シテ其責ニ任スルヿナカルヘシ

○西班牙

第十三條　國會ハ同權ヲ有スル二ノ立法院ヲ以テ成ル即チ元老院及代議士院ナリ

第二十六條　國會ハ毎歲集會ス其之ヲ召集シ延期シ及會期ヲ中止シ或ハ代議士院ヲ散解スル等ノ權ハ國王ニ屬ス（增補律例第六條參看）

第二十七條　國會ハ王祚缺位ノトキ又事由アリテ國王政ヲ親ラスル能ハサルトキハ必ス之ヲ召集スヘシ

第二十八條　立法院ハ總テ犯律ヲ正スル爲ニ其內制ヲ決定シ及議員ノ分限ヲ監査ス又代議士院ハ代議士撰舉ノ當否ヲ判決ス

第三十二條　立法院ノ一ヲ集會セシムルトキハ必ス其他ノ二院ヲ集會セシム但元老院裁判權ヲ行フトキハ此限ニ非ス

第三十三條　立法院ハ兩院共ニ會スルモ又別ニ會スルモ國王ノ前

ニ於テ論議スルヿヲ得ス

第三十四條　元老院及代議士院ノ會議ハ公行トス亦特異ノ時機ニ際シテハ秘密會議ヲ開クヿヲ得ヘシ

第三十七條　凡決ヲ要スルハ兩院皆公評ノ過半數ヲ以テス法律ヲ公評スルニハ各院其全議員ノ半數ヨリ多キ出席アルヲ要ス

第三十八條　立法兩院ノ一ニ於テ斥ケラレ又國王ノ可ト爲サヽル法律議案ハ其議員任期中再ヒ之ヲ進ムルヿヲ得ス（增補律例第七條參看）

第三十九條　國會ハ國王ト共ニ受用スル立法權ノ外左ニ掲クル職掌ヲ有ス

第一　國王太子王國「レジアンス」攝政官（攝政ハ一員ニ限ラス）若クハ「レジアン」攝政一員ニ限ルヲシテ國憲及法律ヲ遵守スルノ誓詞ヲ宣ヘシムル事

第二　國憲ニ掲ケタル時機ニ於テ王國ノ攝政若クハ攝政官ヲ撰舉シ及未成年ナル國王ノ「テユテウル」太保ヲ命スル事

第三　代議士院ヨリ論告セラレテ元老院ノ裁判ヲ受ケタル執政ノ責罰ヲ實行スル事

第四十條　元老議官及代議士ハ其職ヲ執行スル爲メ發シタル論說公評ノ故ヲ以テ之ヲ侵スヿヲ得ス

第四十一條　元老議官ハ其現行犯罪ニ由テ拘捕セラルヽヒ又元老院ノ集會セサルヒノ外豫メ元老院ノ決定ヲ經スシテ之ヲ糾治シ又囚捕スルヿヲ得ス然ヒ何レノ場合ヲ論セス至急ニ議官ヲ糾治シ若クハ囚捕スルヒハ之ヲ元老院ニ報知シ以テ該院權限ノ處分ヲ爲サシム代議士モ亦其現行犯罪ニ因リ拘捕スルノ外代議士院ノ許認ナケレハ會期間ニ之ヲ糾治シ又囚捕スルヲ得ス然ヒ現行

犯罪ニ因リ囚捕シ及會期ヲ閉ツルノ後糾治又囚捕スルニ於テモ至急ニ之ヲ代議士院ニ報知シ該院ヲシテ該件ヲ査照シテ之ヲ處分セシムヘシ（増補律例第八條參看）

第六十四條　執政ハ元老議官若クハ代議士ニ兼任シ仍ホ立法兩院元老議院代議士院ノ論議ニ參スルヿヲ得然ヒ公評ハ其任ヲ受ケタル立法院ニ於テスルニ非レハ之ヲ行フヿヲ得ス

增補第六條　國會ハ毎歳現ニ代議士院ヲ編成シタル日ヨリ後少クヒ四箇月間之ヲ集會スヘシ

第八條　代議士院ノ前語ナレハ國憲第四十一條ニ豫定スル代議士ヲ審判スルヿヲ得ス

第十六條　國會ハ會計法ヲ議スルノ前ニ國憲第七十九條ニ關スル法律ヲ議スヘシ

○瑞士

第六十條　聯邦ノ最上權ハ聯邦議會ニ由テ之ヲ行フ該聯邦議會ハ國議會（コンセイユナシオナルコンセイユデ、セター）邦議會ノ二局ニ成ル

第七十三條　國議會及列邦議會ハ總テ此國憲ニ因リ聯邦ノ所轄ニ屬シテ他ノ聯邦政官ニ屬セサル所ノ一切ノ事件ヲ論議ス

第七十四條　國議會及列邦議會ニ委任セラレタル事務ハ大約左ノ如シ

第一　聯邦ノ憲法ヲ執行スル爲ノ法律命令若クハ決定就中撰舉區ノ設立撰舉ノ方法聯邦政官ノ搆成幷ニ其勤務ノ方法及陪審ノ設置

第二　聯邦政官及「シアンセレリー、ヘデラル」聯邦書記局官員ノ俸給

幷ニ償給常設スル聯邦官職ノ新設及其俸給ヲ定ムル事

第三　聯邦行政會聯邦裁判官「シヤンスリエ」書記官　大將參謀長聯邦使節ノ撰擧

第四　外國及外國政府ヲ承認スル事

第五　外國トノ同盟幷ニ條約及列邦相互ノ條約若クハ列邦ト外國トノ間ニ取結タル條約ノ認可然ル列邦相互ノ條約ハ聯邦行政會若クハ他ノ列邦ヨリ要求スル場合ノ外聯邦議會ニ具上セス

第六　外國ニ對シ安寧ヲ保チ瑞士國ノ獨立幷ニ中立ヲ守ルヘキ方法及宣戰講和

第七　瑞士列邦ノ憲法及邦土ノ保護ト之ヲ保護スル爲ニ列邦ノ事務ニ關與シ瑞士內國ノ平和ヲ保ツノ方法及「アムニスチー」大赦幷ニ「グラース」赦ノ執行

第八　聯邦憲法ヲ尊重セシメ列邦憲法ノ保護ヲ固スル爲ノ方法及聯邦ノ職分ヲ盡スヿヲ得ルノ方法又聯邦ニ由リ保固スル權利ヲ保守スルヲ目的トスル方法

第九　聯邦ノ兵制兵隊ノ敎練及列邦ノ租稅ニ關スル法則兵隊ノ規則

第十　聯邦賦役表ノ規定聯邦軍備金ノ管理及消費ニ關スル法則○列邦ヨリ納ル、銀稅ノ收歛負債歲計豫算表及決算表

第十一　通運稅驛遞貨幣度量衡火藥ノ製造鬻賣礦坑軍備糧食兵器等ニ關スル法律命令若クハ決定

第十二　公舍貧病院ノ新設聯邦ノ建築及之ニ關スル土地沒收ノ方法

第十三　住居目由ノ權聯邦內何レノ地方ニ於テモ其居所ヲ定ムルヿヲ得ルノ權　無籍人外國人ノ警察及健康方法ニ關スル法則

第十四　聯邦行政及聯邦司法ノ監督

第十五　聯邦行政會ニ於テ行フタル決定若クハ方法ニ對スル列邦及國民ノ要求

第十六　公權ニ關セル列邦相互ノ爭論

第十七　權限抵觸ノ爭論就中左ノ二件ニ關スル者

甲　某件ハ聯邦ノ所管ニ屬スルヤ將タ其列邦ノ主權ニ屬スルヤノ難問

乙　某件ハ聯邦行政會ノ委任ナルヤ將タ其聯邦裁判所ノ委任ナルヤノ難問

第十八　聯邦憲法ノ查正

第七十五條　國議會及列邦議會ハ毎歲一回通常會期ニ於テ條例ニ定タル日ヲ以テ集會ス○國議會ノ議員四分ノ一若クハ五邦ノ請求ニ由リ聯邦行政會ヨリ臨時ニ右兩議會ヲ召集ス

第七十六條　議會ハ出席スル代議士ノ數其全員ノ眞過半數ニ至ルニ非レハ決ヲ擧ルヿヲ得ス

第七十七條　國議會及列邦議會ニ於テ決ヲ擧ルハ公評人ノ眞過半數ヲ以テス

第七十八條　聯邦ノ法律命令若クハ決定ハ兩議會ノ承認ヲ得ルニ非スシテ決行スルヿヲ得ス

第七十九條　兩議會ノ議員ハ訓諭ヲ受ケスシテ公許ス

第八十條　兩議會ハ各別ニ決ヲ擧ク然ルトモ第七十四條第三項ニ開載スル選擧及特赦ノ權ヲ行ヒ又權限抵觸ノ爭ヲ判決スルトキハ兩議

會一所ニ會合シ國議會議長ノ指揮ヲ奉シテ以テ論議シ兩議會公評人ノ過半數ニ由テ決ヲ擧ク

第八十一條　起草ノ權ハ各議會及兩議會ノ各議員ニ屬ス○列邦ハ信書往復ニ由テ起草ノ權ヲ行フヿヲ得列邦各法律草案ヲ聯邦議會ニ郵送スルヿヲ得

第八十二條　各議會ノ會議ハ常ニ公行トス

○葡萄牙

第十四條　國會ハ貴族院及代議士院（シアンブル、デ、ペール　シアンブル、デ、デピュテー）ヲ以テ搆成ス

第十五條　國會ノ職掌ヲ左ニ掲ク

第一　國王「プランス、ロアイアル」儲君（一員ニ限ル）若クハ攝政官（一員ニ限ラス）ノ宣誓ヲ受クル事

第二　攝政若クハ「コンセイユ、ド、レジアンス」攝政ノ議會ノ僚員ヲ撰ヒ及其權域ヲ定ムルヿ千八百五十二年七月五日ノ增補律例第一條ニ云ク攝政ヲ認可シ建國法第九十三條ニ掲クル時機ニ於テ王國ノ攝政官ヲ撰擧シ及攝政官ノ權域ヲ指定スルハ國會ノ職掌ナリ○何レノ場合ニ於テモ此條欵ニ據リ千八百四十六年四月七日ノ法律ニ定タル規例ヲ變易シ又ハ建國法第九十二三條ノ施行ヲ回避スルヿヲ得ス第一項○建國法第十五第二項第二項ヲ改竄スルヿ斯ノ如シ

第三　儲君降誕ノ後始テ開キタル會合ニ於テ之ヲ世嗣ト認ムル事

第四　遺命ニ因テ指定シタル者ナキ時未成年ナル國王ノ太保（チユテール）ヲ任命スル事

第五　國王殂スル時若クハ王位ヲ空フスル時既往ノ施政ヲ查檢シ及施政上ノ弊害ヲ改正スル事

第六　法律ヲ定立說明停閣廢棄スル事

第七　建國法ノ保守及本國ノ公益ヲ看守スル事

第八　毎歳國費ヲ定メ及直税ヲ配當スル事

第九　王國若クハ港内ニ外國海陸軍ノ進入ヲ允否スル事

第十　毎歳政府ノ起議ニ因リ平時若クハ臨時ノ海陸軍ヲ限定スル事

第十一　負債ヲ約スルヿヲ政府ニ許認スル事

第十二　國債ヲ還償スルニ適宜ナル方法ヲ定ル事

第十三　政府ノ財産ノ管理ヲ規定シ及該財産ノ賣付ヲ判決スル事

第十四　政府官僚及其俸給ヲ設定シ若クハ廢止スル事

第十五　貨幣ノ斤量價格銘誌（アンスプリヅシオンチーフテナヨナシオン）撰畫名稱及度量衡ノ原位尺度斤量ノ規準トナル者例ヘハ佛國ニ於テ「メートル」（エクロン）ヲ尺度ノ原位ト定メ「リトル」ヲ斤量ノ原位ト定ルノ類是ナリヲ定ムル事

第十六條　貴族院ノ議員ハ「端正ナル王國貴臣」ノ名稱ヲ有シ代議士院ノ議員ハ「貴重ナル葡萄牙王國代議士員」ノ名稱ヲ有ス

第十七條　立法官ノ任期ハ四年トス而シテ毎歳ノ各會期ハ三月ト定ム

第二十條　前條ノ儀禮議院開閉ノ儀并ニ國王ノ報照（コンミニカンオン）通告文案ヲ作リ國王ヨリ其意見ヲ議院ニ報告スルヲ云ノ爲メニハ議院内務條例ニ揭クル所ノ規例ヲ踐行スヘシ

第二十一條　貴族院議長及副議長ノ任命ハ國王ニ屬ス代議士院ハ議長及副議長ハ同院ヨリ奏呈シタル推薦人五員ノ姓名表ニ依リ國王之ヲ撰定スヘシ○兩院書記官ノ撰命議員權任ノ監査及宣誓並ニ議堂ノ取締ハ各院其特別ナル條例ニ依據シテ施行スヘシ

第二十二條　兩院集合スルトキハ議長職ヲ貴族院ノ議長ニ委スヘシ

但兩院ノ議員ハ國會ノ開會ニ準シテ其坐位ヲ占ムヘシ貴族院ノ議員ハ右ニ列シ代議士院ノ議員ハ左ニ列ス

第二十三條　上下各院貴族院ト代議士院ノ會議ハ國益ノタメ秘密會議ヲ開クヿヲ要スヘキ場合ヲ除クノ外公行トス

第二十四條　議決ヲ擧ルハ出頭シタル議員ノ過半數ヲ以テスヘシ

第二十五條　上下各院ノ議員ハ其職務ヲ以テ發シタル論說ノ爲メニ之ヲ審糾スルヿヲ得ス

第二十六條　凡貴族院若クハ代議士院ノ議員ハ其現行重罪犯ノ場合ヲ除クノ外何レノ官廳ト雖モ本人付屬スル議院ノ許認ナクシテ職事服行ノ際ニ勾捕スルヿヲ得ス

第二十七條　凡貴族院若クハ代議士院ノ議員ヲ刑事法院ニ提起スルヿ裁判官ハ全ク其審糾ヲ圍止シ本人附屬スル議院ニ之ヲ報知スヘシ是時議院ハ提起セラレタル議員ノ審糾ニ着手スヘキヤト該議員ヲ停職スヘキヤ或ハ停職ヲ要セサルヤトヲ決定スヘシ

第二十八條　兩院ノ議員ハ共ニ執政官若クハ參議官ニ拜スルヿヲ得ヘシ是時貴族院ノ議員ハ該院ノ會議ニ出頭スルヿ故トノ如シ謂フハ議員ノ職ヲ失ハス然モ代議士院ノ議員ハ其職ヲ去リ改メテ撰擧ヲ受クヘシ但其議員ニ重撰セラレタルヿハ兩職執政官若クハ參議官ノ職ト代議士院ノ議員ノ職ニ兼任スヘシ增補律例第二條ニ云ク代議士ハ其撰擧ヲ受ケタルノ後勳爵ノ褒賞ヲ受ケ若クハ政府ニ附屬シテ賜俸アル官職或ハ理事職ニ拜スルニ由リテ代議士ノ官ヲ失フ該代議士ヲ重撰スルニハ增補律例第九條ニ定ムル所ニ循ヒ政府官僚ノ職ニ服スルヿ代議士員ニ撰擧セラルヘキ權ヲ規定スルヿ斯ノ如シ

第二十九條　代議士院ノ議員ニ撰マレタルヿ既ニ執政官若クハ參議官ニ拜スル者ハ亦兩職ニ兼任スヘシ

解前條ニ見エタリ

第三十條　何人ニテモ同時ニ兩院ノ議員ニ兼任スルヿヲ得

第三十一條　參議官及執政官ヲ除クノ外何レノ官職ニテモ貴族院若クハ代議士院ノ議員ニ任スルノ間假リニ舊職ヲ執ルヲ止ム

第四十五條　法律議案ノ起議及許否ハ上下各院ニ屬ス

第五十五條　上下各院論議ヲ竭スノ後他ノ議員ヨリ之ニ送移スル議案ヲ全ク嘉納スルニ及テハ該案ヲ定案（デクレイ）國王之ヲ制可スルノ後始テ法律トナルナリト名クヿヲ會議ノ席ニ於テ展讀スルノ後議長及書記官二名ノ手署シタル副本二册ヲ國王ニ奏呈シ左ノ式文ニ由リ其制可ヲ仰ク

「國會ハ王國ニ裨益アリト自信スル別冊定案ヲ國王ニ奏上ス願クハ陛下ノ之ヲ制可センヿヲ」

第五十六條　定案ノ奏上ハ最終ニ議決シタル議院ヨリ七名ノ委員ヲ送遣シ之ヲ行フ該議院ハ定案ヲ奏上スルト同時ニ該定案ヲ起草シタル議院ニ向ヒ某件ノ起議ハ本院嘉納スルノ後其制可ヲ得ンカ爲メニ之ヲ國王ニ奏呈スル旨ヲ通知ス

○荷蘭

第七十四條　國會ハ荷蘭國民ヲ代理ス

第七十五條　國會ハ上院下院ヲ以テ成ル

第八十八條　上下兩院ノ議員ニ兼任スルヿヲ得ス

第八十九條　各省長官ハ兩院ノ議ニ參加ス然ルニ兼テ上院又下院ノ議員タルトキヲ除クノ外ハ獨リ評議ノ權ヲ有スルノミ○各省長官ハ議院ノ求メニ應シ之ヲ通照スルニ王國又歐洲外ニ於ケル藩屬地ノ利益安寧ニ戻ラスト思量スヘキ案據（ランセイギユマン）ヲ言詞若クハ書文ニ因テ該議院ニ報知ス○是カ爲ニ各院ヨリ各省長官ヲ招テ其會議

ニ出席セシムルヿヲ得

第九十條　下院ハ法律ヲ以テ定ムヘキ探討(アンギュト)ノ權ヲ有ス

第九十一條　國會ノ議員ハ大法院(オールクール)ノ僚員若クハ大檢事統計院(ブロクコロールセネラルシヤンブルデコント)ノ僚員州ニ差遣スル國王ノ理事官(ユミッセール)及僧侶ノ職ニ兼任スルヿヲ得ス○當務ノ武官ニシテ上院若クハ下院ノ議員ニ任スル者ハ其奉職ノ間非役官トナス既ニ議員ノ列ヲ去レハ更ニ軍務ニ復ス○撰擧會ニ上席スル官吏ハ其上席シタル區ニ於テ議員撰擧セラルヘカラス○官俸ヲ受クル職務ヲ奉シ又官吏ニ登用ヲ得タル國會ノ議員ハ議員タルヲ罷ム然ルトキハ即時ニ之ニ重選サルヽヿヲ得

第九十二條　兩院ノ議員ハ會議ニ於テ發言スル所ノ論議ノタメニ司法上ノ手續ヲ以テ糾治スルヿヲ得ス

第九十三條　上下各院ハ新ニ撰派セル議員ノ權任ヲ監査シ及議員

ノ權任若クハ其撰擧ニ關シ起リタル爭訟ヲ裁審ス

第九十四條　各院ハ其員外ノ者ヲ採リテ書記官ニ任命ス

第九十五條　國會ハ少クトモ毎歲一回會議ヲ開ク○通常會期ハ第九月第三ノ月曜日ニ開ク○國王ハ自ラ須要ト思量スルトキ兩院ヲ召集シテ臨時會議ヲ開ク

第九十六條　凡兩院ノ會議ハ其兩院ノ議員合議スルト否ヤヲ問ハス公行トス○兩院ハ其議員十分ノ一之ヲ求メ又議長之ヲ須要トスルトキ祕密會議ヲ爲ス○議會ハ祕密會議ニ於テ論議スヘキヤ否ヤヲ決ス○祕密會議ニ於テ論シタル議事ハ亦祕密議會ニ於テ決定スルヿヲ得

第九十七條　國王殂シ又其位ヲ辭スルニ當リ會々國會ノ開會セサルトキハ預メ召集ノ命ナクトモ直ニ親ラ集會ス此臨時會期ハ國王殂

シ若クハ辭位ノ後第十五日ニ開ク兩院ノ集會解散シタルトキハ新撰擧ヲ終リタル日ヨリ其期ヲ數フ

第九十八條　國會ノ會期ハ兩院集合ノ會議ニ於テ國王若クハ王ノ代理官之ヲ開ク國王國益ノタメ會期ヲ繼續スルヿヲ要セスト思料スルトキ閉會スルモ亦同一ノ方法ヲ以テス○國王第七十條ニ掲クル權理ヲ使用スルニ非ル外通常會期ハ少クトモ二十日間ニ及フ

第百條　兩院ハ議員ノ半數以上出會スルノ外各別ニ又合同シテ論議決定スルヿヲ得ス

第百一條　凡決ヲ擧ルハ投票ノ過半數ヲ以テス○論議兩立スルトキハ決定ヲ後會ニ附ス○該會又總議員出席ノ議會ニ於テ論議猶兩立スルトキハ其起議ヲ斥ク

第百二條　公評ハ名ヲ呼ヒ高聲ヲ擧テ之ヲ行フ獨リ應撰人ノ撰擧及推薦ハ暗票ヲ以テス（スクルユタンセクレー）

第百三條　兩院集合ノ會議ニ於テハ兩院ヲ以テ一箇ノ議會ト見做ス且議員ハ坐位ヲ占ムルニ上下院ノ別ヲ存セス○上院ノ議長ハ兩院集合ノ首長ニ任ス

第百十三條　法律議案ヲ除クノ外兩院ハ各別ニ其他ノ諸起議ヲ國王ニ奏上スルヿヲ得

○丁抹

第二十九條　兩院ハ下院及上院ヨリ成ル

第四十一條　國王ヨリ特ニ兩院ヲ徵集スルニ非レハ兩院ハ十月第一月曜日ニ於テ集會ス

第四十二條　兩院ハ政府所在ノ地ニ於テ集會ス然トモ格別ナル時機

ニ於テハ國王其他ノ所ニ於テ徵集スルヿヲ得ヘシ

第四十三條　兩院ハ侵スヘカラサル者トス兩院安全及其自由ヲ害シ及其敎令ヲ爲シ又其敎令ニ從フ者ハ逆罪タリ

第四十四條　各議院ハ新ニ法律ヲ起草シ及其議院ニ關スル事件ヲ決定スルノ權ヲ有ス

第四十五條　各議院ハ國王ニ向テ建言スルノ權アリ

第四十六條　各議院ハ公益ニ關スル事件ヲ調査セシムル爲ニ議員ノ中ヨリ委員ヲ設クルヿヲ得此委員ハ調査ノ爲ニ必要ナル報告書等ヲ差出スヘキヿヲ口述或ハ書面ヲ以テ官吏及人民ニ求ムルノ權アリ

第四十八條　兩院ノ通常ノ集會ニ於テハ其集會ノ整頓スルヤ否國ノ入額及出額ニ付テノ計算書ト翌年ノ國計算表トヲ製シテ之ヲ出スヘシ○國計豫算表及政府ノ格別ナル費額ハ始メ必ス下院ニ於テ決定ス（クレヂットブレマンデール）

第五十條　各議院ハ國計ニ關シタル統計書ヲ調査シ又國ノ入額及出額ハ其統計書ニ記載シ豫算表ノ外費額ノ有ルヤ否ヤヲ檢査スル爲メニ俸給アル兩名ノ檢査官ヲ命スヘシ此檢査官ハ種々ノ報告書及必要ト思考スル証書類ヲ差出サシムルノ權アリ○政府ノ一年間ノ統計書ハ檢査官ノ取調書ヲ副ヘ兩院ノ決定ニ付ス○右種々ノ規定ハ一ノ法律ニ由テ變更スルヿヲ得ヘシ

第五十二條　上院下院ニ論ナク三回ノ會議ヲ經ルニ非レハ法律ノ議按ヲ決定スルヿヲ得ス

第五十三條　一ノ議院ニ於テ決定シタル法律ノ議案ヲ其儘ニ之ヲ他議院ニ送付シ變更シタルトキハ之ヲ原ノ議院ニ送還スヘシ原ノ

議院ニ於テ又之ヲ變更シタルトキハ更ニ又他ノ議院ニ送還スヘシ而シテ遂ニ兩院ノ議決ヲ得ルヿ能ハサルトキハ兩院ノ一院ノ求ニ因リ各議院ニ於テ同數ノ委員ヲ命スヘシ此委員ハ會議中ノ事件ニ付キ一ノ陳述書ヲ作リ意見ヲ兩院ニ進呈ス兩院ハ其意見ニ由リ各自ニ之カ決定ヲナスヘシ

第五十四條　各議院ハ該議員ノ撰擧ノ正確ナルヤ否ヲ審糾スルノ權ヲ有ス

第五十五條　新撰議員ハ撰擧ノ正確ヲ認可セラルヽヤ直ニ國憲ヲ循守スヘキ誓詞ヲ宣フ

第五十六條　兩院ノ議員ハ撰擧人ノ敎令ニ從ハスシテ自己ノ意見ヲ述ルヲ要ス○兩院ノ議員及撰擧セラレタル官員等ハ撰擧人ノ委任ヲ受クル爲ニ政府ノ認准ヲ得ルヿ及ハス

第五十七條　兩院一集會中議院ノ承認ヲ得スシテ要償ノ爲ニ議員ヲ禁獄スルヿヲ得ス又現行罪犯ヲ除クノ外之ヲ禁獄シ及裁判所ヘ提喚スルヿヲ得ス○兩院ノ議員ハ議院ノ外ニ在ラス又議院ノ許可ナクシテ院中ニ於テ發言シタル意見ノ爲ニ之ヲ審糾スルヿヲ得ス

第五十八條　法律ニ由テ撰擧ニ當リタル議員其撰擧ノ取消トナリタル場合ニ於テハ該議員ハ撰擧ヨリ生スル一切ノ權利ヲ失フ○俸給アル官職ヲ命セラレタル兩院議員ノ更ニ撰擧ニ當ルヘキ場合ハ一ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　宰相ハ其職務ニ付キ兩院ニ出席ヲナシ及議院ノ會議間ニ於テ辨論スルノ權ヲ有ス然ルトキ宰相ハ其辨論ノ間議院ノ例則ニ循フヲ要ス然ルトキ宰相ハ兼テ兩院ノ一院ノ議員タルニ非レハ可

否ヲ公評スルノ權ヲ有セス

第六十條　各議院ハ議長ヲ撰擧シ及議長ノ闕席シタルトキ代理者一名或ハ數名ヲ撰擧スルノ權アリ

第六十一條　各議院ニ於テ議員ノ半闕席シ及可否ノ公評ニ與カラサルトキハ兩院ノ一院ハ決定ヲナスヿヲ得ス

第六十二條　兩院ノ議員ハ本院ノ承認ヲ得テ公事ヲ會議ニ委托シ及其旨趣ニ付キ宰相ノ辨明ヲ求ムルヿヲ得

第六十三條　議員ニ由ルニ非スシテ卿案ヲ兩院ノ一院ニ托スルヿヲ得ス

第六十四條　兩院ノ一院ニ於テ或ル決定ニ付キ意見ヲ發言スルヿヲ不都合ト思考スルトキハ其儘之ヲ宰相ニ送還スルヿヲ得ヘシ

第六十五條　兩院ノ集會ハ公行トス然ルトキ議長及規則ニ定タル所ノ議員ハ議員ニ非サル者ヲ院中ヨリ退去セシメンコトヲ請求スルノ權アリ而シテ議院ニ於テ其集會ヲ公行スヘキカ將タ祕密ニスヘキカヲ決定ス

第六十六條　各議院ニ於テハ事務ノ順序及取締ニ付テノ規則ヲ設クルヲ要ス

第六十七條　連合國會（リグスダグレユニ）ハ下院及上院ノ集會ヲ以テ成ル議員ノ半數闕席ヲナシ或ハ公評ニ與カラサルトキハ「リグスダグレユニ」ニ於テ規程ヲ設クルノ權ヲ有ス

○伊太利

第四十八條　各院ノ集會ハ同時トス○一ノ議院ノ集會セサルトキ他ノ議院ノミ集會スルハ法律ニ循由セサル者ニシテ其効ヲ有セス

第四十九條　兩院ノ議員ハ未タ其職務ヲ行ハサル前ニ國王ニ忠節ヲ盡シ國憲及法律ヲ確守シ國王ト國トノ合同利益ヲ圖リ職務ヲ行フヘキ誓ヲ宣フ

第五十條　各院ノ職務ニ於テハ報償ヲ受クヘキ理由ナシ

第五十一條　各院ノ議員ハ會議ニ於テ發言シタル意見及可否ノ投言ヲナシタル爲ニ告訴セラルヽヿナシ

第五十二條　各院ノ集會ハ公行トス○然ルニ議員十人ノ求ニ由リ密會ヲ行フヿヲ得ヘシ

第五十三條　各院ノ議員過半衆列席セサルトキハ集會及會議ハ其効ヲ有セス

第五十四條　各院ハ過半數ヲ以テ可否ヲ決定ス

第五十五條　法案ノ發議ハ先ツ各院ノ委員ニ於テ調査スヘシ而シテ一議院ノ已ニ承諾シタル者ハ他ノ議院ニ送致ス又他ノ議院ノ承諾シタル後ハ國王ニ呈シテ其許可ヲ受クヘシ○各院ニ於テノ討議ハ各條之ヲ爲スヘシ

第五十七條　成年ノ國民ハ議院ニ向テ願書ヲ進呈スルノ權アリ議院ハ委員ニ托シテ願書ヲ調査セシメ而シテ委員ノ陳呈ニ由テ願書ヲ受クヘキヿニ決定スルトキハ其受クル所ノ願書ヲ主任ノ執政或ハ緊要ナル事件ヲ調査スル爲ニ設ケタル察司ニ送付スルノ權アリ

第五十八條　各民親ラ議院ニ向テ願書ヲ進呈スルヿヲ禁ス○管憲（オトリテ）及會社（コンスチチエ）ノミ社名及社名ヲ以テ願書ヲ進呈スルノ權アリ

第五十九條　各院ハ「デピユタシヨン」乞願ノヿニ付キ出スニ面接スルヿヲ禁ス各院ノ議員及諸執政又政府ノ委任ヲ受ケタル者ノ外所ノ代理者ヲ云フ

亦之ヲ禁ス

第六十條　各院ハ其議員カ確實ナル議院參入ノ權力ヲ有スルヤ否ヲ審理ス

第六十一條　各院ハ自ラ設ケタル條規ニ由テ其職務ヲ行フニ付テノ法式ヲ定ム

第六十二條　伊太利語ヲ以テ兩院職務上ノ言辭トス○然ルニ佛蘭西語ヲ用ユル所ノ州ヨリ派出シタル議員ハ其語ヲ用ユルヿヲ得ヘシ

第六十三條　各院ニ於テ可否ヲ表スル爲ニ或ハ起坐ヲ以テシ或ハ議員ヲ左右ニ分チ或ハ暗票（即チ無名ノ投票スリウテシ、セクレ）ヲ以テス法案ノ總議及人身ニ關スル可否亦必ス暗票ヲ用ユ

第六十四條　凡議員ハ兩院ノ議員ヲ兼任スルヿヲ得ス

第六十六條　諸執政ハ議員タルヿニ非レハ兩院ニ於テ列席スルヿヲ得ス然レトモ常ニ議院ニ參入スルノ權アリ又議員ニ向テ要求スルヿアルトキハ議院ハ必ス之ヲ聽クベシ

第十一　行政權

○佛蘭西一千七百九十一年

第十七條　政治ハ立君政治ナリ○行政權ハ國王ニ委托セシモノニシテ諸卿及責ヲ任スル他ノ役人ハ國王ノ支配ヲ受ケ第二章ニ定リタル法式ヲ以テ其權ヲ行フヘシ

第九十七條　孰レノ人モ國民ノ權ヲ立テス或ハ既ニ之ヲ立シヲ証明セサル者ハ諸省ノ局ニ於テ或ハ國ノ租稅ト歳入ヲ司トル支配ノ局ニ於テモ孰レノ職ヲ勤ムヘカラス又行法官ヨリ委任スヘキ孰レノ事務ヲモ勤ムヘカラス

第九十八條　國王ノ孰レノ命令書ニモ國王ノ印ヲ調シ又卿或ハ州知事ノ加印アラサレハ之ヲ行フヘカラス

第九十九條　諸卿ハ國ノ安寧及政体及國民所有ノ權及自由ノ權ニ對シテ自ラ爲セシ都テノ罪ニ付テノ責メ及該省ノ雜費ニ供用スル爲ノ金高ノ濫用ニ付テノ責ニ任スヘシ

第百條　孰レノ場合ニ於テモ卿ハ國王ノ口令或ハ命令書ニ依テ己ノ任スヘキ責ヲ免ルヘカラス

第百二條　卿ハ在職中或ハ退職後ヲ論セス民選議院ノ布令ニヨラサレハ己ノ行政ノ處置ニ就テ重罪ノ訟ヲ受ヘカラス

第百七條　行政官ハ民選議院ノ請求又免許アラサレハ民選議院ヨリ三萬「トワーズ」ノ間四寸五分「トワーズ」ハ一ノ内常備兵隊ヲ通行セシメ又屯留セシムヘカラス

第百四十一條　行政官ハ法律書ニ國印ヲ附シ且之ヲ班布セシムルヿヲ委托セラレ又國王ノ確定ヲ受ルニ及ハサル民選議院ノ決定ハ之ヲ班布セシメ且行ハシムルヿモ委托セラルヿナリ

第百四十二條　各法律ハ本書二通ヲ作リ其二通ニ國王調印シ司法卿加印シ及國印ヲ附スヘシ其一通ハ國印局ノ古記藏ニ收メ一通ハ民選議院ノ古記藏ニ收ムヘシ

第百四十三條　班布ノ文式ハ左ノ如シ

我國王ノ名ヲ記ス　天主ノ恩惠及國ノ憲法ニ依リテ佛蘭西國民ノ王タリ

現今及將來ノ人民ニ頓首ス今般民選議院之ヲ布告セシ故ニ我レ左ノ通リ決定シ且命令ス此ニ布告ノ文ヲ其儘書入ル行政官及裁判官此文面ヲ其簿冊ニ記入セヨ其州及其管轄地ニ之ヲ布告シ且榜示セヨ又之ヲ國法トシテ行ハシメヨ其證據トシテ此書ニ我カ印ヲ調シ且國印ヲ附セシムルナリ

第百四十五條　行法官ハ施政廳及裁判所ニ法律書ヲ送達シ其送達セシヲヲ証セシメ其証ヲ民選議院ニ差出スヘシ

第百四十六條　行法官ハ孰レノ法律ト雖ヒ假リニ之ヲ立ヘカラス唯法律ニ從ヒタル布告ヲ出シテ法律ノ施行ヲ命シ或ハ之ヲ記憶セシムヘシ

第百四十七條　各州ニ於テ施政官アリ各郡ニ施政下官アリ

第百四十八條　州官ハ總テ人民名代タルノ任ナシ唯國王ノ命令及意思ヲ受ケ施政ノ事務ヲ勤ムル爲メ國民ヨリ假リニ委任スルモノナリ

第百四十九條　州官ハ立法權ノ施行ニ關スルヿ法律ノ施行ヲ差止ムルヿ裁判上ノヿ兵隊ノ動行スルヿニ少シモ關スヘカラス

第百五十條　州官ハ直稅ヲ配賦シ及己ノ管轄內ノ總テノ租稅及公ノ歲入ヨリ生スル金錢ヲ檢査スルヿヲ特ニ委任セラルヽヿナリ

右ノ事及州內施政ノ他ノ事ニ至ル迄州官ノ職務ハ民選議院之ヲ

定ムヘシ

第百五十一條　州官ノ法律或ハ王命ニ違背セシ處置ハ國王之ヲ取消スノ權アリ○州官續テ王命ニ背キ或ハ己ノ處置ヲ以テ國ノ安寧平和ヲ害スルトキハ國王其職務ヲ一時免スルヲ得ヘシ

第百五十二條　州官ハ法律或ハ己ノ決定或ハ己ノ郡官ニ傳達セシ命令ニ背キテ爲セシ郡官ノ處置ヲ取消スノ權アリ○郡官續テ其命令ニ背キ或ハ己ノ處置ヲ以テ國ノ安寧平和ヲ害スルトキハ州官其職ヲ一時免スルノ權アリ尤其場合ニ於テハ州官必ス之ヲ國王ニ報知スヘシ國王ハ其罰ヲ赦シ或ハ承決スルヿヲ得ヘシ

第百五十三條　州官前條ニ記シタル場合ニ於テ郡官ニ對シ其權ヲ用ヒサルトキハ國王直ニ郡官ノ處置ヲ取消シ或ハ其職務ヲ一時免スルヲ得ヘシ

○佛蘭西　一千七百九十三年

第六十二條　行政院一箇ヲ設立スヘシ其編制スルノ人數ハ二十四人トス

第六十三條　右ノ爲メ各州ノ撰立會議ハ行政院ノ役ノ爲メ一人ヲ選ヒ民選議院ハ各州ノ撰立會議ヨリ進メタル人ノ名簿ノ内ヨリ二十四人ヲ撰擧スヘシ

第六十四條　民選議院ノ變改スル毎ニ行政院官員ノ數ノ半ハ改選スヘシ但民選議院ノ末ノ議會ノ終リシ月中ニ此交代ヲナスヘシ

第六十五條　行政院ハ一般ノ政事ヲ引導シ及檢査スルヿヲ委托スルモノニシテ民選議院ヨリ爲セシ法律及布令ヲ行ハシムル爲メノ外就レノ處置ヲ爲ス能ハス

第六十六條　行政院ハ共和國ノ一般ノ施政ヲ依托セラルヘキ首官ヲ委任スヘシ但此官員ハ行政院ノ官員ノ中ヨリ撰擧スル能ハス

第六十七條　前條ノ首官ノ數及職務ハ民選議院之ヲ定ムヘシ

第六十八條　此首官ハ相分レ互ニ交際ナナスヘカラサルモノニシテ一ノ會議ヲ編制スルモノヽ如キニ非ス且行政院ノ權ニ代ル者ニシテ自ラ權ヲ行フヿヲ得ス

第六十九條　行政院ハ共和國ノ國外在勤官員ヲ委任スヘシ但之ヲ行政院ノ官員中ヨリ撰擧スル能ハス

第七十條　行政院ハ外國トノ條約ヲ決議ス

第七十一條　行政院ノ官員ハ其義務ヲ失フ時ハ民選議院之ヲ訴フヘシ

第七十二條　行政院ハ法律ノ執行ニ就キ責ヲ任スヘシ又行政上ニ就テ不法ノ處置ヲ心付クト雖モ之ヲ原告セサルトキハ之ニ就テ責ヲ任スヘシ

第七十三條　行政院ハ己レ撰任スルヲ得ヘキ官員ヲ免職シ代員ヲ任スヘシ

第七十四條　行政院ハ己レ委任セシ官員不法ノ所業ヲ行フトキハ之ヲ訴フヘシ

第七十八條　共和國ノ各邑ニ一ノ邑政官（ムニシパリテ）アリ各部ニ傳令官（アドミニストラシオン、アンテルメディエル）アリ各州ニ中央ノ州政官（アドミニストラシオン、サントラル）アルヘシ

第七十九條　邑政官ノ官吏ハ邑民議院之ヲ任ス

第八十條　各州及各郡ノ州政官ハ其州ノ選立會議及其郡ノ選立會議之ヲ任ス

第八十一條　邑政官及州政官ハ年々其官吏ノ半ヲ改撰スヘシ

第八十二條　州政官及邑政官ハ名代タルノ職ナリ但右ノ意ハ即チテ人民ニ代リ事ヲ爲ス唯人民ニ就レノ場合ニ於テモ民選議院ノ代議者ト異ナリ命シタル職ヲ爲サスノミナリ

所業ヲ變革シ其成行ヲ差停ムル能ハス

第八十三條　民選議院ハ邑政官及州政官ノ職務ト其等級ト從命規則ト及其罰則ヲ定ム

第八十四條　邑政官及州政官ノ會議ハ來聽ヲ許スヘシ

○佛蘭西　一千七百九十五年

第百三十二條　行政權ハ民選議院國民ノ名義ヲ以テ選立會議トシテ選任セル五人ノ者ニ委托スルヿナリ

第百三十三條　五百員議院內密評議ニテ其選任スヘキ督理官ノ官員ノ十倍數ノ人名ヲ記シタル人員書ヲ作リ且之ヲ老人議院ヘ進達スヘシ老人議院ハ內密評議ニテ其人員書ニ記シタル人名ノ內ニ就テ委任スヘキ人ヲ選擧スヘシ

第百三十四條　「ジレクトワール」ノ官員ハ四十歲以上ナルヘシ

第百三十五條　「ジレクトワール」ノ官員ハ民選議院ノ議員ノ職ヲ勤メシ者及卿(ミニストル)ノ役ヲ勤メシ者ノ內ニ就テノミ之ヲ選擧スヘシ

第百三十六條　共和政事以來ノ第五年ノ正月一日以後民選議院ノ議員ハ其勤務中及其退職セシ日ヨリ後ノ年中ハ「ジレクトワール」ノ官或ハ卿ノ役ヲ委任サルヽ能ハス

第百三十七條　「ジレクトワール」ノ官員ハ毎年官員一人宛改選スル方法ヲ以テ之ヲ全ク變改スルヿナリ初メ委任シタル官員ノ內毎年退職スヘキ官員ヲ定ルヿ初ノ四年間ハ抽籤ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第百三十八條　退職セシ官員ハ退職セシ日ヨリ五ケ年ノ後ナラサレハ之ヲ再任スル能ハス

第百三十九條　宗系ノ親屬又卑屬兄弟伯叔父及姪從弟及右ト同級ノ姻屬ノ親ハ同時ニ「ジレクトワール」ノ官員トナル能ハス且「ジレクトワール」ノ官員ハ退職ノ後五年ヲ過キサレハ右ニ定タル本人ノ親屬或ハ姻屬ノ親等ハ「ジレクトワール」ノ官職ヲ任スヘカラス

第百四十條　「ジレクトワール」ノ官員死去シ或ハ免職ニナリ或ハ他ノ孰レノ譯ニヨリ「ジレクトワール」ノ役欠クルトキハ民選議院十日ヲ過サル時間ニ其代役ヲ選任スヘシ初ノ五日間ニ五百員議院右ノ役ヲ委任セントスル人ヲ勸告セサルヲ得ス後ノ五日間ニ其選任ノ所業ヲ成就スヘシ且右ニ從テ委任シタル者ハ本人退職ノトキヨリ勤ムヘキ殘リノ年期ノミ任スヘシ但殘リノ期限六ケ月以下ナレハ選任シタル者ハ後ノ五年ノ終リマテ勤ムヘシ

第百四十一條　「ジレクトワール」ノ官員ハ各順次ニ「ジレクトワール」長ノ役ヲ三ケ月間勤ムヘシ長タルモノハ「ジレクトワール」ノ名義ヲ以テ花押シ且「ジレクトワール」ノ印ヲ保存スルモノナリ○法律及民選議院ノ決定書ハ「ジレクトワール」長ノ名義ヲ用ヒ之ヲ「ジレクトワール」ヘ送達スヘシ

第百四十二條　「ジレクトワール」ハ其官員ノ内三人以上出席セサレハ評議スヘカラス

第百四十三條　「ジレクトワール」ハ己ノ官員ノ外ヨリ選ヒタル人ニ書記役ヲ命シ都テ決定ノ副本ニ花押セシメ且評議ノ調書ヲ格別ノ簿冊ニ記セシムヘシ「ジレクトワール」ノ官員ハ各己ノ存意及其譯柄ヲ其簿冊ニ記入スルヲ得ヘシ○「ジレクトワール」ハ其書記役ヲ用

ヒスシテ評議セントスル節ハ之ヲ爲スヲ得ヘシ其場合ニ於テ「ジレクトワール」ノ官員一名其評議ノ調書ヲ格別ノ簿冊ニ記スヘシ

第百四十四條　「ジレクトワール」ハ法律ニ從テ國ノ內外ノ保護ヲ供スヘシ○法律ノ執行ノタメ法律ニ從テ公達ヲ爲スヲ得ヘシ又國兵ヲ用ユルヲ得ヘシト雖ヒ「ジレクトワール」ノ官員共ニ國兵ヲ率ユル能ハス且「ジレクトワール」ノ執レノ官員モ其勤務中或ハ退職ノ後二年間國兵ヲ率ユル能ハス

第百四十五條　「ジレクトワール」ハ國內或ハ國外ノ安寧ニ對シテ謀叛ヲ企ツル者アルヲ聞入ルヽトキハ其謀叛ノ首謀及附從ナルヿヲ思慮スルモノニ對シ捕票及拘引スヘキ命令書ヲ發シ且之ヲ自ラ鞫問スルヲ得ヘシト雖ヒ二日ヲ經テ之ヲ法律ニ從テ裁判セシムル爲ニ其者ヲ警視役所ヘ必ス送ルヘシ如シ「ジレクトワール」ノ官員ハ其法式ニ背クトキハ不法ノ捕留罪ノタメ罰ヲ言度サルヽヲ得ヘシ

第百四十六條　「ジレクトワール」ハ總大將ヲ委任スヘシト雖ヒ之ヲ己ノ官員ノ第百三十九條ニ定タル級親屬及姻屬ノ者ノ內ヨリ選擧スル能ハス

第百四十七條　「ジレクトワール」ハ己ノ委任シタル名代ヲ用ヒ諸支配所及裁判所ニ法律ノ執行ヲ檢査シ且慥カム

第百四十八條　「ジレクトワール」ハ己ノ官員ノ外選擧シタル者ニ卿ノ役ヲ任シ且隨意ニ之ヲ免職スヘシト雖ヒ之ヲ二十九歲以下ノ人ノ內及己ノ官員ノ第百三十九條ニ記シタル級ノ親屬及姻屬ノ內ヨリ選擧スルヲ得ス

第百四十九條　諸卿ハ其配下ノ官員ト直ニ往復ヲナス

第百五十條　民選議院ハ己ノ卿ノ數及其職制ヲ定ムルヿナリ但卿ノ數ハ少クトモ六人多クトモ八人アルヘシ

第百五十一條　諸卿ハ集會スル院ヲ設クルヿナシ

第百五十二條　諸卿ハ法律及「ジレクトワール」ノ決定ノ不執行ニ付各己ノ管スル事務ノ責ニ任スヘシ

第百五十三條　「ジレクトワール」ハ各州ノ直稅ノ收納官ヲ委任ス

第百五十四條　「ジレクトワール」ハ不直稅及國有財產ノ支配首官ヲ任ス

第百五十五條　「イルトフランス」及「レユニヨン」島ノ外都テ佛蘭西國ノ官員モ戰爭ノ終リマテ「ジレクトワール」之ヲ任スヘシ

第百五十六條　「ジレクトワール」ハ民選議院ノ免許ヲ受ケ都テ佛屬國ヘ一人或ハ場合ニヨリテ數人ノ名代ヲ差出スヘシ但「ジレクトワール」ハ其名代ヲ勤ムヘキ年期ヲ定メ之ヲ委任ス○「ジレクトワール」ノ名代ハ「ジレクトワール」ト同樣ナル役ヲ勤メ且其配下ニアルモノトス

第百五十七條　「ジレクトワール」ノ孰レノ官員モ其退職ノ日ヨリ二年過キシ上ナラサレハ共和國ノ領地ヲ立去ル能ハス

第百五十八條　「ジレクトワール」ノ官員退職スルトキハ其後ノ二年間ニ己ノ國地ニ在留スルヿヲ証明セサルヿヲ得ス○民選議員ノ議員ノ保護ニ管スル第百十二條ヨリ第百二十三條ハ「ジレクトワール」ノ官員ニモ之ヲ通用スヘシ

第百五十九條　「ジレクトワール」ノ官員ノ内三人マテ告訴セラル、場合ニ於テハ民選議院常例ノ法式ヲ以テ代役ヲ任シ其裁判ノ終リマテ勤メシムヘシ

第百六十條　第百十九條及第二十條ニ記シタル場合ノ外五百員議院或ハ老人議院ハ「ジレクトワール」ヲ召シ或ハ「ジレクトワール」ノ官員ノ内孰レノ官員モ召スヘカラス

第百六十一條　「ジレクトワール」ハ兩院ヨリ已ニ爲シタル計算及政事上ニ付テノ質問ニ書面ヲ以テ答フヘシ

第百六十二條　「ジレクトワール」ハ公費ノ計書經濟ノ形勢書現ニ拂フ所ノ養老金及己ノ存意ニ付テ新ニ定ムヘキ養老金ニ付テノ見込書ヲ年々民選議院ノ兩院ヘ差出スヘシ但右ノ事ニ就テ爲シタル過度ヲ心付クトキハ之ヲ其書面ニ記スヘシ

第百六十三條　「ジレクトワール」ハ孰レノ時ニモ五百員議院ヘ書狀ヲ差出シ一ノ事件ニ付テ其熟考ヲ願フヲ得ヘシ又其院ニ處署ヲ勸告スルヲ得ヘキト雖モ右ノ爲メ法律ノ議案ノ文式ヲ用ユヘカラス

第百六十四條　凡「ジレクトワール」ノ官員ハ「ジレクトワール」ノ會議所ヲ立テサルヲ得ヘキト雖モ民選議院ノ免許ヲ受ケサレハ不在ノ期限ハ五日ヲ過クヘカラス且「ジレクトワール」ノ會議所ヨリ四「ミリヤメートル」許四里ヨリ遠地ニ離ルヘカラス

第百六十五條　「ジレクトワール」ノ官員ハ已ノ家屋ノ内外ヲ論セス勤務ヲ掌ルトキハ必ス其禮服ヲ着セサルヲ得ス

第百六十六條　「ジレクトワール」ハ共和國ノ雜費ヲ以テ備ヘ置キタル警衛ヲ有ス右ハ歩兵百二十八騎兵百二十八ヲ以テ編制スルモノナリ

第百六十七條　公禮式ノ節「ジレクトワール」ハ第一ノ列ヲ爲ス且其警衛ハ必ス伴フヘシ

第百六十八條　「ジレクトワール」ノ各官員ハ他出スル毎ニ警衛隊ノ二人ヲ伴フ可シ

第百六十九條　「ジレクトワール」ノ全官或ハ「ジレクトワール」ノ各官員番所ノ前ヲ通行スルトキハ番兵最上ノ禮式ヲ行フ可シ

第百七十條　「ジレクトワール」ハ公然ノ使者四人ヲ用ユ「ジレクトワール」ハ其使者ヲ任職シ且免職スルヲ得可シ右使者ハ「ジレクトワール」ノ書狀及見込書ヲ民選議院ノ兩院ヘ持參スル者ナルニヨリテ兩院ノ會議所ニ入ルヿノ權ヲ有ス公然ノ使者出行毎ニ使吏二人其前導ヲ爲ス可シ

第百七十一條　「ジレクトワール」ハ民選議院集合スル處ノ邑ニ住居ス可シ

第百七十二條　「ジレクトワール」ノ官員ハ同館ニ住居スヘシ且其住居ノ雜費ハ共和國ヨリ之ヲ出ス可シ

第百七十三條　「ジレクトワール」ノ各官員ノ俸給ハ年々麥五萬「ミリヤグラム」量目ノ直ニ定ムルヿナリ

第百七十四條　州政官（アドミニストラシヨン、サントラル）一箇アリ各區ニ少クトモ邑政官（アドミニストルシヨン、ムニシパル）一箇ヲ設クヘシ

第百七十五條　凡州政官邑政官ノ官員ハ二十五歲以上ノ者ナラサルヲ得ス

第百七十六條　宗系ノ親屬及卑屬兄弟伯叔父及姪及右同級ノ姻屬ノ親ハ同時ニ同州ノ州政官或ハ同區ノ邑政官ノ官員トナル能ハス且右官員退職ノ後二年ヲ過キサレハ其官員ノ右ニ定タル親屬及姻屬ノ親同州ノ州政官或ハ同區ノ邑政官ニ勤仕スヘカラス

第百七十七條　各州ノ州政官ハ五人ヲ以テ編制スル者ニシテ每年

官員一員ヲ改選スルヲ以テ其全官ヲ五年目ニ變改ス

第百七十八條　居住人五千人ヨリ十萬人迄ノ邑ニ於テハ格別ノ邑政官有ル可シ

第百七十九條　凡居住人四千四百九十九人以下ノ邑ニ於テ邑政官吏一人及副官一人有ル可シ

第百八十條　一區ノ各邑ノ邑政官吏ノ總會ハ區ノ邑政官ナリ

第百八十一條　各區ニ於テ其邑政官吏ノ內選任シタル區ノ邑政長有ル可シ

第百八十二條　居住人五千人ヨリ一萬人迄ノ邑ニ於テハ邑政官吏五人アルヘシ居住人一萬人ヨリ五萬人マテハ邑政官吏七人五萬人ヨリ十萬人マテハ邑政官吏九人アルヘシ

第百八十三條　居住人十萬人以上ノ邑ニ於テハ邑政官三人以上アルヘシ右邑政官ノ區部ヲ定ルニ各邑部ノ居住人ノ數ハ三萬人ヨリ少ナカラス五萬人ヨリ多カラサル樣爲スヘシ右邑部ノ邑政官ハ七人ヲ以テ編制ス

第百八十四條　數箇ノ邑政官ニ分レタル邑ニハ其邑ノ總体ノ人民ニ管スルニヨリテ分ツ可ラサル邑務ヲ掌ル中央局アルヘシ民選議院ハ其分ツヘカラサル用向ト右中央局ハ州政官ヨリ委任シ且シレ見做スヘキ事件ヲ定ヘシ

クトワール」ヨリ定立シタル官員三人ヲ以テ編制スルモノナリ

第百八十五條　凡邑政官ノ官吏ハ二年間委任シ且每年其官員ノ半數ヲ改選スヘシ若シ其半數ヲ改選スル能ハサルトキハ半數ノ最近キ數ヲ改選シ其翌年ニ至リ改撰セシ人數ヲ全數ヨリ差引殘員ノ數ヲ改選スルヲ以テ續キノ邑政官ノ官吏ノ全部ヲ二年目ニ改選スヘシ

第百八十六條　州政官ノ官吏及邑政官ノ官吏ハ續キテ右職ヲ再度

選任サルヽヲ得ヘシ

第百八十七條　凡二度續テ州政官或ハ邑政官ノ官吏ニ選任シ其職ヲ兩度勤シ後二年間ヲ過キシト上ナラサレハ新ニ右職ニ選任セラルヘカラス

第百八十八條　州政官或ハ邑政官ノ官吏ノ内一人或ヒハ數人死去免職或ハ他ノ事故ニヨリテ缺役スルトキハ其殘リ官吏ハ自ラ假ノ官吏ヲ選擧シ其後ノ州政官或ハ邑政官ノ選立ノ期限マテ之ヲ勤ムヘシ

第百八十九條　州政官或ヒハ邑政官ハ民選議院或ハ「ジレクトワール」ノ決定ヲ變改シ又其執行ヲ停止スル能ハス右ハ裁判官ニ屬スル事務ニ管スヘカラス

第百九十條　州政官及邑政官ハ己ノ領地ニ直稅ヲ配賦スルヿ及其領地ノ歲入ヨリ出ス金錢ヲ檢査スルヿヲ特任ス右ノ用務及都テ他ノ施政ノ分ニ就テ州政官及邑政官ノ職務ノ法式ハ民選議院之ヲ定ム

第百九十一條　「ジレクトワール」ハ各州政官及各邑政官ノ側ニ己ノ委任シタル名代ヲ立シムヘシ其名代ハ「ジレクトワール」ヨリ免職スルヲ得ヘキ者ニシテ法律ノ執行ヲ請求シ且之ヲ檢査スルヿナリ

第百九十二條　各州政官及各邑政官ノ側ニ勤ムル「ジレクトワール」ノ名代ハ其州政官或ハ邑政官ヲ設立シタル州内ニ一年以上住居シタル國民中ヨリ選擧セサルヲ得ス且其年齡二十五歲以上ノ者タルヘシ

第百九十三條　邑政官ハ州政官ノ配下ニアリ州政官ハ諸卿ノ配下

コアリ依テ各卿ハ該省ノ事務ニ管スル州政官ノ處置法律或ハ上官ノ命令ニ背クトキハ之ヲ廢止スルヲ得ヘシ又邑政官ノ處置法律或ハ其上官ノ命令ニ背クトキハ州政官之ヲ廢止スルヲ得ヘシ

第百九十四條　諸卿ハ法律或ハ上官ノ命令ヲ犯ス州政官ノ官吏ヲ停職スルノ權ヲ有シ州政官ハ邑政官ノ官吏ニ對シテ同樣ノ權ヲ有ス

第百九十五條　孰レノ處置ノ廢止或ハ官吏ノ停職ニモ「シレクトワール」ノ公然ノ裁決ヲ經タル後ナラテハ確定ノモノトセス

第百九十六條　「シレクトワール」ハ州政官及邑政官ノ處置ヲ直ニ廢止スルヲ得ヘシ且州政官ノ官吏或ハ區ノ邑政官ノ官吏ヲ直ニ褫職シ或ハ停職スヘキト思慮スルトキハ之ヲ爲ヲ得又場合ニヨリテ其官吏ヲ州ノ裁判所ヘ送ルヲ得ヘシ

第百九十七條　前條ニ從テ處置ノ廢止或ハ官吏ノ褫職ヲ記シタル決定書ニハ其譯ヲ記入スヘシ

第百九十八條　同州ノ州政官ノ五人ノ官吏共褫職サル、トキハ督理官ハ州政官ノ後ノ任選マテハ代役ヲ自ラ任スヘシト雖モ其代役ヲ同州ニ於テ已ニ州政官ノ役ヲ勤シ者ノ內ヨリ選擧スヘシ

第百九十九條　州政官及區ノ邑政官ハ法律ヨリ己ニ委托シタル事務ニ付テノミ往復スルヲ得ヘキ「コンシテ」共和國ノ總体ノ用務ニ付テ之ヲ爲ス能ハス

第二百條　凡州政官及邑政官ハ年々其掌管シタル總事務ニ就テ復命ノ届書ヲ差出スヘシ但右届書ヲ板刻スヘシ

第二百一條　都テ州政官及邑政官ノ決定書ハ其局ニ備ヘ置タル簿冊ニ記入シ且其簿冊ノ看覽ヲ人民ニ免スヲ以テ之ヲ公然ニナス

ヘシ

但右簿冊ハ六ケ月目ニ之ヲ釘シ且之ヲ釘シタル後ノミ其局ニ備ヘ置クヘシ尤民選議院ハ之ヲ備ヘ置クタメ定タル時間ヲ延期スルヲ得ヘシ

○佛蘭西　一千七百九十九年

第三十九條　政事ヲ支配スルノ權ハ宰相三人ニ委托スルヿナリ其「コンシユル」ハ十年限リ委任スル者ト雖ヒ幾度ヲ限ラス復任セラルヽヲ得ヘシ○右三人ノ「コンシユル」ハ各別ニ委任スル者ニシテ第一等ノ「コンシユル」第二等ノ「コンシユル」第三等ノ「コンシユル」ノ位號ヲ之ニ附加ス可シ

今般建國法ニ於テ右ノ爲メ左ノ國民ヲ委任スルヿナリ

第一等「コンシユル」元ト假リノ「コンシユル」ノ職役ヲ勤シ堡那巴氏

第二等「コンシユル」元司法卿ノ役ヲ勤シ「カンバセレス」氏

第三等「コンシユル」元ト元老院ノ委員ヲ勤メシ「ロブロン」氏○但第三等ノ「コンシユル」ハ五年限リノミ委任ス

第四十條　第一等ノ「コンシユル」ノ職務ハ他ノ「コンシユル」ノ職務ト格別ナリ○如シ第一等ノ「コンシユル」出勤スル能ハサルトキハ己ノ同役ノ内一人假リニ其職務ヲ代理スヘシ

第四十一條　第一等ノ「コンシユル」ハ法律ヲ班布シ國議院ノ議官ト特命全權大使及他ノ公使ト海陸軍ノ士官ト各所ノ行政官及裁判所ノ檢事役トヲ隨意ニ委任シ且免職スルヿナリ又治安裁判役及覆審院ノ裁判役ヲ委任スト雖ヒ之ヲ免職ス可カラス

第四十二條　前條ニ記シタル用務ノ外都テ他ノ處分ニ就テハ第二等及第三等ノ「コンシユル」ハ評議ノ權ヲ有スヘシ右「コンシユル」ハ其出席ヲ證明スル爲メ議事ノ簿冊ニ調印ヲナシ且己ノ存意モ之ニ記スルヲ得ヘシ尤之ヲ記セシ上事ノ決定ハ第一等ノ「コンシユル」ノ獨意ヲ以テ之ヲリスヲ得ヘシ

第四十三條　第一等ノ「コンシユル」ノ年給ハ千七百九十九年中ハ五十萬「フラン」我カ十錢也ト定メ第二等及第三等ノ「コンシユル」ノ年給ハ第一等ノ「コンシユル」ノ年給ノ十分ノ三ト定ム

第四十四條　政府ハ法律ヲ勸告シ及法律執行ノ爲メ要スル規則ヲ設ク

第四十五條　政府ハ國ノ出入金高ヲ定ル各年ノ法律ニ從テ國ノ出入金ニ管スル事務ヲ指導シ貨幣ノ鑄造ヲ注意ス但貨幣ノ發行ト位價ト重量及摸樣ヲ決スル者ハ法律ナリ

第四十六條　國家ニ對シテ謀叛ヲ企ツル者アルヲ聞及フトキハ其謀叛ノ首謀及附從ナリト着意スル者ニ向テ捕票ヲ發ルヲ得可シ尤其捕ヘタル日ヨリ十日ヲ經テ之ヲ放免シ或ハ規則ニ從テ裁判所ヘ訴ヘサレハ右捕票ヲ調印セシ卿ハ不法ノ捕留ノ罪ヲ犯セシ者トス

第四十七條　政府ハ國內ノ安寧及國外ノ防禦ニ備ヘ海陸軍ノ兵ヲ全領分中ニ配置シ且其動用ヲ定ム

第四十八條　出行保國兵ハ行政ノ規則ニ服從ス可シ在地ノ保國兵ハ法律ニノミ服從ス

第四十九條　政府ハ外國ト政事上ノ交際ヲ守行シ諸談判ヲ指導シ假ノ定約ヲナシ都テ平和ト同盟ト戰爭ノ廢止ト局外中立ト貿易

トノ定約及他ノ都テノ條約ヲ結ヒ及之ヲ花押セシム

第五十條　起戰ノ告書ト平和同盟(コンパンション)及貿易ノ定約書ハ法律ト同樣ニ之ヲ勸告シ評議シ布告シ及班布シ及班布スヘシト雖ヒ右ニ付テノ第一等ノ民選議院及民選議院ニ爲シタル評議及議決ハ政府ノ願ニヨリ之ヲ內密ノ會議ニ爲スヲ得ヘシ

第五十一條　一箇定約ニ期シタル內密ノ箇條ヲ以テ公然之ニ記シタル定約ノ箇條ノ意ヲ取消ス可カラス

第五十二條　國議院ハ宰相ノ指導ヲ受テ法律ノ議案及行政ノ規則ヲ作リ及施政ノ事ニ付テ起ル所ノ難事ヲ裁斷スルヿヲ委托セラル

第五十三條　民選議院ニ於テ政府ノ名ヲ以テ發議ヲ爲スヘキ者ハ始終國議院內ヨリ之ヲ選拔スルヿナリ一箇ノ法律議案ノ論ヲ助クルニ議官三人以下ヲ民選議院ヘ送ルヲ得ヘシ

第五十四條　諸卿ハ法律及行政規則ヲ執行セシム

第五十五條　政府ノ孰レノ決定書ト雖ヒ卿一人之ニ加印セサレハ効ナカルヘシ

第五十六條　諸卿ノ內一人ヲ定メ國帑ノ支配ヲ之ニ委托ス即此卿ハ金錢ノ上納ヲ實正ニシ法律ニ從テ金錢ヲ遞送スヘキヿ及拂渡スヘキヿヲ命スヘシ右卿ハ金子ヲ拂渡サシムルニ左ノ規則ニ從フヘシ

第一　其金子ヲ拂フヘキト定ル法律有ラサレハ之ヲ爲スヘカラス且之ヲ拂フヘキト定ル法律アルニ於テハ其法律ニ記シタル金高ノミヲ拂渡ヘシ

第二　其金子ヲ拂渡スヘキノ政府ノ決定ニ非ラサレハ之ヲ爲

スヲ得ス

第三　卿一人ヨリ調印シタル手形ニ依リテノミ之ヲ爲ス可シ

第五十七條　各省ノ雜費ノ明細計算書ハ其卿之ニ實正ヲ證スルノ奥書ヲ加ヘ且之ニ檢査印ヲ調セシ上之ヲ公布ス可シ

第五十八條　政府ニ於テ國議院議官或ハ卿ノ役ニ委任シ且續キテ用ユルヲ得ベキ者ハ公用職役ニ任スルヲ得ヘキ國民ノ全國連名書ニ記名シタル者ニ限ル

第五十九條　各邑ノ管轄或ハ邑ヨリ大ナル領分ノ爲メ設タル地方ノ施政官ハ諸卿ノ被官ナリ孰レノ人モ第七條及第八條ニ記シタル連名書ノ内一通ノ連名書ニ記名シタル者ナラサレハ右施政官中ノ役ニ任スルヲ得ス又右施政官中ノ役ヲ勤シ者ト雖ヒ如シ其名ノ右連名書ニ於テ取消サルヽトキハ退役セサルヲ得ス

第七十二條　諸卿ハ左ノ件々ニ付テ必ス責ヲ任スヘシ

第一　自己ノ調印セシ都テノ政府ノ決定ノ内其建國法ニ背キタル旨ヲ元老院ヨリ申立テラレタル決定

第二　法律及行政規則ヲ執行セサル事

第三　建國法ト法律ト行政規則ヲ犯シテ己ノ憑シタル格別ノ命令

第七十三條　前條ニ記シタル場合ニ於テハ第一等ノ民選議院ハ公書ヲ以テ其卿ヲ民選議院ヘ訴ヘ民選議院ハ本人ヲ召シ或ハ其論ヲ聞シ後平常ノ法式ニ從テ其公書ニ付テ決議ヲ爲ス可シ民選議院ノ布令ニヨリ裁判スヘキ卿ハ大審院一箇所之ヲ裁判スヘシ但右裁判ヲ控訴裁判所及覆審裁判所ヘ控訴スルヲ得ス○大審院ハ裁判役及陪審ヲ以テ編制スル者ニシテ右裁判役ハ覆審院ニテ己

ノ裁判役中ヨリ選任スヘシ陪審ハ全國連名書ニ記名シタル國民中ヨリ選任スヘシ但右選任ハ法律ニ定タル法式ニ從テ之ヲ爲ス可シ

第九十條　孰レノ官モ其編制スル官員少クモ三分ノ二出席セサレハ決議ヲナスヲ得ス

第九十一條　佛蘭西屬國ノ行政ノ体裁ハ格別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ

○佛蘭西一千八百十四年

第三十八條　政府ノ孰レノ決定モ一省ノ事務ヲ總理スル卿一人此決定ノ告書ニ加印セサルヲ得ス

第三十九條　諸卿ハ己ノ加印シタル政府ノ決定ニ付テ責ニ任シ且法律ノ施行ニ付テモ責ニ任ス

第七十三條　屬國ノ政治ニ付テハ格段ノ規則ヲ設ク可シ

○佛蘭西一千八百五十一年

○千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ制定シタル憲法

第四十九條　共和政治ノ大統領ハ參議官ノ上席ヲ爲シ若シ大統領不在ノ時ハ大統領ヨリ參議官副長ノ任ヲ與ヘタル者其上席ヲ爲ス可シ「千八百五十二年十二月廿五日換フ」

第五十七條　邑政ノ規則ハ別段ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ○邑長ハ行政官ヨリ之ヲ任ス可ク邑會議院ノ員外ニ於テ選擧スルヿヲ得可シ

○佛蘭西一千八百五十二年

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八百五十二年十二月二十五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第三條　憲法第六條ニ循ヒ結ヒタル貿易ノ條約ハ其條約ニ於テ裁定シタル稅則ヲ改更スルト雖ヒ猶法律ノ力アリトス

第四條　公同ノ資益トナル可キ諸般ノ工業殊ニ千八百三十二年四月廿一日ノ法律ノ第十條及ヒ千八百四十一年五月三日ノ法律ノ第三條ニ記スル工業並ニ其他總テ國ノ裨益トナル可キ諸般ノ起作ハ皇帝ノ勅書ヲ以テ之ヲ命令シ又ハ允許ス可シ

此勅書ハ行政規則ノ爲メ定メタル法式ニ從ヒ之ヲ記ス可シ

然ヒ政府ノ會計局ニ於テ人民ト契約ヲ結ヒ又ハ人民ヲ資助シテ工業及ヒ起作ヲ爲サントスル時ハ其工業及ヒ起作ヲ爲ス前ニ法律ヲ以テ其金額ヲ備フ可キヿヲ允許シ又ハ其契約ヲ允准ス可シ政府ノ利益ノ爲メノミニ施行ノ人民ニ任ス可カラサル種類ノ工業ヲ急速ニ行ハント爲ス時ハ臨時費用ノ金額ヲ備フ可キ爲メ定メタル法式ヲ以テ其金額ヲ備フ可シ但シ議院ノ最近ノ集會ノ時其旨ヲ告ケテ其允許ヲ受可シ

○英吉利

卷一第四十五條　凡ソ審判官保長州官及縣官等ノ職ハ法律ヲ能ク熟知シ且之ヲ固守スル者ニ非レハ決シテ之ニ任スヘカラス

第四十八條　凡森林兎園及森林官兎園官河渠及河渠保縣官幷ニ其屬吏ノ慣習規則等弊害アル者ハ直ニ之ヲ審査セン爲ニ先ツ各州ニ於テ其州良民ヲシテ其州ノ大夫十二人ヲ撰舉セシメ且之ヲシテ誓詞ヲ立シメ審査ノ後先ツ之ヲ朕又大審判官長ニ告ケ四十日

內ニ其弊害ヲ悉ク除去シ以後再ヒ之ヲ釀成セサル樣ニ爲スヘシ

卷五第六章　凡宰相百官ハ將來子孫萬世ニ至ル迄必ス此法律ニ由リ以テ時ノ皇帝ヲ輔佐セスンハアルヘカラス○大臣ノ責任定ル

第七章○第八章　以上三章ハ第一章二章等ニ伸明シタル條件ヲ巴里門ニ於テ古例ノ文體ニ改メ再ヒ伸明シ以テ永世ノ國法ト爲スヲ證スルノ文也故ニ之ヲ略ス

各省ヲ設ル每ニ必ス左ノ事務執政ヲ立ツ則チ會計事務宰相大璽官樞密議長樞璽官租稅事務宰相內國事務宰相屬州事務宰相印度事務宰相陸軍事務宰相等是ナリ尙他ニ事務宰相アリテ通常席ヲ省內ニ取ル其數五人ヨリ八人ニ變リ始終一定セス就中百工事務宰相海軍事務宰相通商事務宰相樞密議官副長驛遞事務宰相愛爾蘭事務宰相救民事務宰相等是ナリ而メ其位高ク或ハ才德頗ル顯著又時ノ輕重ヲナシ或ハ須要ノ助ヲ與ヘ若クハ其用省內ニ願ハシキ人ヲ舉テ此員ニ充ルト云フ

一千八百六十八年十二月九日ニ舉リ一千八百七十年并ニ一千八百七十一年ニ改リシ現今ノ各省官員左ノ如シ

會計事務宰相　大璽官
樞密議長　樞璽官
收稅事務宰相　內國事務宰相
外國事務宰相　屬州事務宰相
印度事務宰相　陸軍事務宰相
海軍事務宰相　通商事務宰相
愛爾蘭事務宰相　教學事務宰相
地方事務宰相　驛遞事務宰相等是ナリ

○普魯西

第九十八條　法官ヲ除クノ外諸官吏ヨリ政府代言人ニ至ル迄ノ普西ニ於テ代言人ハ特權ハ法章之ヲ定ム其法章ハ官吏政府ノ撰任政府官吏ノ一タリ上官ハ國王之ヲ任シ專横ノ處置ニ屬スルヿヲ制限セスト云ヒ下官ハ上官之ヲ任ス官吏ヲ罷免スルヿヲ得逆テ之ヲ保護ス普魯西ノ法長官妄ニ所屬官吏ヲ罷免スルヿヲ得ス必ス紀律裁判ヲ經由ス紀律裁判ハ伯耳靈府ニ在リ裁判官員十一人其中四人ハ大法院ノ法官之ニ充ツ凡官吏不律ノ事アレハ其本屬長官ヨリ紀律裁判ニ訴ヘ裁決ヲ得テ始テ罷免スルヿヲ得又所屬官吏長官ヨリ出タル不當ノ指揮ヲ奉行セサルヿヲ得ルヿ法ノ保スル所タリ此レ它國無キ所ナリ

○澳地利

第三篇第五條　通國事務ノ管理ハ其責任ヲ負フタル「通國事務執政官」ニ委任スヘシ但該執政官ハ帝國ノ各部ニ特殊ナル事務ヲ兼掌スルノ權ヲ有セス○全國軍ノ指揮及編制ヲ規定スルノ權ハ特ニ皇帝ニ屬ス

第四篇第九條　執政ハ各其職掌トスル政治ニ於テ法律及憲法ヲ枉ケサルノ責ニ任ス○執政ノ責任劾告セラレタル執政ヲ處斷スルニ任スル法院及踐守スヘキ訴訟手續ハ別法之ヲ定ム

第十一條　太政官ハ其權限ヲ守リテ命令ヲ公布シ訓條ヲ下スノ權ヲ有ス及法ニ循ヒタル條例ト同ク右命令訓條ヲ强テ遵守セシムル權ヲ有ス○法律ヲ執行スルタメニ行政官ニ附スル權及世治平寧ヲ保スルタメニ常備シ若クハ臨時徵募スル軍兵ノ使役ハ別法之ヲ定ム

第十二條　凡テ政府ノ官吏ハ其職務ヲ執行スルニ於テ建國法ヲ遵奉シ及國法州法ヲ以テ規定スル事務ヲ管理スルニ於テ該法律ヲ

踐守スルノ責任アリ○右責任ヲ實踐セシムルハ該官吏ヲ統理シ及之カ規律ヲ執ル所ノ行政長官ニ屬ス○律法ニ背キタル命令ヲ發シテ權理ヲ侵犯スル責任官吏ヲ何如シテ處斷スヘキヤハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條　凡テ太政官吏ハ憲法ヲ固守シテ侵サヽルノ誓ヲ述フヘシ

○米利堅

第一條第十三節第十七　某州ヨリ讓リ且議院ノ許ニ依テ國ノ政府ト爲ルヘキ地方十方里ニ過クヘカラスヲ管轄シ專ラ議政ノ權ヲ行ヒ又各州議政官ノ協議ヲ以テ堡臺火藥局武庫修船所等其他緊要ノ築造ヲ設ケシ爲メ買フ所ノ地ハ都テ同樣ノ權ヲ行フヘキ事

第一條第十三節第十八　上ニ記載スル權力及此憲法ニ依テ合衆國政府或ハ其局省若クハ官吏ニ附スル一切ノ權力ヲ行フニ至當必要ノ法ヲ立ル事

○白耳義

第八十六條　生レテ白耳義人タル者若クハ大歸化ヲ得タル者ニ非レハ執政タルヿヲ得ス

第八十七條　王族ハ執政タルヿヲ得ス

第八十八條　諸執政ハ其議員タル時ニ非レハ兩院ニ於テ公評ノ權ヲ有セス議員ヲ兼ルノ執政ハ公評ノ權ヲ有ス○諸執政ハ各院ニ參入ノ權ヲ有ス諸執政ヨリ要求スル時ハ議院必ス其陳議ヲ聽クヘシ○兩院ハ諸執政ノ出頭ヲ求ムルヿヲ得

第八十九條　何等ノ時ニ於テモ國王言辭若クハ文書ノ命令ヲ以テ諸執政ノ責ヲ解クヿヲ得ス議院ノ論告ニ任ス

第百三十七條　千八百十五年八月廿四日ノ基法ヲ廢シ幷ニ州法邑法ヲ廢ス○然ルトモ州官邑官ハ法章別ニ定ムル所アルニ至ル迄其權任舊ニ依ル

○瑞典

第五款　內閣大臣ハ其數十員ヨリ成リ國中ノ萬機ヲ商議スヘシ父子兄弟同時ニ此職ニ在ルヲ許サス

第六款　內閣大臣十員ノ內七員ハ各一課ヲ分掌シテ各省ノ長官タルヘシ即チ司法省ヲ掌ル者ヲ司法國相ト云ヒ外務省ヲ掌ル者ヲ外務國相トス軍務省ノ事ヲ申報スル者ヲ國相ノ長ト云フ此大臣ハ兵馬ノ事ニ就キテハ國王ノ參謀ヲ兼ヌ又一員ハ海務省ノ長官ニシテ海軍ノ事ニ就キテ國王ノ參謀ヲ兼ヌ其他ハ內務省會計省數學省ノ長官一員タリ○諸省事務ノ分課ハ國王特ニ規則ヲ出シテ之ヲ定ムヘシ○省卿ニ兼任セサル三員ノ大臣內二員ハ必ス從來官途ニ在テ政務ニ經練セシ者ヲ要ス

第七款　政府ノ萬機ハ第十一款第十五款ニ揭ルヲ除クノ外一切之ヲ內閣ニ於テ國王ニ奏聞シテ決定ス可シ

第九款　內閣ニ於テ國王ニ奏スル所ノ萬機ハ總テ其草案ヲ作リ當時在職ノ大臣必ス其意見ヲ述ヘ之ヲ草案ニ加ヘ而メ其商議ニ預ルヘキヲ以テ第百六款第百七款ニ揭ルカ如ク其責ニ任スルヲ要ス然ルトモ之ヲ決定スルハ獨リ國王ニ限ル可シ然ト雖モ萬一國王ノ決定スル處王國ノ憲法ニ戾リ或ハ當時所行ノ律令ニ違フ事判然

タルニ於テハ內閣大臣切ニ之ヲ諫爭シテ其事ノ施行サレサルヲ要ス○內閣大臣機務ノ草案ニ反對シタル意見ヲ書セサル者ハ乃チ國王ト商議シテ俱ニ之ヲ決定シタル者ト看做シテ其責ニ任ス可シ

第十款　內閣ニ於テ機務ヲ國王ニ奏聞スルトキハ預シメ其奏者之カ草案ヲ作リ適當ノ官員ニ出シ其贊助ヲ請フヘシ

第二十九款　大敎正敎正ノ撰擧ハ從來ノ規例ニ照シテ執行スヘシ即チ侯補ノ者三名ヲ申題シ國王其中ノ一名ヲ撰任ス可シ

第三十款　國王ハ從來ノ規例ニ隨テ王室ノ敎師ヲ命ス可シ右敎師ヲ推薦スルハ其敎會ノ權ニ在ル可シ

第三十二款　外國政府ニ派遣スル處ノ諸公使幷其屬員ヲ宣命スル時ニハ國王必ス國務宰相及外務宰相ノ特命ヲ以テ召出シタ

ル內閣大臣ノ面前ニ於テ執行スヘシ

第三十三款　凡テ官職ニ缺ヲ生スルトキハ國王其侯補者ヲ撰ヒテ之ヲ補セントスルニ方テハ內閣大臣ニ於テ右人物ノ賢否ヲ論シ國王ヲ諫メテ之ヲ阻止スルノ權アリ

第三十四款　國務ノ諸宰相ハ國中人臣ノ極位ト爲リ而シテ內閣大臣之ニ亞ク此宰相大臣ハ在職中他ノ職掌ヲ勤メ他ノ俸ヲ貪ム可ラス司法大臣モ亦然リ

第四十七款　第一等ノ小法院(ホフ、ラットル)及其他ノ法院ハ須ラク法律幷ニ法律ト同シキ効用アル諸規則ニ從テ諸案件ヲ裁判ス可シ○國中行政ノ諸官局地方ノ政廳其他大小ノ行政官吏ハ須ラク其職分ヲ盡シテ協同シテ管內ノ事務ヲ辨理シ苟モ王事ニ屬スルモノハ勤テ怠タル可ラス都テ法律ノ成規ニ於テ官吏ノ怠慢ニ出テ或ハ非法ノ